

やさいマンスリーレポート（令和4年2月）

発行日：令和4年2月8日

1 野菜の生育状況及び価格見通し〔令和4年2月〕（農水省調査）

＜ポイント＞～2月は、にんじん（2月前半）、はくさい、ねぎが安値の見込み～

- ・ にんじんは、生育が良好であり、潤沢な出荷が見込まれるため、2月前半の出荷数量は平年をやや上回り、価格は平年を下回る見込みであるが、2月下旬にかけて、関東産の出荷が終盤に向け減少するため、2月後半の出荷数量、価格ともに平年並みに戻る見込み。
- ・ はくさいは、生育が良好であり、潤沢な出荷が見込まれるため、2月の出荷数量は平年をやや上回り、価格は平年を下回る見込み。
- ・ ねぎは、生育が良好で、太物傾向であり、潤沢な出荷が見込まれるため、2月の出荷数量は平年をやや上回り、価格は平年を下回る見込み。
- ・ ばれいしょは、干ばつ等の影響で、玉肥大が進まず、小玉傾向であり、鹿児島（本土産）においても、玉付きが少ないため、2月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。
- ・ たまねぎは、干ばつ等の影響で、玉肥大が進まず、小玉傾向であるため、2月の出荷数量は平年を下回り、価格は平年を上回る見込み。
- ・ その他は出荷数量・価格ともに平年並みで推移。
- ・ 掲載先：https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/yasai_zyukyu/index.html

2 野菜の卸売価格動向〔2月5日 東京都中央卸売市場〕（ALIC調査）

＜ポイント＞

- ・ 平年比で価格が上がったものは、たまねぎ（平年比 168%）、ばれいしょ（同 159%）、レタス（同 124%）、ほうれんそう（同 109%）、ピーマン（同 108%）、きゅうり（同 102%）及びブロッコリー（同 101%）の7品目、平年比で価格が下がったものは、トマト（同 98%）、だいこん（同 90%）、なす（同 89%）、さといも（同 85%）、キャベツ（同 85%）、ねぎ（同 75%）、にんじん（同 60%）、はくさい（同 49%）及びの10品目となりました。
- ・ 掲載先（ベジ探）：
<https://vegetan.alic.go.jp/price-trends/changes-arrivals-prices.html>

3 野菜の小売価格動向

（1）主要野菜14品目（令和4年1月分）（9都市100店舗）（ALIC調査）

＜ポイント＞

- ・ 調査対象14品目のうち、前月比で価格が下がったものは、はくさい（前月比 99%）、トマト（同 83%）の2品目、価格が上がったのは、キャベツ（同 124%）、白ねぎ（同 116%）、青ねぎ（同 121%）、ほうれんそう（同 117%）、レタス（同 158%）、たまねぎ（同 103%）、きゅうり（同 113%）、

なす(同 102%)、ピーマン(同 108%)、だいこん(同 123%)、にんじん(同 105%)、ばれいしょ(同 108%)の 12 品目となりました。

- ・ 平年比で価格が下がったものは、キャベツ(平年比 68%)、白ねぎ(同 92%)、青ねぎ(同 89%)、はくさい(同 67%)、ほうれんそう(同 86%)、レタス(同 80%)、きゅうり(同 80%)、トマト(同 93%)、なす(同 89%)、ピーマン(同 85%)、だいこん(同 78%)、にんじん(同 99%)の 12 品目、価格が上がったものは、たまねぎ(同 170%)、ばれいしょ(同 142%)の 2 品目となりました。
- ・ 特売店舗数(東京 23 区・調査店舗数 20 店舗)は、キャベツ 3(前月 7)、白ねぎ 4(同 8)、青ねぎ 4(同 4)、はくさい 5(同 9)、ほうれんそう 5(同 6)、レタス 3(同 6)、たまねぎ 3(同 5)、きゅうり 8(同 6)、トマト 6(同 6)、なす 3(同 4)、ピーマン 6(同 6)、だいこん 4(同 10)、にんじん 5(同 5)、ばれいしょ 5(同 3)
- ・ 掲載先(ページ)：
<https://vegetan.alic.go.jp/retail-price-trends/price-trend-survey.html>

(2) 主要野菜 8 品目〔令和 4 年 1 月 24 日の週〕(農水省調査)

<ポイント>

- ・ 調査対象 8 品目(キャベツ、レタス、ばれいしょ、たまねぎ、トマト、にんじん、はくさい及びだいこん)の価格は、前週比で -4%~+6%、平年比で -28%~+62%の範囲内となっています。
- ・ 品目別には、キャベツ 157 円(平年比 72%)、レタス 546 円(同 81%)、ばれいしょ 467 円(同 134%)、たまねぎ 401 円(同 162%)、トマト 681 円(同 90%)、にんじん 335 円(同 94%)、はくさい 133 円(同 70%)、だいこん 142 円(74%)となっています。
- ・ 掲載先：https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/k_yasai/h22index.html

4 野菜消費動向(令和 3 年 12 月)(総務省統計局家計調査)

<ポイント>

- ・ 12 月の生鮮野菜の一人当たり購入数量は 4961g(前月比 106%、前年同期比 90%)
- ・ 上位 5 品目は、はくさい 455g(前月比 107%、前年同期比 85%)、キャベツ 441g(98%、94%)、だいこん 412g(95%、86%)、たまねぎ 399g(101%、81%)、にんじん 268g(115%、92%)
- ・ 掲載先(ページ)：<https://vegetan.alic.go.jp/vegetan/sch5.do?outPutKbn=1>

5 野菜輸入動向(令和 3 年 12 月)(貿易統計)

<ポイント>

- ・ 12 月の野菜輸入量：22 万 9689 トン(前年同月比 101%) (以下、割合は前年同期比)
うち生鮮野菜 6 万 3156 トン(同 109%)、冷凍野菜 9 万 5002 トン(同 97%)、塩蔵等野菜 6582 トン(同 106%)、乾燥野菜 4301 トン(同 102%)
- ・ 輸入野菜上位品目は、①生鮮野菜：たまねぎ 2 万 6953 トン(同 138%)、かぼちゃ 8409 トン(同 98%)、ごぼう 4107 トン(増減なし)、ねぎ 3718 トン(同 87%)、にんじん 3699 トン(同 49%)、ばれいしょ 3530 トン(純増)、ジャンボピーマン 2763 トン(同 125%)、にんにく 2247 トン(同 101%)、メロン 1360 トン(同 91%)、しょうが 1219 トン(同 92%)、

- ②冷凍野菜：その他の冷凍野菜 3 万 6337 トン（同 102%）、ばれいしょ 2 万 6820 トン（同 95%）、ブロッコリー 6959 トン（同 110%）、ほうれんそう等 5203 トン（同 88%）、えだまめ 4544 トン（同 89%）、③塩蔵等野菜：その他塩蔵等野菜 2304 トン（同 80%）、きゅうり及びガーキン 1973 トン（同 135%）、しょうが 1257 トン（同 129%）
- ・ 輸入先国上位 3 位は、①中国 13 万 4296 トン（増減なし）うちその他冷凍野菜 3 万 2470 トン（同 102%）、生鮮たまねぎ 2 万 5407 トン（同 132%）、その他調製野菜 1 万 2849 トン（同 98%）、②米国 3 万 1884 トン（同 104%）うち冷凍ばれいしょ 1 万 7375 トン（同 84%）、トマト加工品 4521 トン（同 186%）、生鮮ばれいしょ 3530 トン（純増）、③韓国 4613 トン（同 113%）うちジャンボピーマン 2335 トン（同 125%）、その他調製野菜 1680 トン（増減なし）、生鮮トマト 463 トン（同 127%）
- ・ 掲載先（ベジ探）：<https://vegetan.alic.go.jp/import-export-trends/latest.html>

6 野菜主産地の向こう 1 か月の気象情報（三浦、高松等 13 地点）（ALIC 調査）

<2/5～3/4 の気象傾向>

- ・ 予測地点：熊谷、銚子、横芝光、下妻、三浦、御前崎、伊良湖、豊橋、佐賀、島原、洲本、高松、徳島（13 地点：毎月初めにその時期の野菜産地に変更）
- ・ 関東甲信地方 気温は平年並かやや低くなるでしょう。日照時間はおおむね平年並となり、降水量は 2 週目でやや多くなる見込みです。
- ・ 東海地方 気温は平年に比べて 3 週目以降はやや低くなるでしょう。日照時間はおおむね平年並となり、降水量は 2 週目で多くなる見込みです。
- ・ 九州北部地方 気温と日照時間はおおむね平年並となる見込みです。降水量は 1 週目で少なくなり、4 週目でかなり多くなるでしょう。
- ・ 近畿太平洋側 気温と日照時間はおおむね平年並となる見込みです。降水量は 1 週目で少なくなり、4 週目でやや多くなる見込みです。
- ・ 四国地方 気温と日照時間はおおむね平年並となります。降水量は 1 週目で少なくなり、4 週目でやや多くなる見込みです。
- ・ 掲載先（ベジ探）：<https://vegetan.alic.go.jp/wp-content/uploads/kaisetsu.pdf>

7 毎月四季の野菜の栄養価・産地・レシピを紹介しています

- ・ 月報野菜情報で毎月四季の野菜 2 品目のビタミン・ミネラル・食物繊維の栄養成分と効能、特色ある産地・産品、1 人分の「おすすめ簡単レシピ」を紹介しています。2 月号は「丸ごと一本長ねぎごはん」「かぶと鶏そぼろのとなとろ煮」です。3 月号(2 月 25 日発行)のレシピは「ばれいしょとハムの炒めもの」「こまつなといかのバターじゃよう炒め」です。
- ・ 機構ホームページで、トマト、レタスなど 52 品目の「おすすめやさしいレシピ集」を紹介しています。
- ・ 掲載先（機構 HP）：https://www.alic.go.jp/y-kanri/yagyomu03_000001_00046.html

8 国産やさいマッチングサイト“ベジマチ”とオンライン商談会への参加者募集中です

- ・ 機構では、昨年 2 月 1 日にオンラインで野菜生産者と実需者の商談の場を提供する「国産やさいマッチングサイト“ベジマチ”」を開設しました。2 月 8 日時点の登録会員数は 282 名、うち生産者 196

名、実需者 86 名となっています。

- ・ “ベジマチ”では、オンラインで、「マイページによる商品・経営の情報発信」、「購入希望者や購入希望野菜などの検索」、「メッセージ機能を使った個別商談」、「掲示板を使った商品・経営の情報発信」など、いつでもどこでも無料で行うことができます。
- ・ オンライン商談会(1対1・非公開・無料)を、第14回 3月25日(金)、第15回 4月22日(金)、第16回 5月27日(金)に開催します。
- ・ 登録から利用まですべて無料となっておりますので、是非ご登録、ご活用をお願いします。
- ・ 掲載先(ベジマチ HP) : <https://www.vegemach.jp/>

9 やさいレポート(令和4年2月号)(ALIC調査)

- ・ 主要野菜8品目(キャベツ、たまねぎ、だいこん、にんじん、はくさい、レタス、きゅうり及びトマト)の卸売・小売価格、生育出荷、気象、消費、輸入の最新情報をまとめて紹介しています(毎月発行)
- ・ 別添ファイル「やさいレポート」(令和4年2月号)
- ・ 掲載先(ベジ探) : https://vegetan.alic.go.jp/yasai_report.html

本データは全てベジ探から入手できます。

詳細はベジ探をご覧ください。

ベジ探 : <https://vegetan.alic.go.jp/>

<問い合わせ先>

農畜産業振興機構

野菜業務部 管理課、野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793

やさいレポート（令和4年2月号）



キャベツ



発行日：令和4年2月8日

1. 卸売価格の動向

○93 円/kg（2月5日）

➢ 平年比：85%

○2月の価格見通し

平年並みで推移

（農林水産省、東京都中央卸売市場）

2. 小売価格の動向

○140 円/kg（1月全国平均）

➢ 前月比：124%、平年比：68%

➢ 東京：166 円（1玉）

➢ 大阪：161 円（1玉）

○特売店舗数／調査店舗数

➢ 東京：3/20（前月 7/20）

➢ 大阪：3/10（前月 6/10）

（機構調べ）

3. 家計消費動向

○441 g/人（12月全国平均）

➢ 前月比：98%

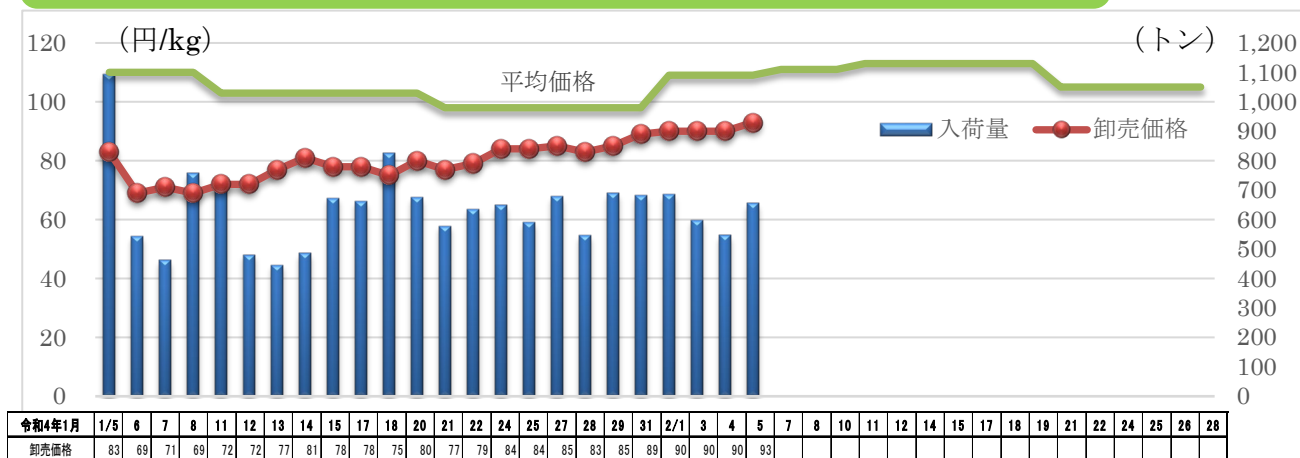
➢ 前年同月比：94%

○6,143 g/人（2020 年年間）

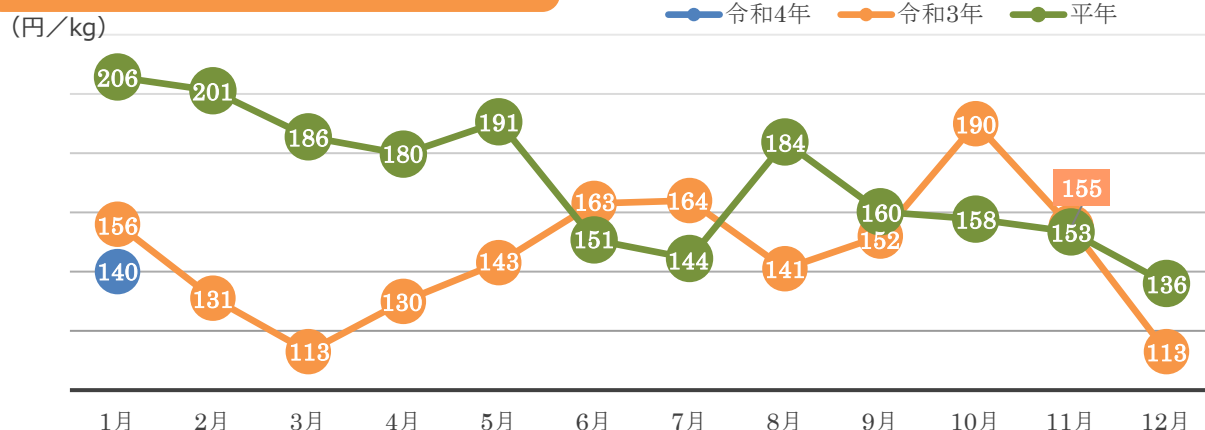
➢ 前年比：106%

（総務省統計局家計調査）

4. キャベツの卸売価格と入荷量の推移（東京都中央卸売市場）



5. キャベツの小売価格の推移



6. 主産地の生育・出荷動向

産地名	作付面積	作況	生育進度	出荷進度
愛知県田原市 (1/21)	前年並み	豊作	早い	早い
大阪府泉南 (1/12)	やや減少	平年並み	平年並み	平年並み
和歌山県和歌山 (1/27)	減少	良	平年並み	平年並み
鳥取県JA鳥取中央 (12/1)	減少	平年並み	平年並み	平年並み
福岡県JA北九 (12/8)	前年並み	やや不良～不良	遅い	遅い

※特記ない場合は平年比。() 内は調査日。

(機構調べ)



愛知県田原市：圃場の写真

7. 主産地の向こう1ヶ月の気象情報 (2/5~3/4)

予測地点	要素	予報期間							
		2/5 ~ 2/11		2/12 ~ 2/18		2/19 ~ 2/25		2/26 ~ 3/4	
		予報	平年	予報	平年	予報	平年	予報	平年
銚子	平均気温(℃)	5.5	6.6	7.3	6.9	5.9	7.4	7.3	8.1
	日照時間(時間)	49.6	40.2	27.0	39.2	37.7	38.5	32.6	36.6
	降水量(mm)	14.6	20.1	41.4	23.6	13.5	27.0	23.8	32.5
下妻	平均気温(℃)	4.7	3.5	5.5	4.0	4.8	4.7	6.0	5.6
	日照時間(時間)	61.2	46.7	35.7	45.5	44.1	45.0	39.0	42.2
	降水量(mm)	2.0	7.8	21.2	10.9	6.6	13.1	11.8	16.6
三浦	平均気温(℃)	6.1	6.6	7.2	6.9	6.2	7.5	7.4	8.2
	日照時間(時間)	48.0	44.8	33.0	42.8	41.5	41.6	33.1	40.1
	降水量(mm)	6.1	12.4	41.9	16.7	11.4	22.7	21.5	29.0
伊良湖	平均気温(℃)	5.4	5.8	6.8	6.3	5.6	6.9	7.3	7.8
	日照時間(時間)	51.2	44.0	30.4	43.4	47.1	43.9	39.7	44.6
	降水量(mm)	2.4	12.8	35.8	16.1	10.7	21.3	25.8	27.1
豊橋	平均気温(℃)	5.1	5.5	6.3	6.1	5.6	7.2	7.5	8.3
	日照時間(時間)	40.4	45.1	29.2	43.6	46.5	43.4	39.3	43.4
	降水量(mm)	6.4	13.9	38.0	18.2	12.6	25.1	25.4	34.3
佐賀	平均気温(℃)	7.5	6.2	7.9	7.0	6.8	7.9	8.4	8.7
	日照時間(時間)	40.0	33.8	20.3	34.7	38.7	36.1	34.4	35.8
	降水量(mm)	1.2	14.5	27.1	18.4	10.5	20.9	33.9	23.2

(機構調べ)

8. 輸入動向 (生鮮キャベツ)

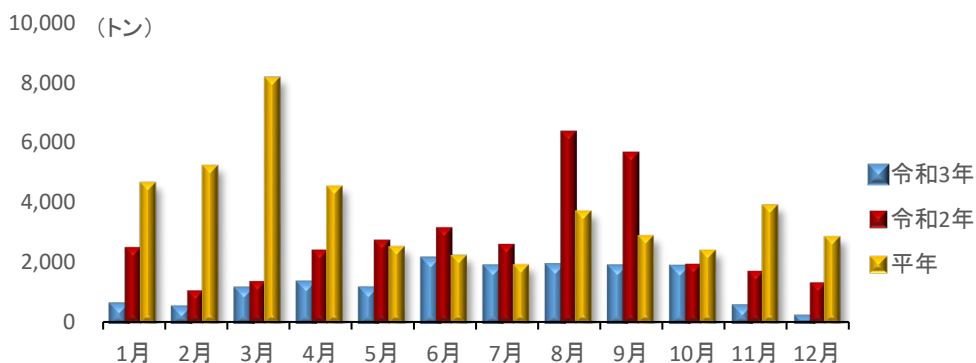
○126トン (12月輸入量)

➢ 前年同月比：10%

○輸入先国ベスト3

全量中国からの輸入

(財務省貿易統計)



9. 一口メモ

1月は、千葉産、愛知産などが、年内までの前進入荷や寒波等による気温低下により、市場入荷量の大幅な増加がなかったことから、価格は緩やかな上げ基調に転じたものの、平年を下回りました。

2月は、千葉産、愛知産を中心に、寒波等の影響を受けて結球、肥大が鈍化した玉の入荷となることから、市場入荷量は安定しつつも大きな増量等はなく、価格は平年並みの見込みです。

本データは全てベジ探から入手できます。
詳細はベジ探をご覧ください。

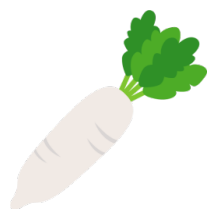
ベジ探 : <https://vegetan.alic.go.jp/>
<問い合わせ先>

農畜産業振興機構

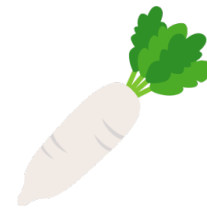
野菜業務部 管理課

野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793



だいこん



発行日：令和4年2月8日

1. 卸売価格の動向

○89 円/kg（2月5日）

➤ 平年比：90%

○2月の価格見通し

平年並みで推移

（農林水産省、東京都中央卸売市場）

2. 小売価格の動向

○144 円/kg（1月全国平均）

➤ 前月比：123%、平年比：78%

➤ 東京：170 円（1本）

➤ 大阪：186 円（1本）

○特売店舗数／調査店舗数

➤ 東京：4/20（前月 10/20）

➤ 大阪：0/10（前月 3/10）

（機構調べ）

3. 家計消費動向

○412g/人（12月全国平均）

➤ 前月比：95%

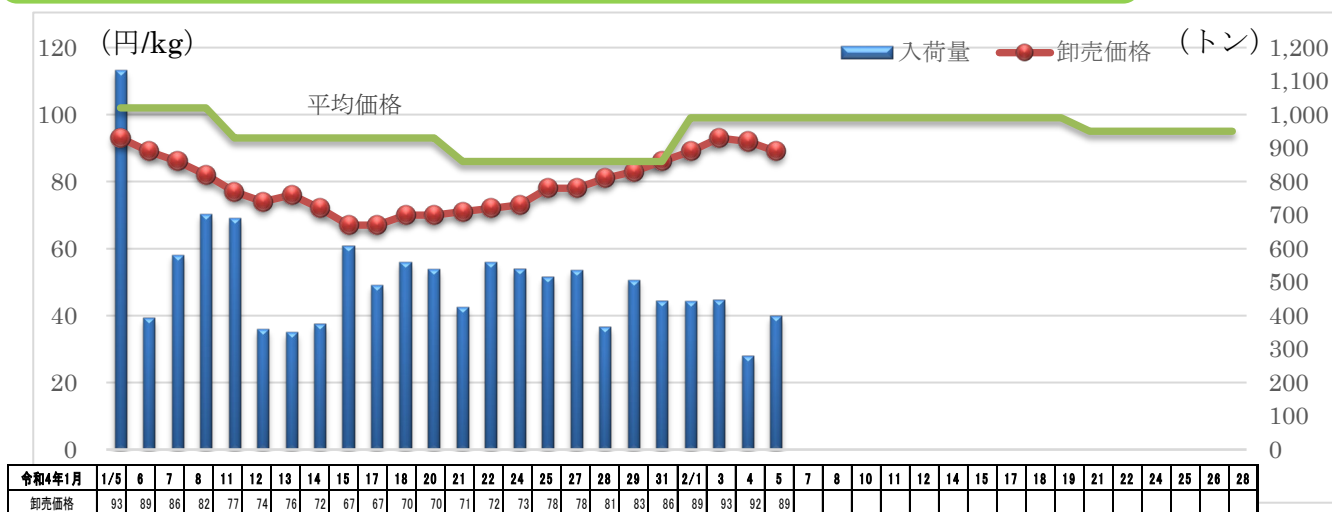
➤ 前年同月比：86%

○4,186g/人（2020 年年間）

➤ 前年比：104%

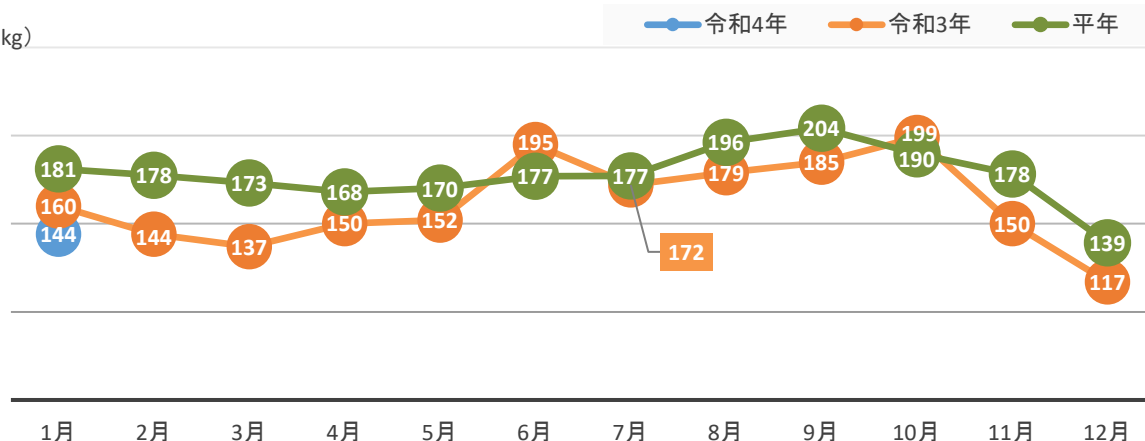
（総務省統計局家計調査）

4. だいこんの卸売価格と入荷量の推移（東京都中央卸売市場）



5. だいこんの小売価格の推移

（円/kg）



6. 主産地の生育・出荷動向

産地名	作付面積	作況	生育進度	出荷進度
和歌山県和歌山 (12/23)	前年並み	平年並み	早い	早い
徳島県里浦 (11/9)	やや減少	やや良	早い	早い
福岡県JA福岡市 (1/27)	減少	平年並み	平年並み	平年並み

※特記ない場合は平年比。()内は調査日。

(機構調べ)



福岡県 JA 福岡市：圃場の写真

7. 主産地の向こう1ヶ月の気象情報 (2/5~3/4)

予測地点	要素	予報期間							
		2/5 ~ 2/11		2/12 ~ 2/18		2/19 ~ 2/25		2/26 ~ 3/4	
		予報	平年	予報	平年	予報	平年	予報	平年
銚子	平均気温(℃)	5.5	6.6	7.3	6.9	5.9	7.4	7.3	8.1
	日照時間(時間)	49.6	40.2	27.0	39.2	37.7	38.5	32.6	36.6
	降水量(mm)	14.6	20.1	41.4	23.6	13.5	27.0	23.8	32.5
下妻	平均気温(℃)	4.7	3.5	5.5	4.0	4.8	4.7	6.0	5.6
	日照時間(時間)	61.2	46.7	35.7	45.5	44.1	45.0	39.0	42.2
	降水量(mm)	2.0	7.8	21.2	10.9	6.6	13.1	11.8	16.6
三浦	平均気温(℃)	6.1	6.6	7.2	6.9	6.2	7.5	7.4	8.2
	日照時間(時間)	48.0	44.8	33.0	42.8	41.5	41.6	33.1	40.1
	降水量(mm)	6.1	12.4	41.9	16.7	11.4	22.7	21.5	29.0
佐賀	平均気温(℃)	7.5	6.2	7.9	7.0	6.8	7.9	8.4	8.7
	日照時間(時間)	40.0	33.8	20.3	34.7	38.7	36.1	34.4	35.8
	降水量(mm)	1.2	14.5	27.1	18.4	10.5	20.9	33.9	23.2
島原	平均気温(℃)	7.3	7.3	8.1	7.8	7.1	9.0	9.1	9.9
	日照時間(時間)	30.0	34.4	19.0	34.6	39.4	36.9	29.2	36.8
	降水量(mm)	3.4	25.6	29.6	27.4	15.2	30.4	51.7	30.4

(機構調べ)

8. 輸入動向 (生鮮その他根菜類) ※にんじん・かぶ・ごぼうは除く

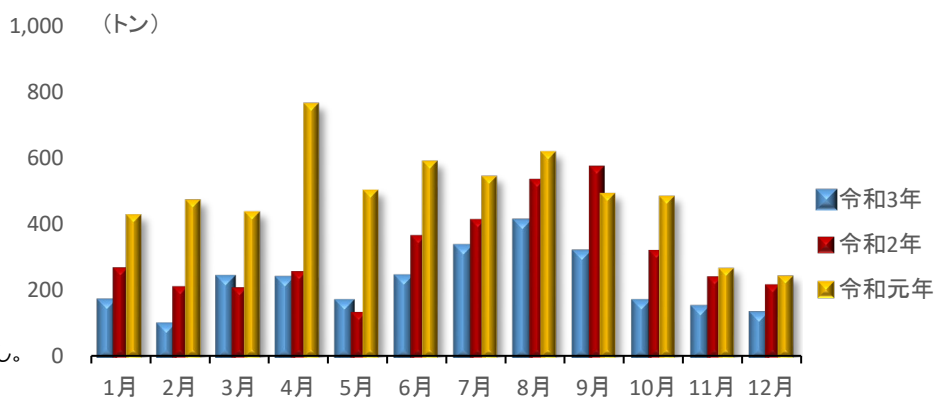
○124 トン (12月輸入量)

➤ 前年同月比：58%

○輸入先国ベスト3

- 1 位 中国 100 トン
- 2 位 オランダ 14 トン
- 3 位 ベルギー 6 トン

※平成30年4月より税番改正があったため平年比なし。
(財務省貿易統計)



9. 一口メモ

1月は、寒波等により気温低下が著しかったものの、千葉産、神奈川産などで気温低下前に肥大したものが入荷していたことから、安定した市場入荷量となり、市場価格は平年を下回りました。

2月は、千葉などの関東産を中心に低温で肥大が鈍化しているものの、安定した市場入荷量となることから、市場価格は平年並みの見込みです。

本データは全てベジ探から入手できます。

詳細はベジ探をご覧ください。

ベジ探：<https://vegetan.alic.go.jp/>

<問い合わせ先>

農畜産業振興機構

野菜業務部 管理課

野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793



たまねぎ



発行日：令和4年2月8日

1. 卸売価格の動向

○196 円/kg（2月5日）

➢ 平年比：168%

○2月の価格見通し

高値水準で推移

（農林水産省、東京都中央卸売市場）

2. 小売価格の動向

○362 円/kg（1月全国平均）

➢ 前月比：103%、平年比：170%

➢ 東京：254 円（3玉）

➢ 大阪：268 円（3玉）

○特売店舗数／調査店舗数

➢ 東京：3/20（前月 5/20）

➢ 大阪：0/10（前月 1/10）

（機構調べ）

3. 家計消費動向

○399g/人（12月全国平均）

➢ 前月比：101%

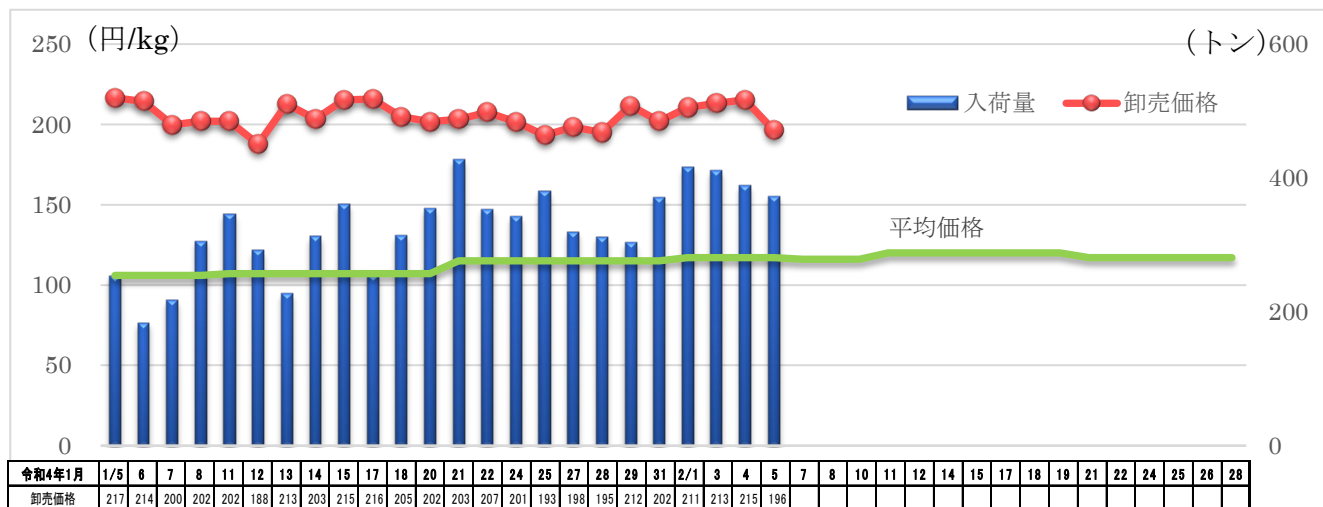
➢ 前年同月比：81%

○6,295g/人（2020 年年間）

➢ 前年比：117%

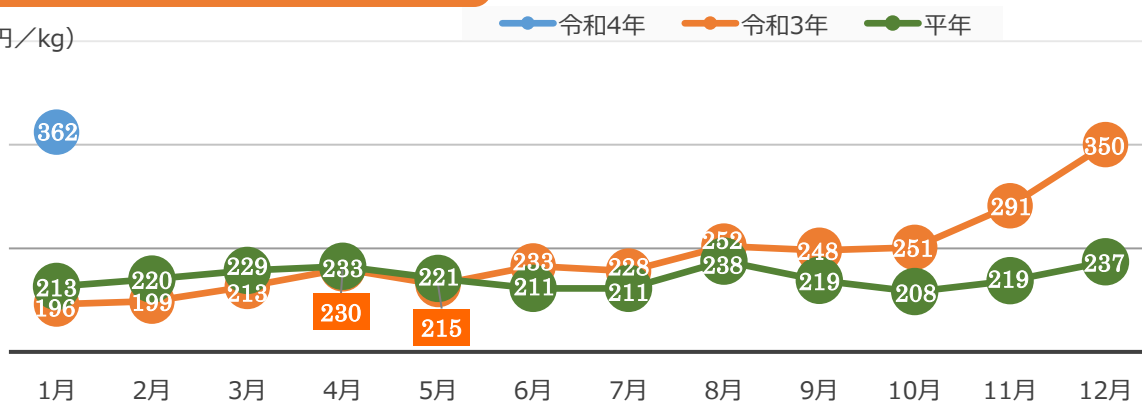
（総務省統計局家計調査）

4. たまねぎの卸売価格と入荷量の推移（東京都中央卸売市場）



5. たまねぎの小売価格の推移

（円/kg）



6. 主産地の生育・出荷動向

産地名	作付面積	作況	生育進度	出荷進度
静岡県浜松 (1/19)	前年並み	やや良	平年並み	平年並み
愛知県碧南市 (1/31)	前年並み	平年並み	平年並み	－
佐賀県白石 (2/2)	前年並み	平年並み	平年並み～ やや遅い	平年並み～ やや遅い見込み

※特記ない場合は平年比。() 内は調査日。

(機構調べ)



静岡県浜松：圃場の様子

7. 主産地の向こう1ヶ月の気象情報 (2/5～3/4)

予測地点	要素	予報期間							
		2/5 ～ 2/11		2/12 ～ 2/18		2/19 ～ 2/25		2/26 ～ 3/4	
		予報	平年	予報	平年	予報	平年	予報	平年
御前崎	平均気温(℃)	6.6	6.9	7.5	7.4	5.7	8.2	8.0	9.0
	日照時間(時間)	70.5	48.2	50.4	47.4	65.6	45.1	25.9	43.9
	降水量(mm)	9.2	18.6	55.0	24.3	0.0	33.3	14.0	40.8
豊橋	平均気温(℃)	5.1	5.5	6.3	6.1	5.6	7.2	7.5	8.3
	日照時間(時間)	40.4	45.1	29.2	43.6	46.5	43.4	39.3	43.4
	降水量(mm)	6.4	13.9	38.0	18.2	12.6	25.1	25.4	34.3
佐賀	平均気温(℃)	7.5	6.2	7.9	7.0	6.8	7.9	8.4	8.7
	日照時間(時間)	40.0	33.8	20.3	34.7	38.7	36.1	34.4	35.8
	降水量(mm)	1.2	14.5	27.1	18.4	10.5	20.9	33.9	23.2
島原	平均気温(℃)	7.3	7.3	8.1	7.8	7.1	9.0	9.1	9.9
	日照時間(時間)	30.0	34.4	19.0	34.6	39.4	36.9	29.2	36.8
	降水量(mm)	3.4	25.6	29.6	27.4	15.2	30.4	51.7	30.4
洲本	平均気温(℃)	4.7	5.2	6.1	5.6	5.1	6.1	6.5	6.9
	日照時間(時間)	48.7	35.5	23.0	36.6	36.7	37.6	35.8	38.9
	降水量(mm)	0.5	12.6	20.9	17.0	10.1	20.1	33.3	22.5

(機構調べ)

8. 輸入動向 (生鮮たまねぎ)

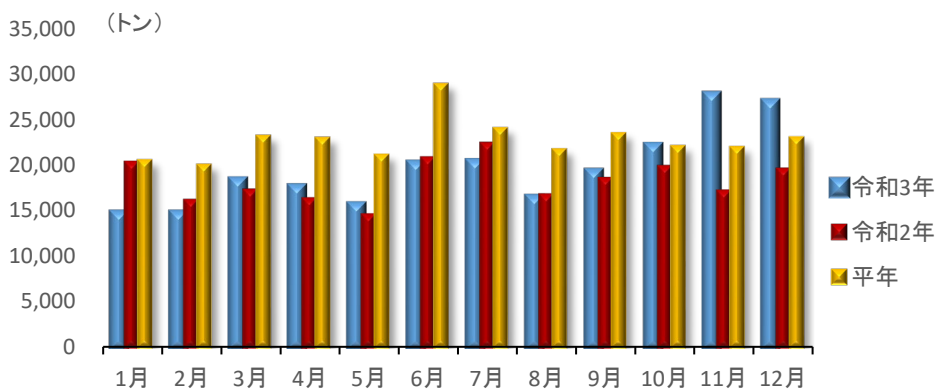
○26,953 t (12月輸入量)

➤ 前年同月比：138%

○輸入先国ベスト3

- 1位 中国 25,407トン
- 2位 米国 1,538トン
- 3位 オランダ 8トン

(財務省貿易統計)



9. 一口メモ

北海道産は、高温干ばつによる小玉傾向となったことで、本年産の貯蔵ものは平年よりも少ないことから入荷量が伸びず、市場価格は平年を上回りました。

2月は、北海道産が引き続き少ないことに加え、即売ものの静岡産などが低温干ばつによる小玉傾向のために入荷量が伸びず、価格は高値になる見込みです。

本データは全てベジ探から入手できます。

詳細はベジ探をご覧ください。

ベジ探：<https://vegetan.alic.go.jp/>

＜問い合わせ先＞

農畜産業振興機構

野菜業務部 管理課

野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793

やさいレポート（令和4年2月号）



にんじん



発行日：令和4年2月8日

1. 卸売価格の動向

○82 円/kg（2月5日）

➢ 平年比：60%

○2月の価格見通し

前半は安値水準

後半は平年並みで推移

（農林水産省、東京都中央卸売市場）

2. 小売価格の動向

○330 円/kg（1月全国平均）

➢ 前月比：105%、平年比：99%

➢ 東京：174 円（3本）

➢ 大阪：175 円（3本）

○特売店舗数／調査店舗数

➢ 東京：5/20（前月 5/20）

➢ 大阪：0/10（前月 0/10）

（機構調べ）

3. 家計消費動向

○268g/人（12月全国平均）

➢ 前月比：115%

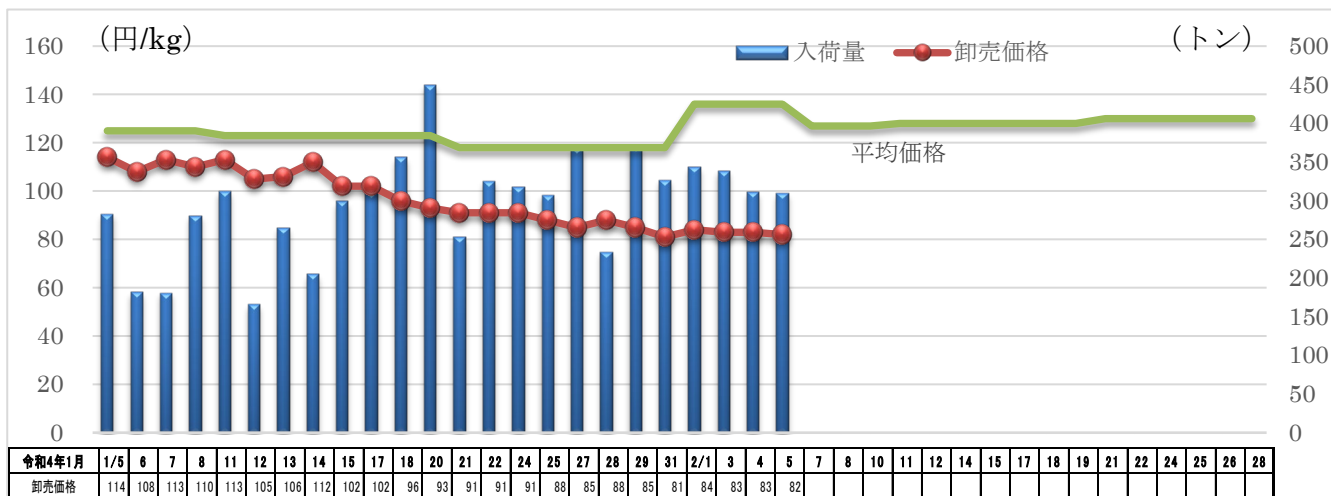
➢ 前年同月比：92%

○2,848g/人（2020年年間）

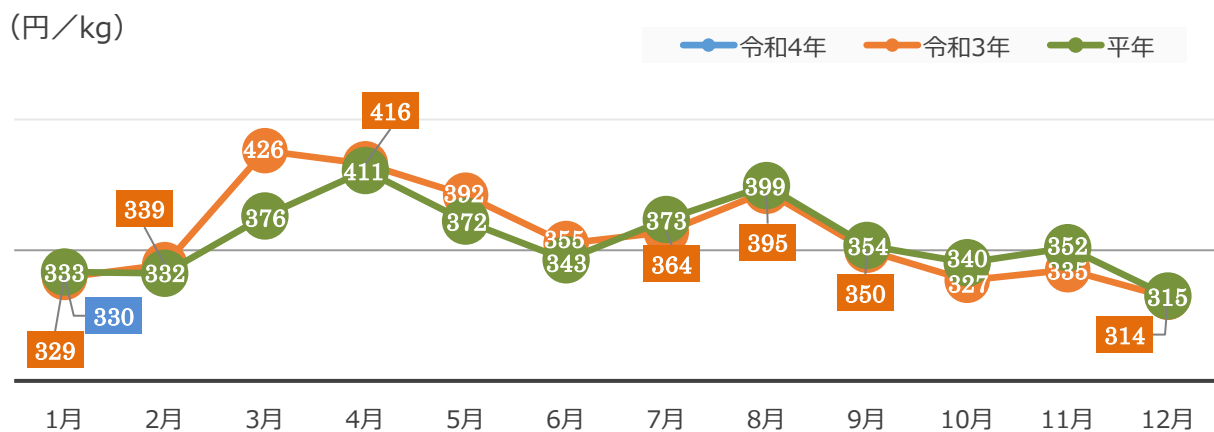
➢ 前年比：106%

（総務省統計局家計調査）

4. にんじんの入荷量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



5. にんじんの小売価格の推移



6. 主産地の生育・出荷動向

産地名	作付面積	作況	生育進度	出荷進度
茨城県鹿島 (1/6)	前年並み	やや良	やや早い	やや早い
千葉県JA山武郡市 (10/8)	前年並み	平年並み	平年並み	-
愛知県碧南 (1/31)	前年並み	平年並み	平年並み	平年並み
徳島県吉野川流域 (12/9)	前年並み	平年並み	平年並み	-
沖縄県糸満 (2/2)	前年並み	平年並み	早い	早い

※特記ない場合は平年比。()内は調査日。

(機構調べ)



茨城県鹿島：収穫の様子

7. 主産地の向こう1ヶ月の気象情報(2/5~3/4)

予測地点	要素	予報期間							
		2/5 ~ 2/11		2/12 ~ 2/18		2/19 ~ 2/25		2/26 ~ 3/4	
		予報	平年	予報	平年	予報	平年	予報	平年
熊谷	平均気温(℃)	4.3	4.6	5.5	5.1	4.8	5.8	5.8	6.6
	日照時間(時間)	70.0	50.4	37.6	49.4	47.0	48.4	41.2	46.0
	降水量(mm)	2.2	6.8	18.0	9.4	5.1	10.1	8.9	13.3
横芝光	平均気温(℃)	5.5	5.0	6.4	5.5	5.4	6.1	6.5	6.9
	日照時間(時間)	60.4	43.2	28.3	41.8	41.3	40.4	32.6	37.6
	降水量(mm)	9.6	14.9	30.0	19.5	10.9	21.7	22.7	26.4
下妻	平均気温(℃)	4.7	3.5	5.5	4.0	4.8	4.7	6.0	5.6
	日照時間(時間)	61.2	46.7	35.7	45.5	44.1	45.0	39.0	42.2
	降水量(mm)	2.0	7.8	21.2	10.9	6.6	13.1	11.8	16.6
豊橋	平均気温(℃)	5.1	5.5	6.3	6.1	5.6	7.2	7.5	8.3
	日照時間(時間)	40.4	45.1	29.2	43.6	46.5	43.4	39.3	43.4
	降水量(mm)	6.4	13.9	38.0	18.2	12.6	25.1	25.4	34.3
島原	平均気温(℃)	7.3	7.3	8.1	7.8	7.1	9.0	9.1	9.9
	日照時間(時間)	30.0	34.4	19.0	34.6	39.4	36.9	29.2	36.8
	降水量(mm)	3.4	25.6	29.6	27.4	15.2	30.4	51.7	30.4
徳島	平均気温(℃)	5.9	6.2	7.4	6.7	6.3	7.4	8.1	8.2
	日照時間(時間)	45.7	38.2	26.4	37.8	38.8	37.8	33.1	38.7
	降水量(mm)	4.5	9.2	18.3	13.3	8.4	16.7	24.5	18.0

(機構調べ)

8. 輸入動向(生鮮にんじん)

○3,699トン(12月輸入量)

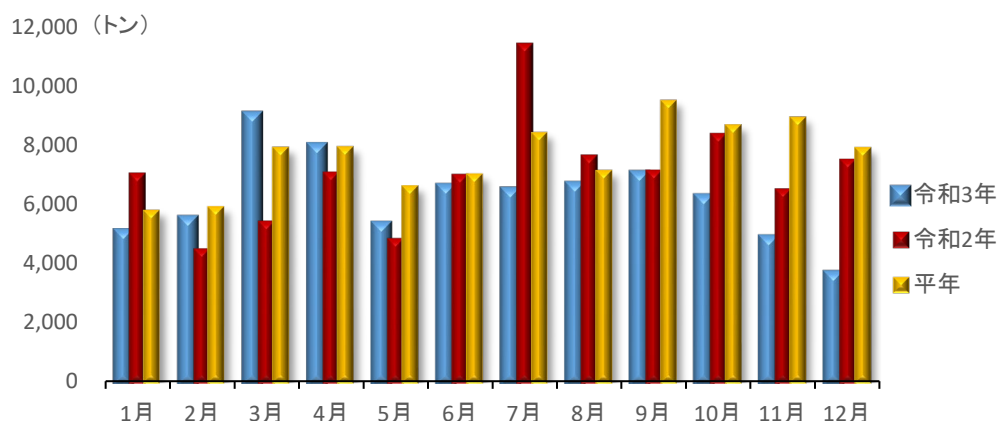
➢ 前年同月比：49%

○輸入先国ベスト3

1位 中国 3,644トン

2位 オーストラリア 54トン

(財務省貿易統計)



9. 一口メモ

1月は、千葉産、埼玉産などを中心に、寒波等により低温で推移していたものの、干ばつ傾向でこれまで肥大が遅れていたものが入荷したため、安定した市場入荷量となり、価格は平年を下回りました。

2月は、千葉産、埼玉などの関東産が引き続き潤沢に入荷するものの、関東産が徐々に終盤となることで入荷量が減少してくるため、価格は前半が安値となるものの、後半は平年並みに戻る見込みです。

本データは全てページ探から入手できます。

詳細はページ探をご覧ください。

ページ探：<https://vegetan.alic.go.jp/>

<問い合わせ先>

農畜産業振興機構

野菜業務部 管理課

野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793

やさいレポート（令和4年2月号）



はくさい



発行日：令和4年2月8日

1. 卸売価格の動向

○36 円/kg（2月5日）

➢ 平年比：49%

○2月の価格見通し

安値水準で推移

（農林水産省、東京都中央卸売市場）

2. 小売価格の動向

○123 円/kg（1月全国平均）

➢ 前月比：99%、平年比：67%

➢ 東京：95 円（1/4 玉）

➢ 大阪：162 円（1/2 玉）

○特売店舗数／調査店舗数

➢ 東京：5/20（前月 9/20）

➢ 大阪：3/10（前月 2/10）

（機構調べ）

3. 家計消費動向

○455g/人（12月全国平均）

➢ 前月比：107%

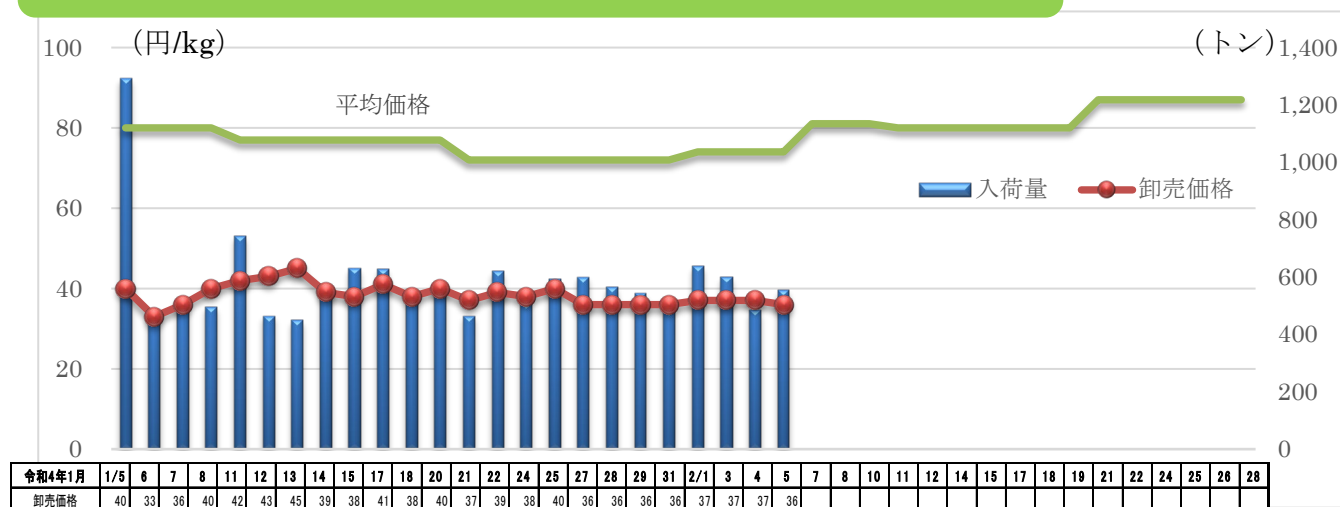
➢ 前年同月比：85%

○2,905g/人（2020 年年間）

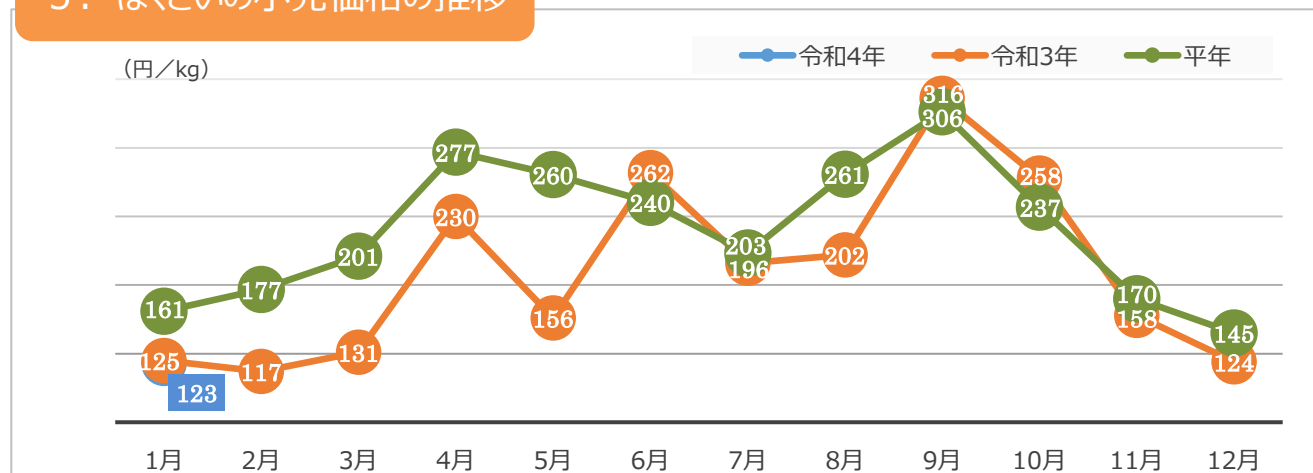
➢ 前年比：108%

（総務省統計局家計調査）

4. はくさいの卸売価格と数量の推移（東京都中央卸売市場）



5. はくさいの小売価格の推移



6. 主産地の生育・出荷動向

産地名	作付面積	作況	生育進度	出荷進度
茨城県八千代 (1/17)	前年並み	やや豊作	平年並み	平年並み
愛知県豊橋 (1/17)	減少	やや良	平年並み	平年並み
和歌山県紀の川西部 (12/23)	増加	平年並み	早い	早い
大分県日田 (12/10)	前年並み	不良	遅い	遅い
鹿児島県 JA ぞお鹿児島 (1/25)	減少	豊作	平年並み	早い～平年並み

※特記ない場合は平年比。()内は調査日。

(機構調べ)



鹿児島県 JA ぞお鹿児島：圃場の写真

7. 主産地の向こう1ヶ月の気象情報 (2/5～3/4)

予測地点	要素	予報期間							
		2/5 ~ 2/11		2/12 ~ 2/18		2/19 ~ 2/25		2/26 ~ 3/4	
		予報	平年	予報	平年	予報	平年	予報	平年
下妻	平均気温(℃)	4.7	3.5	5.5	4.0	4.8	4.7	6.0	5.6
	日照時間(時間)	61.2	46.7	35.7	45.5	44.1	45.0	39.0	42.2
	降水量(mm)	2.0	7.8	21.2	10.9	6.6	13.1	11.8	16.6
豊橋	平均気温(℃)	5.1	5.5	6.3	6.1	5.6	7.2	7.5	8.3
	日照時間(時間)	40.4	45.1	29.2	43.6	46.5	43.4	39.3	43.4
	降水量(mm)	6.4	13.9	38.0	18.2	12.6	25.1	25.4	34.3
島原	平均気温(℃)	7.3	7.3	8.1	7.8	7.1	9.0	9.1	9.9
	日照時間(時間)	30.0	34.4	19.0	34.6	39.4	36.9	29.2	36.8
	降水量(mm)	3.4	25.6	29.6	27.4	15.2	30.4	51.7	30.4
洲本	平均気温(℃)	4.7	5.2	6.1	5.6	5.1	6.1	6.5	6.9
	日照時間(時間)	48.7	35.5	23.0	36.6	36.7	37.6	35.8	38.9
	降水量(mm)	0.5	12.6	20.9	17.0	10.1	20.1	33.3	22.5

(機構調べ)

8. 輸入動向 (はくさい)

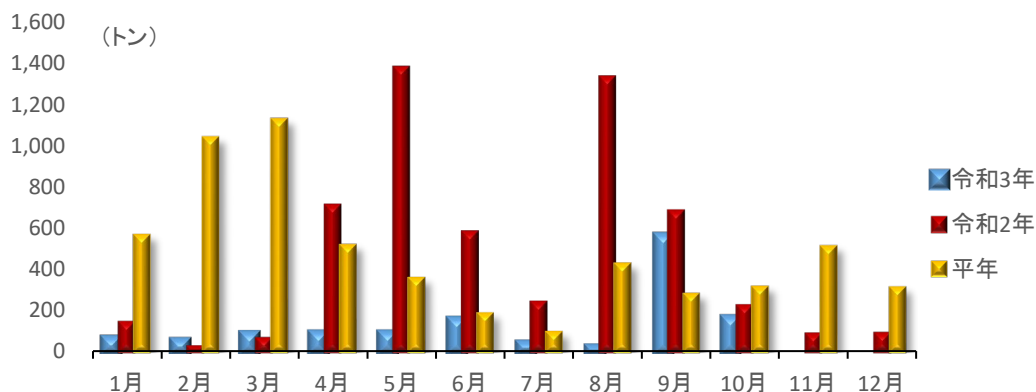
〇0 t (12月輸入量)

➤ 前年同月比：－％

〇輸入先国ベスト3

輸入実績なし

(財務省貿易統計)



9. 一口メモ

1月は、寒波等による気温低下で茨城などの関東産の結球が鈍化したために小玉傾向となってきたものの、市場入荷量はほぼ安定していたことから、価格は引き続き安値となりました。

2月は、冷え込みが続く中、茨城などの関東産が、引き続き安定して潤沢に入荷することから、価格は安値となる見込みです。

本データは全てベジ探から入手できます。
詳細はベジ探をご覧ください。

ベジ探：<https://vegetan.alic.go.jp/>

＜問い合わせ先＞

農畜産業振興機構

野菜業務部 管理課

野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793

やさいレポート（令和4年2月号）



レタス



発行日：令和4年2月8日

1. 卸売価格の動向

○302 円/kg（2月5日）

➢ 平年比：124%

○2月の価格見通し

平年並みで推移

（農林水産省、東京都中央卸売市場）

2. 小売価格の動向

○516 円/kg（1月全国平均）

➢ 前月比：158%、平年比：80%

➢ 東京：234 円（1玉）

➢ 大阪：225 円（1玉）

○特売店舗数／調査店舗数

➢ 東京：3/20（前月 6/20）

➢ 大阪：0/10（前月 1/10）

（機構調べ）

3. 家計消費動向

○147g/人（12月全国平均）

➢ 前月比：94%

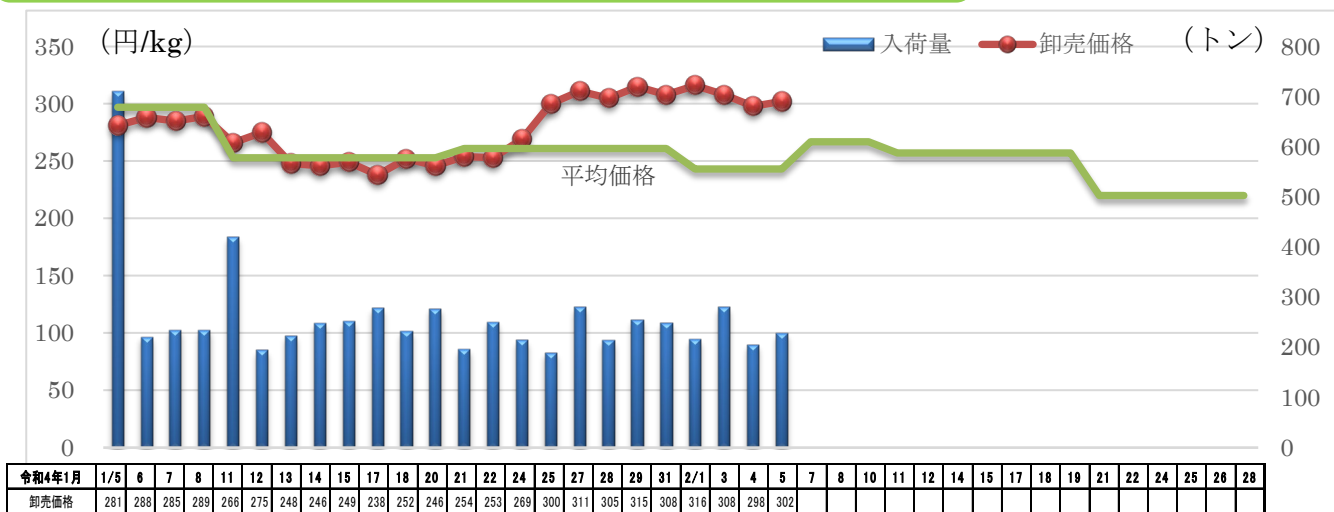
➢ 前年同月比：94%

○2,140g/人（2020 年年間）

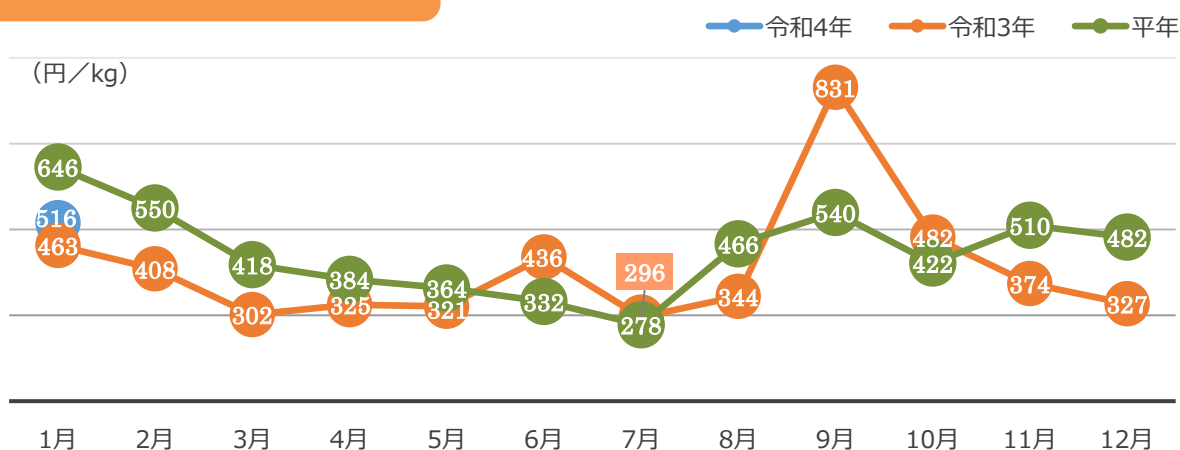
➢ 前年比：106%

（総務省統計局家計調査）

4. レタスの卸売数量と価格の推移（東京都中央卸売市場）



5. レタスの小売価格の推移



6. 主産地の生育・出荷動向

産地名	作付面積	作況	生育進度	出荷進度
静岡県志太榛原 (12/22)	増加	やや良～ 平年並み	早い～平年並み	早い
静岡県三島 (12/23)	前年並み	やや良	早い	早い
静岡県周智 (12/22)	前年並み	平年並み	早い～平年並み	早い～平年並み
徳島県吉野川流域 (10/22)	減少	平年並み	早い	早い
香川県観音寺 (1/20)	減少	平年並み	平年並み	遅い
福岡県JAみい (12/6)	前年並み	やや良	平年並み	平年並み
長崎県島原雲仙 (11/12)	前年並み	やや不良	やや遅い～遅い	やや遅い～遅い
沖縄県糸満市 (11/30)	前年並み	平年並み	平年並み	平年並み

※特記ない場合は平年比。() 内は調査日。

(機構調べ)



静岡県志太榛原：圃場の写真

7. 主産地の向こう1ヶ月の気象情報 (2/5～3/4)

予測地点	要素	予報期間							
		2/5 ～ 2/11		2/12 ～ 2/18		2/19 ～ 2/25		2/26 ～ 3/4	
		予報	平年	予報	平年	予報	平年	予報	平年
下妻	平均気温(℃)	4.7	3.5	5.5	4.0	4.8	4.7	6.0	5.6
	日照時間(時間)	61.2	46.7	35.7	45.5	44.1	45.0	39.0	42.2
	降水量(mm)	2.0	7.8	21.2	10.9	6.6	13.1	11.8	16.6
御前崎	平均気温(℃)	6.6	6.9	7.5	7.4	5.7	8.2	8.0	9.0
	日照時間(時間)	70.5	48.2	50.4	47.4	65.6	45.1	25.9	43.9
	降水量(mm)	9.2	18.6	55.0	24.3	0.0	33.3	14.0	40.8
島原	平均気温(℃)	7.3	7.3	8.1	7.8	7.1	9.0	9.1	9.9
	日照時間(時間)	30.0	34.4	19.0	34.6	39.4	36.9	29.2	36.8
	降水量(mm)	3.4	25.6	29.6	27.4	15.2	30.4	51.7	30.4
洲本	平均気温(℃)	4.7	5.2	6.1	5.6	5.1	6.1	6.5	6.9
	日照時間(時間)	48.7	35.5	23.0	36.6	36.7	37.6	35.8	38.9
	降水量(mm)	0.5	12.6	20.9	17.0	10.1	20.1	33.3	22.5
高松	平均気温(℃)	6.1	5.8	7.0	6.3	6.1	6.8	8.0	7.7
	日照時間(時間)	53.2	35.1	23.8	35.9	36.8	36.4	35.5	36.7
	降水量(mm)	1.5	9.1	15.3	11.4	6.6	13.2	24.4	15.3

(機構調べ)

8. 輸入動向 (生鮮結球レタス)

○624 t (12月輸入量)

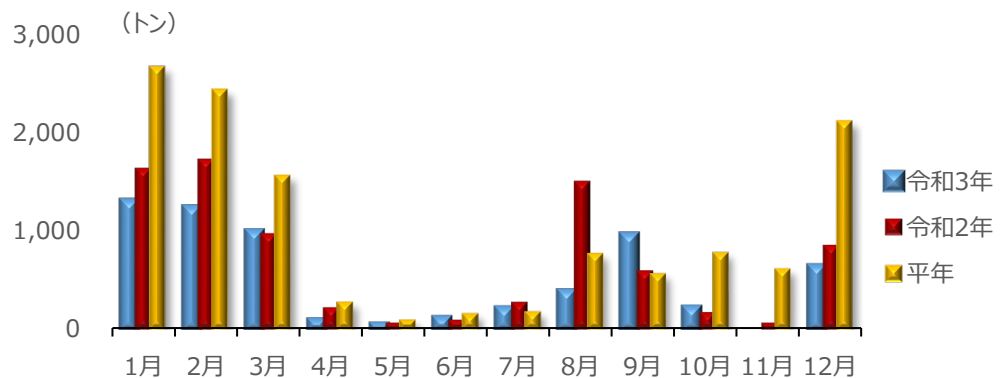
➤ 前年同月比：75%

○輸入先国ベスト3

1位 台湾 599トン

2位 中国 25トン

(財務省貿易統計)



9. 一口メモ

1月は、結球期が温暖に推移したことにより年内が前進入荷となったことに加え、寒波等による気温低下で生育、結球が鈍化したことから、静岡産、兵庫産を中心に市場入荷量が伸びず、価格はほぼ平年並みとなりました。

2月は、兵庫産、長崎産などが低温干ばつの影響で小玉傾向となっていることから、価格は平年並みの見込みです。

本データは全てベジ探から入手できます。

詳細はベジ探をご覧ください。

ベジ探：<https://vegetan.alic.go.jp/>

<問い合わせ先>

農畜産業振興機構

野菜業務部 管理課

野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793

やさいレポート（令和4年2月号）

きゅうり

発行日：令和4年2月8日

1. 卸売価格の動向

○446 円/kg（2月5日）

➢ 平年比：102%

○2月の価格見通し

平年並みで推移

（農林水産省、東京都中央卸売市場）

2. 小売価格の動向

○595 円/kg（1月全国平均）

➢ 前月比：113%、平年比：80%

➢ 東京：62 円（1本）

➢ 大阪：180 円（3本）

○特売店舗数／調査店舗数

➢ 東京：8/20（前月 6/20）

➢ 大阪：3/10（前月 3/10）

（機構調べ）

3. 家計消費動向

○141 g/人（12月全国平均）

➢ 前月比：87%

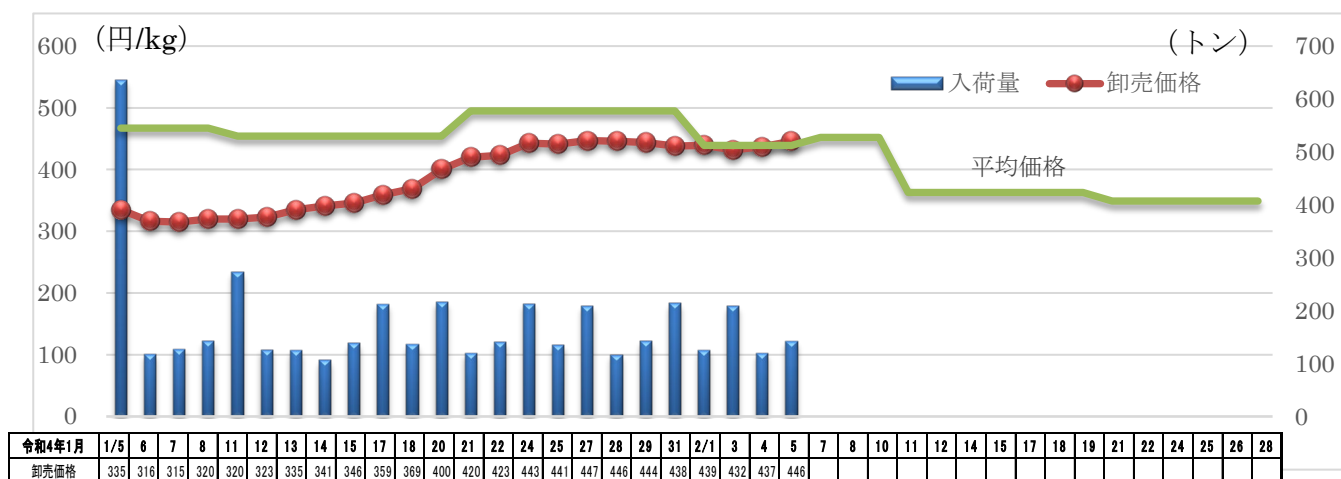
➢ 前年同月比：95%

○2,695 g/人（2020 年年間）

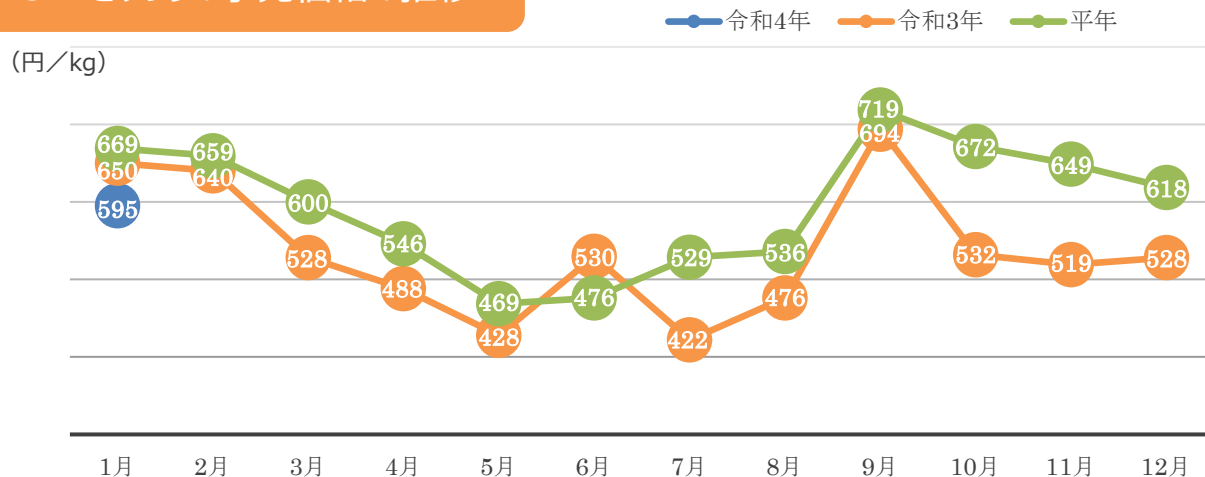
➢ 前年比：104%

（総務省統計局家計調査）

4. きゅうりの卸売価格と入荷量の推移（東京都中央卸売市場）



5. きゅうりの小売価格の推移



6. 主産地の生育・出荷動向

産地名	作付面積	作況	生育進度	出荷進度
高知県春野 (1/11)	減少	平年並み	平年並み	平年並み
佐賀県佐城地区 (1/28)	増加	平年並み	平年並み	平年並み
宮崎県宮崎中央 (1/14)	前年並み	平年並み	平年並み	平年並み

※特記ない場合は平年比。() 内は調査日。



高知県春野：ハウス内の写真

(機構調べ)

7. 主産地の向こう1ヶ月の気象情報 (2/5~3/4)

予測地点	要素	予報期間							
		2/5 ~ 2/11		2/12 ~ 2/18		2/19 ~ 2/25		2/26 ~ 3/4	
		予報	平年	予報	平年	予報	平年	予報	平年
熊谷	平均気温(℃)	4.3	4.6	5.5	5.1	4.8	5.8	5.8	6.6
	日照時間(時間)	70.0	50.4	37.6	49.4	47.0	48.4	41.2	46.0
	降水量(mm)	2.2	6.8	18.0	9.4	5.1	10.1	8.9	13.3
銚子	平均気温(℃)	5.5	6.6	7.3	6.9	5.9	7.4	7.3	8.1
	日照時間(時間)	49.6	40.2	27.0	39.2	37.7	38.5	32.6	36.6
	降水量(mm)	14.6	20.1	41.4	23.6	13.5	27.0	23.8	32.5
下妻	平均気温(℃)	4.7	3.5	5.5	4.0	4.8	4.7	6.0	5.6
	日照時間(時間)	61.2	46.7	35.7	45.5	44.1	45.0	39.0	42.2
	降水量(mm)	2.0	7.8	21.2	10.9	6.6	13.1	11.8	16.6
三浦	平均気温(℃)	6.1	6.6	7.2	6.9	6.2	7.5	7.4	8.2
	日照時間(時間)	48.0	44.8	33.0	42.8	41.5	41.6	33.1	40.1
	降水量(mm)	6.1	12.4	41.9	16.7	11.4	22.7	21.5	29.0
豊橋	平均気温(℃)	5.1	5.5	6.3	6.1	5.6	7.2	7.5	8.3
	日照時間(時間)	40.4	45.1	29.2	43.6	46.5	43.4	39.3	43.4
	降水量(mm)	6.4	13.9	38.0	18.2	12.6	25.1	25.4	34.3
徳島	平均気温(℃)	5.9	6.2	7.4	6.7	6.3	7.4	8.1	8.2
	日照時間(時間)	45.7	38.2	26.4	37.8	38.8	37.8	33.1	38.7
	降水量(mm)	4.5	9.2	18.3	13.3	8.4	16.7	24.5	18.0

(機構調べ)

8. 輸入動向 (生鮮きゅうり及びガーキン)

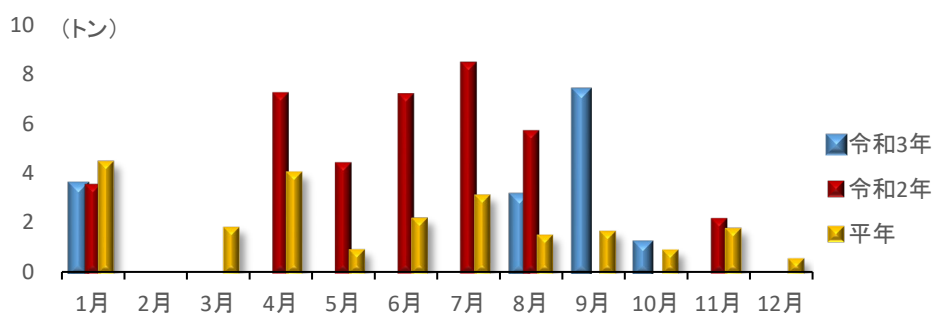
○0 t (12月輸入量)

➤ 前年同月比：－％

○輸入先国ベスト3

輸入実績なし

(財務省貿易統計)



9. 一口メモ

1月は、高知産や宮崎産などが年内の連続着果からの成り疲れによる樹勢低下に加え、寒波等による気温低下で着果が鈍化したことから市場入荷量が伸びず、価格は平年を下回っていたものの、続伸傾向となりました。

2月は、高知産などが低温により樹勢回復が遅れていることに加え、後続の千葉などの関東産も低温で生育が遅れていることから入荷量は大きく伸びず、価格は平年並みの見込みです。

本データは全てベジ探から入手できます。

詳細はベジ探をご覧ください。

ベジ探：<https://vegetan.alic.go.jp/>

<問い合わせ先>

農畜産業振興機構

野菜業務部 管理課

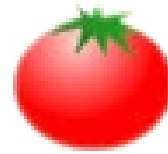
野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793

やさいレポート（令和4年2月号）



トマト



発行日：令和4年2月8日

1. 卸売価格の動向

○380 円/kg（2月5日）

➢ 平年比：98%

○2月の価格見通し

平年並みで推移

（農林水産省、東京都中央卸売市場）

2. 小売価格の動向

○627 円/kg（1月全国平均）

➢ 前月比：83%、平年比：93%

➢ 東京：370 円（3玉）

➢ 大阪：301 円（4玉）

○特売店舗数／調査店舗数

➢ 東京：6/20（前月6/20）

➢ 大阪：1/10（前月2/10）

（機構調べ）

3. 家計消費動向

○232 g/人（12月全国平均）

➢ 前月比：100%

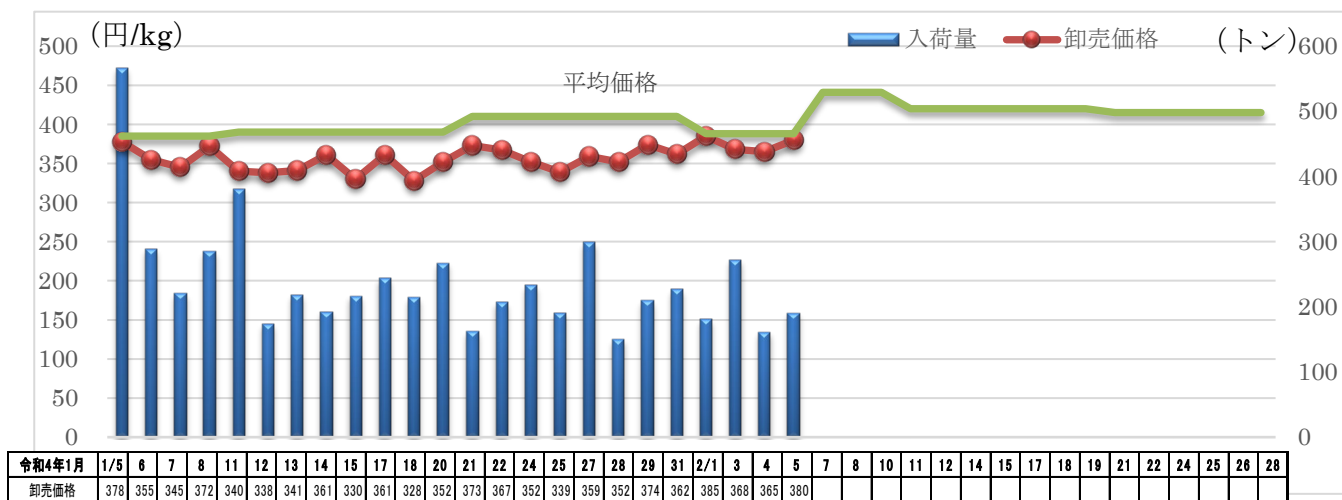
➢ 前年同月比：88%

○3,971 g/人（2020年年間）

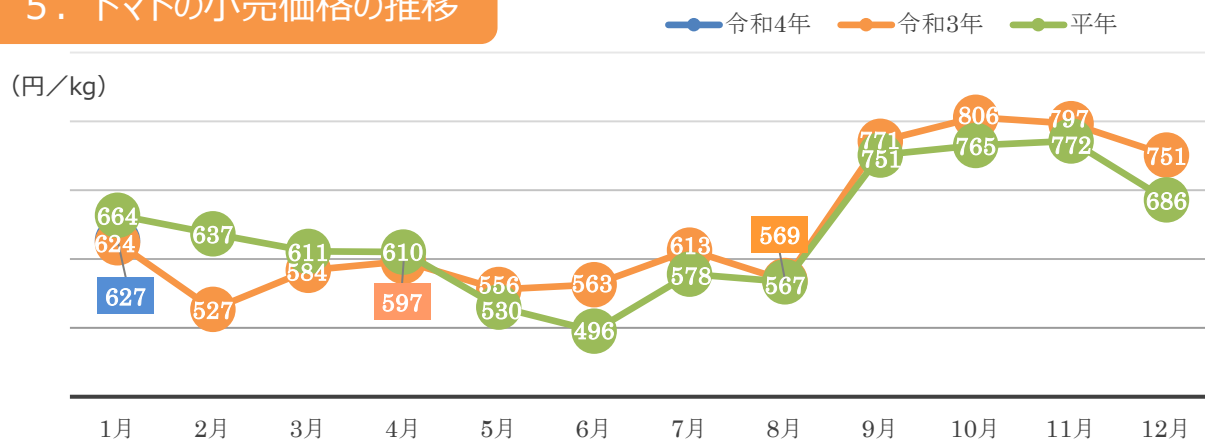
➢ 前年比：99%

（総務省統計局家計調査）

4. トマトの卸売価格と入荷量の推移（東京都中央卸売市場）



5. トマトの小売価格の推移



6. 主産地の生育・出荷動向

産地名	作付面積	作況	生育進度	出荷進度
栃木県栃木市 (12/13)	減少	やや良	平年並み	平年並み
静岡県三島 (大玉) (12/13)	減少	平年並み	平年並み	平年並み
静岡県三島 (ミニ) (12/23)	前年並み	平年並み	平年並み	平年並み～遅い
静岡県小笠 (大玉) (12/22)	前年並み	平年並み	平年並み	平年並み
愛知県豊橋市 (12/20)	前年並み	平年並み	平年並み	平年並み
三重県桑名市長島町 (12/17)	減少	やや良	平年並み	平年並み
熊本県八代 (11/26)	減少	平年並み	平年並み	平年並み

※特記ない場合は平年比。() 内は調査日。

(機構調べ)



静岡県三島：ハウス内の写真

7. 主産地の向こう1ヶ月の気象情報 (2/5~3/4)

予測地点	要素	予報期間							
		2/5 ~ 2/11		2/12 ~ 2/18		2/19 ~ 2/25		2/26 ~ 3/4	
		予報	平年	予報	平年	予報	平年	予報	平年
横芝光	平均気温(℃)	5.5	5.0	6.4	5.5	5.4	6.1	6.5	6.9
	日照時間(時間)	60.4	43.2	28.3	41.8	41.3	40.4	32.6	37.6
	降水量(mm)	9.6	14.9	30.0	19.5	10.9	21.7	22.7	26.4
下妻	平均気温(℃)	4.7	3.5	5.5	4.0	4.8	4.7	6.0	5.6
	日照時間(時間)	61.2	46.7	35.7	45.5	44.1	45.0	39.0	42.2
	降水量(mm)	2.0	7.8	21.2	10.9	6.6	13.1	11.8	16.6
御前崎	平均気温(℃)	6.6	6.9	7.5	7.4	5.7	8.2	8.0	9.0
	日照時間(時間)	70.5	48.2	50.4	47.4	65.6	45.1	25.9	43.9
	降水量(mm)	9.2	18.6	55.0	24.3	0.0	33.3	14.0	40.8
伊良湖	平均気温(℃)	5.4	5.8	6.8	6.3	5.6	6.9	7.3	7.8
	日照時間(時間)	51.2	44.0	30.4	43.4	47.1	43.9	39.7	44.6
	降水量(mm)	2.4	12.8	35.8	16.1	10.7	21.3	25.8	27.1
豊橋	平均気温(℃)	5.1	5.5	6.3	6.1	5.6	7.2	7.5	8.3
	日照時間(時間)	40.4	45.1	29.2	43.6	46.5	43.4	39.3	43.4
	降水量(mm)	6.4	13.9	38.0	18.2	12.6	25.1	25.4	34.3

(機構調べ)

8. 輸入動向 (生鮮トマト)

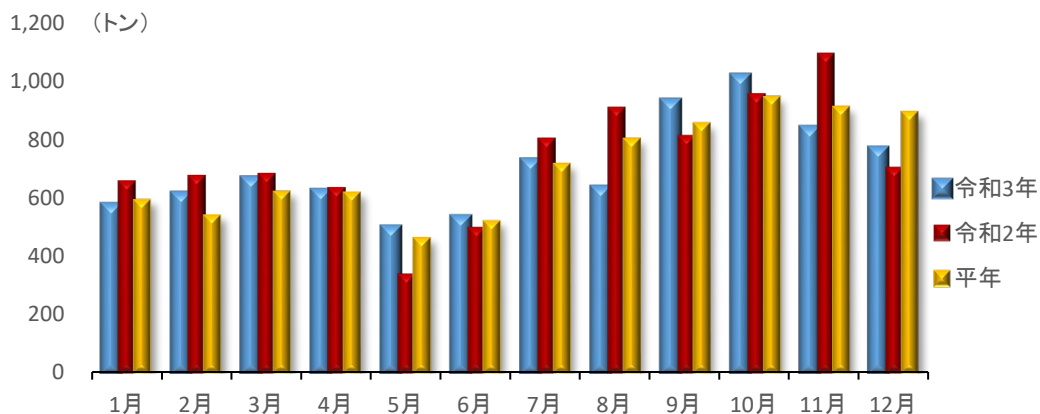
○765 t (12月輸入量)

➤ 前年同月比：109%

○輸入先国ベスト3

- 1 位 韓国 463トン
- 2 位 メキシコ 134トン
- 3 位 NZ 131トン

(財務省貿易統計)



9. 一口メモ

1月は、熊本産、愛知産、栃木産などが、寒波等による気温低下で肥大、着色が遅れたために市場入荷量が伸びず、価格はほぼ平年並みとなりました。

2月は、熊本産、愛知産、栃木産などが、低温で引き続き着果、着色が鈍くなっており、入荷量の大きな伸びがないことから、価格は平年並みの見込みです。

本データは全てベジ探から入手できます。

詳細はベジ探をご覧ください。

ベジ探：<https://vegetan.alic.go.jp/>

<問い合わせ先>

農畜産業振興機構

野菜業務部 管理課

野菜振興部 需給業務課

Tel:03-3583-9793

野菜輸入レポート（2021年1-12月速報値）

2022.2.16

1. 1-12月の野菜輸入量：261万8754トン（前年同月比101%）

（以下、割合は前年同期比）

【ポイント】

2021年の野菜全体の輸入量は、261万9754トン（前年同月比101%）、このうち生鮮野菜は70万7665トン（99%）、冷凍野菜は109万9401トン（104%）となった。

生鮮野菜は、COVID-19感染拡大の影響で外食などの加工業務用需要が回復しきらない中、秋冬野菜の栽培期間中に台風などの気象災害もなかったことで国産野菜が安値傾向となったことから、キャベツ、にんじん、ねぎなどの多くの輸入量が前年を下回った。冷凍野菜は、旺盛な家計消費需要により輸入量がやや上回った。夏期の高温干ばつにより、ばれいしょおよびたまねぎが不作傾向となったことに加え、国産品の端境である2～9月に限られていたばれいしょの輸入時期が、前年2月から通年輸入が解禁となったことで輸入量が前年を大幅に上回ったことから、野菜全体の輸入量は前年をわずかに上回った。

類別の輸入動向（2021年1-12月速報値）

（単位：t、千円、円/kg、%）

類 別	品 名	2021年1-12月			対前年比	
		速報数量	速報金額	速報単価	数 量	単 価
生鮮野菜		707,665	96,762,571	137	99	109
	たまねぎ	234,585	14,027,649	60	107	126
	かぼちゃ	92,100	8,268,186	90	101	104
	にんじん	74,726	3,805,021	51	88	120
	ばれいしょ	47,390	3,199,024	68	204	110
	ごぼう	47,019	3,041,962	65	116	113
	ねぎ	44,429	7,227,716	163	84	131
	ジャンボピーマン	32,959	12,272,486	372	90	106
	にんにく	24,483	5,952,906	243	107	106
	しょうが	18,477	3,535,907	191	99	118
	キャベツ	14,224	554,914	39	44	101
冷凍野菜		1,099,401	211,111,028	192	104	105
	ばれいしょ	377,141	55,656,360	148	104	107
	その他の冷凍野菜	354,463	78,333,712	221	107	104
	ブロッコリー	65,070	13,759,032	211	111	104
	えだまめ	64,250	14,883,095	232	90	103
	ほうれんそう等	49,207	8,062,187	164	102	106
塩蔵等野菜		66,107	8,716,540	132	95	110
乾燥野菜		43,876	36,033,628	821	105	101
酢調製野菜		31,879	7,968,530	250	106	103
トマト加工品		264,200	35,507,037	134	94	110
その他調製野菜		389,545	102,048,568	262	99	108
その他		16,081	3,300,062	205	100	109
合 計		2,618,754	501,447,964	191	101	107

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：財務省「貿易統計」

注：果実的野菜（いちご、すいか、メロン）を含む。内訳の単位未満を四捨五入している関係で、計は必ずしも一致しない。

※詳細はベジ探をご覧ください。（<https://vegetan.alic.go.jp/import-export-trends/latest.html>）

2. 輸入先国上位 3 位の上位 3 品目

(単位:t、千円、円/kg、%)

1位 中国 135万5112トン(同100%)	2021年1-12月			対前年比	
	速報数量	速報金額	速報単価	数 量	単 価
1 その他の冷凍野菜	304,368	61,899,539	203	108	104
2 その他調製野菜	245,401	59,639,478	243	99	107
2 生鮮たまねぎ	222,651	13,124,000	59	106	127
2位 米国 45万1739トン(同100%)					
1 冷凍ばれいしょ	260,057	39,845,998	153	95	109
2 生鮮ばれいしょ	47,390	3,199,024	68	204	110
3 トマト加工品	45,836	6,067,437	132	101	102
3位 韓国 5万6663トン(同96%)					
1 ジャンボピーマン	27,253	9,381,654	344	90	107
2 その他調製野菜	22,182	8,813,688	397	110	102
3 生鮮トマト	4,776	1,527,799	320	117	99

資料:農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料:財務省「貿易統計」

令和3年の生鮮野菜の消費動向（令和3年1-12月家計調査）

【ポイント】

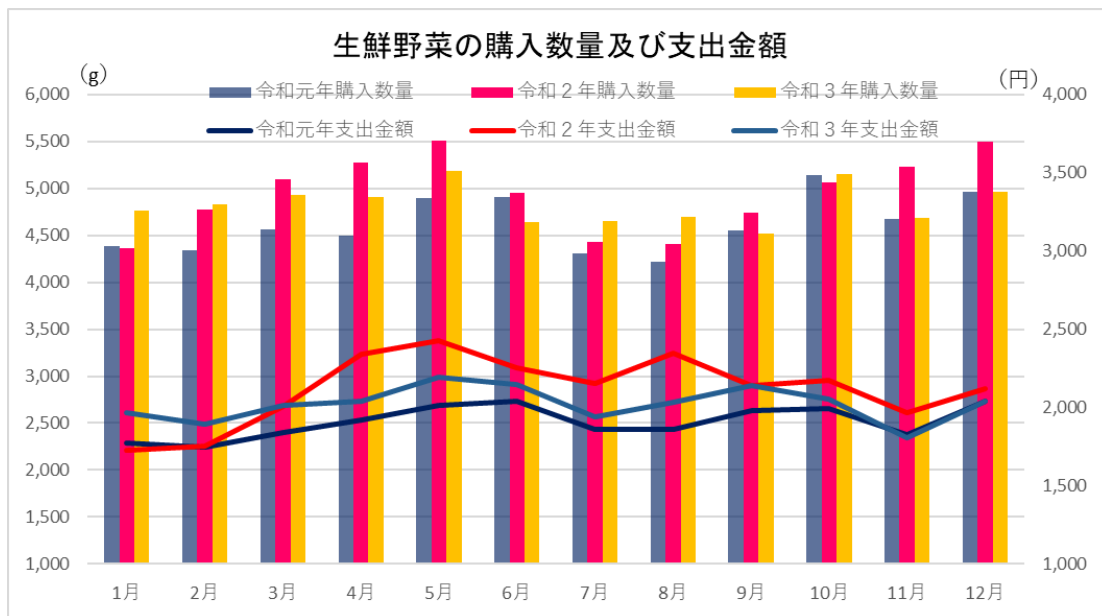
1. 令和3年の生鮮野菜の2人以上の世帯の1人当たりの年間購入数量は、COVID-19による家庭内調理需要が落ち着いたことにより、前年比2%減の58キログラム、支出金額は同4%増の2万4267円となった。
2. 購入数量が増加した品目は、キャベツ3%増（支出金額は14%減）、トマト3%増（同3%減）、なすが6%増（同3%減）、レタスが2%増（同5%減）、ピーマンが5%増（同6%減）であった。
3. 購入数量が減少した品目は、たまねぎが9%減（同3%増）、ばれいしょが12%減（同8%増）、だいこんが5%減（同9%減）、他の葉茎菜が5%減（同5%減）、もやしが6%減（同7%減）であった。

（1）令和3年の生鮮野菜の購入数量と支出金額

総務省の家計調査（全国、全世帯）によると、令和3年の2人以上の世帯の年間合計の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、令和2年と比較して、2%減の58キログラムとなった。令和3年12月は、同10%減の4961グラムとなった。

また、令和3年の生鮮野菜の1人当たりの支出金額は、令和2年と比較して、4%減の2万4267円となった。令和3年12月は、同4%減の2039円となった。

月別にみると、1月は新型コロナウイルス（COVID-19）の急激な感染拡大を受けて、2回目の緊急事態宣言（1～3月）が発令されて家庭内需要の増加したことにより、生鮮野菜の購入数量が前年同月比で9%増、支出金額が同14%増となった。その後も3回目（4、5月）、4回目（6～9月）と2度の緊急事態宣言が発令されたものの、自粛疲れにより家庭内調理需要が落ち着いてきたことで購入数量が前年同月を下回る月が多くなり、緊急事態宣言終了後の10月以降は、ワクチン接種率の増加とCOVID-19の感染者数の減少により、外食需要が徐々に回復し始めたことにより家庭内調理需要が減少したことで、ピークの11月は購入数量が同11%減、豊作基調で小売価格が安価であったものの支出金額が同8%減となった。



(2) 令和3年に購入数量が増加した品目

令和3年に購入数量が増加した品目は10品目で、そのうち上位5品目は、キャベツが6338グラム(195グラム増、前年比3%増)、トマトが4085グラム(114グラム増、3%増)、なすが1520グラム(82グラム増、同6%増)、レタスが2188グラム(49グラム増、2%増)、ピーマンが1047グラム(48グラム増、5%増)となった。

これらの品目は、購入量は増加したものの、豊作基調で小売価格が安価に推移したため、支出金額は前年を下回った。

令和3年に購入数量が増加した上位5品目

(単位：グラム、円)

品目	購入数量			支出金額		
		増減数量	増減率		増減金額	増減率
キャベツ	6,338	195	3%	921	▲ 154	▲14%
トマト	4,085	114	3%	2,717	▲ 75	▲3%
なす	1,520	82	6%	732	▲ 20	▲3%
レタス	2,188	49	2%	839	▲ 41	▲5%
ピーマン	1,047	48	5%	778	▲ 48	▲6%

(3) 令和3年に購入数量が減少した品目

令和3年に購入数量が前年を下回った品目は18品目で、そのうち上位5品目は、たまねぎが5699グラム(前年比597グラム減、前年比9%減)、ばれいしょが2947グラム(同402グラム減、同12%減)、だいこんが3987グラム

(199 グラム減、同 5 %減)、他の葉茎菜が 2745 グラム (181 グラム減、5 %減)、もやしが 2157 グラム (145 グラム減、6 %減) となった。

これらの品目のうち、たまねぎ及びばれいしょは、不作傾向で小売価格が高値になったことから、購入数量が減少 (ばれいしょは 2011 年以降で最低) したとみられる。

令和 3 年に購入数量が減少した上位 5 品目

(単位 : グラム、円)

品目	購入数量			支出金額		
		増減数量	増減率		増減金額	増減率
たまねぎ	5,699	▲ 597	▲9%	1,209	31	3%
ばれいしょ	2,947	▲ 402	▲12%	1,031	74	8%
だいこん	3,987	▲ 199	▲5%	531	▲ 53	▲9%
他の葉茎菜	2,745	▲ 181	▲6%	2,268	▲ 112	▲5%
もやし	2,157	▲ 145	▲6%	331	▲ 26	▲7%

消費動向 主要野菜の1人当たり1カ月間の購入数量及び支出金額(全国、全世帯)

(単位:g,円)

	生鮮野菜		葉茎菜		キャベツ		ほうれんそう		はくさい		ねぎ		レタス	
	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額
2011年計	56,793	21,024	19,793	6,328	5,869	799	1,180	670	2,717	393	1,703	929	1,860	677
2012年計	56,937	21,194	19,983	6,591	5,985	832	1,115	701	2,793	382	1,622	930	1,941	768
2013年計	57,966	21,875	20,152	6,885	5,956	904	1,103	699	2,832	440	1,636	967	2,039	833
2014年計	58,539	22,556	20,687	7,025	6,017	948	1,134	727	2,957	421	1,632	955	2,027	825
2015年計	58,002	24,017	20,298	7,546	6,003	1,051	1,111	755	2,845	431	1,641	1,029	1,966	928
2016年計	56,967	24,517	19,985	7,723	6,177	1,016	1,012	750	2,676	485	1,565	1,078	2,003	931
2017年計	57,583	24,077	23,907	10,159	6,037	1,014	996	705	2,793	507	1,624	1,094	2,169	866
2018年計	55,543	24,298	19,708	7,770	5,708	1,076	1,021	748	2,625	520	1,487	1,086	2,106	863
2019年計	55,446	22,890	19,431	6,993	5,797	889	914	642	2,686	386	1,510	1,003	2,022	815
2020年計	59,327	25,400	20,873	7,820	6,143	1,075	1,014	719	2,905	449	1,699	1,160	2,139	880
2021年1月	4,766	1,967	1,880	681	455	78	94	73	449	49	155	118	135	64
2月	4,826	1,896	2,002	644	566	74	134	79	349	37	144	98	177	64
3月	4,926	2,012	1,953	623	598	74	134	67	194	24	122	88	203	64
4月	4,904	2,039	1,694	598	557	81	99	58	154	21	105	79	198	64
5月	5,187	2,193	1,744	622	630	84	95	58	130	18	102	86	223	73
6月	4,645	2,147	1,443	592	455	77	68	50	84	16	92	78	216	80
7月	4,656	1,941	1,477	538	503	72	47	37	79	13	97	77	213	72
8月	4,701	2,031	1,486	570	580	81	35	34	94	17	101	87	213	85
9月	4,521	2,143	1,437	636	537	94	45	45	129	37	124	96	115	84
10月	5,150	2,050	1,943	643	567	84	84	60	381	61	163	101	191	75
11月	4,683	1,809	1,865	576	449	65	97	60	424	53	168	97	157	57
12月	4,961	2,039	1,977	622	441	57	98	63	455	52	211	117	147	57
2021年計	57,926	24,267	20,901	7,345	6,338	921	1,030	684	2,922	398	1,584	1,122	2,188	839

(単位:g,円)

	ブロッコリー		もやし		他の葉茎菜		根菜		かんしょ		ばれいしょ		さといも	
	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額
2011年計	1,171	519	2,311	360	2,768	1,978	21,023	5,916	911	312	3,552	926	703	300
2012年計	1,244	577	2,353	351	2,762	2,051	20,768	5,670	945	316	3,566	791	724	289
2013年計	1,212	581	2,275	332	2,876	2,131	21,090	5,758	1,000	311	3,589	766	686	289
2014年計	1,371	631	2,273	334	2,954	2,187	21,478	6,070	957	319	3,580	825	625	299
2015年計	1,325	689	2,243	342	2,902	2,321	21,358	6,384	917	358	3,437	912	647	322
2016年計	1,228	708	2,189	342	2,936	2,410	20,463	6,591	904	354	3,195	967	591	300
2017年計	1,448	754	2,213	346	2,909	2,344	20,551	6,282	973	350	3,246	930	595	294
2018年計	1,366	763	2,266	357	2,886	2,358	19,538	6,106	882	334	3,182	770	506	269
2019年計	1,592	788	2,069	324	2,643	2,149	19,546	5,725	867	348	3,186	761	472	260
2020年計	1,657	800	2,302	357	2,926	2,380	21,224	6,482	908	392	3,349	957	511	269
2021年1月	138	71	194	30	219	197	1,781	528	83	37	272	83	42	24
2月	206	77	179	28	233	188	1,730	512	90	40	263	89	38	20
3月	187	67	184	27	285	210	1,702	569	79	36	271	11	33	16
4月	141	61	180	27	255	206	1,796	588	58	29	282	124	17	12
5月	134	62	186	29	249	212	1,678	567	46	25	304	132	13	8
6月	101	57	175	27	238	208	1,372	457	30	18	252	87	9	7
7月	122	58	160	25	212	185	1,244	391	32	19	191	55	9	6
8月	92	50	179	28	201	188	1,371	456	58	26	195	56	17	13
9月	90	60	198	30	204	189	1,611	544	95	42	240	73	50	30
10月	131	70	183	28	239	163	1,793	545	103	45	241	72	81	39
11月	185	76	173	26	197	142	1,707	519	85	36	211	70	84	34
12月	166	71	166	26	213	180	1,917	664	110	46	255	79	103	54
2021年計	1,693	780	2,157	331	2,745	2,268	19,702	6,340	869	399	2,977	931	496	263

(単位:g,円)

	だいこん		にんじん		ごぼう		たまねぎ		れんこん		たけのこ		他の根菜	
	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額
2011年計	4,576	565	2,864	793	629	363	5,181	1,019	439	311	332	263	1,762	1,067
2012年計	4,277	560	2,842	761	629	373	5,206	988	420	298	337	257	1,639	1,026
2013年計	4,460	605	2,840	789	665	358	5,327	969	515	354	307	253	1,688	1,065
2014年計	4,688	596	2,942	801	593	371	5,392	1,141	461	349	295	256	1,685	1,113
2015年計	4,579	625	3,012	831	612	379	5,667	1,174	397	341	279	274	1,676	1,163
2016年計	4,166	635	2,780	909	567	380	5,778	1,173	410	369	284	268	1,645	1,232
2017年計	4,490	635	2,841	821	555	381	5,489	1,066	442	373	259	250	1,434	1,092
2017年計	4,490	635	2,841	821	555	381	5,489	1,066	442	373	259	250	1,434	1,092
2018年計	3,941	636	2,697	879	522	367	5,375	1,101	455	362	254	236	1,580	1,153
2019年計	4,006	519	2,694	731	517	341	5,395	1,084	402	325	247	243	1,532	1,113
2020年計	4,186	584	2,849	899	530	353	6,296	1,178	390	326	270	246	1,774	1,282
2021年1月	390	51	251	72	43	31	488	94	43	33	9	12	143	89
2月	373	45	239	66	36	28	483	95	43	31	9	11	135	87
3月	326	39	210	74	34	29	565	113	40	30	30	29	134	90
4月	323	39	232	77	29	25	582	111	23	19	85	57	144	95
5月	279	40	244	76	31	25	552	103	15	13	27	26	169	120
6月	225	35	211	62	25	23	419	83	6	7	19	15	164	122
7月	217	33	184	53	25	21	395	82	11	11	9	9	134	103
8月	231	37	204	62	33	25	470	101	27	24	9	11	133	100
9月	324	56	238	71	43	32	478	103	49	39	8	11	111	87
10月	453	63	261	67	47	31	472	101	51	35	8	10	131	82
11月	434	49	233	63	47	30	396	103	47	34	8	11	161	87
12月	412	44	268	72	69	48	399	120	62	52	25	40	192	107
2021年計	3,987	531	2,775	815	462	348	5,699	1,209	417	328	246	242	1,751	1,169

	他の野菜		さやまめ		かぼちゃ		きゅうり		なす		トマト		ピーマン	
	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額
2011年計	15,765	8,781	757	710	1,517	468	2,764	1,070	1,499	614	3,675	2,126	858	570
2012年計	15,925	8,929	728	671	1,509	447	2,758	1,048	1,462	585	3,752	2,373	873	582
2013年計	16,411	9,231	742	714	1,476	450	2,755	1,075	1,488	602	4,022	2,437	883	615
2014年計	16,179	9,460	762	747	1,431	497	2,549	1,068	1,434	627	4,064	2,446	894	616
2015年計	16,153	10,088	735	772	1,471	536	2,614	1,148	1,366	663	4,068	2,659	902	693
2016年計	16,287	10,200	645	693	1,475	535	2,553	1,137	1,407	678	4,000	2,720	934	707
2017年計	15,286	9,440	666	716	1,416	533	2,629	1,096	1,419	662	4,103	2,717	998	723
2018年計	16,125	10,422	600	683	1,293	513	2,581	1,144	1,381	681	3,982	2,735	981	750
2019年計	16,273	10,174	616	667	1,381	518	2,591	1,098	1,381	653	3,991	2,663	977	726
2020年計	16,863	11,100	621	673	1,411	553	2,696	1,249	1,438	752	3,971	2,792	999	826
2021年1月	1,060	759	27	34	81	36	127	73	51	32	251	171	62	53
2月	1,056	740	34	44	89	35	143	76	60	36	273	182	53	53
3月	1,257	820	49	61	103	39	205	90	95	53	334	220	73	66
4月	1,403	853	47	55	117	40	267	101	122	62	378	246	97	76
5月	1,729	1,004	55	65	110	45	326	120	160	78	509	290	115	82
6月	1,837	1,098	63	70	146	60	303	119	170	88	465	282	103	80
7月	1,903	1,012	94	93	148	54	289	95	229	92	457	253	111	73
8月	1,808	1,006	103	82	133	49	270	112	211	91	392	246	117	74
9月	1,442	962	54	56	132	49	242	122	164	79	281	237	95	71
10月	1,392	862	38	39	133	44	230	90	145	59	281	225	90	57
11月	1,077	715	18	20	94	34	162	71	69	35	231	180	66	47
12月	1,070	754	23	32	101	44	141	67	44	26	232	185	65	46
2021年計	17,034	10,585	605	651	1,387	529	2,705	1,136	1,520	731	4,084	2,717	1,047	778

(単位:g,円)

	生しいたけ		しめじ		えのきたけ		他のきのこ		他の野菜その他	
	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額
2011年計	553	636	-	-	-	-	2,502	1,616	1,534	973
2012年計	538	605	-	-	-	-	2,558	1,616	1,667	1,004
2013年計	530	619	-	-	-	-	2,582	1,632	1,846	1,090
2014年計	519	634	-	-	-	-	2,579	1,682	1,858	1,142
2015年計	530	676	-	-	-	-	799	720	1,784	1,178
2016年計	524	675	-	-	-	-	838	740	1,939	1,284
2017年計	529	674	-	-	-	-	822	748	1,947	1,270
2018年計	532	665	935	618	938	431	822	820	1,983	1,382
2019年計	528	641	923	588	908	395	838	833	2,101	1,391
2020年計	586	712	998	657	950	447	912	901	2,229	1,538
2021年1月	54	71	94	65	108	54	83	80	122	89
2月	50	64	83	55	85	40	79	73	107	82
3月	53	60	83	49	79	32	76	67	103	83
4月	45	51	81	45	67	25	76	64	93	88
5月	42	48	78	45	57	26	70	63	188	141
6月	37	41	70	41	48	22	66	59	370	237
7月	35	37	67	35	47	19	62	51	374	210
8月	35	41	71	39	55	23	73	59	340	191
9月	42	50	82	50	71	33	80	76	195	139
10月	48	59	89	57	94	42	85	84	138	105
11月	58	68	84	55	97	44	79	79	112	81
12月	67	88	82	55	108	51	75	77	128	83
2021年計	566	678	964	591	916	411	904	832	2,270	1,529

(単位:g,円)

	生鮮果物		すいか		メロン		いちご	
	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額	購入数量	支出金額
2011年計	27,024	11,002	1333	463	822	424	1002	1105
2012年計	27,629	11,417	1373	440	753	389	830	1017
2013年計	26,910	11,290	1385	469	730	370	917	1085
2014年計	26,728	11,584	1343	442	823	425	847	1082
2015年計	25,903	12,020	1347	453	628	363	837	1106
2016年計	25,468	12,353	1314	471	684	391	760	1078
2017年計	25,292	12,159	1,282	452	584	373	778	1,092
2018年計	23,994	11,874	1,186	454	606	335	755	1,098
2019年計	24,216	12,051	1,218	439	564	324	765	1,151
2020年計	24,224	12,519	1,019	425	578	337	764	1,175
2021年1月	1,966	956	0	0	7	6	118	205
2月	1,908	963	0	0	5	4	145	234
3月	1,891	949	2	2	9	6	159	250
4月	1,751	900	23	14	18	17	165	215
5月	1,717	910	99	51	82	57	82	113
6月	1,719	951	195	91	137	104	15	17
7月	1,989	1,119	333	152	139	79	3	3
8月	2,116	1,311	347	135	61	44	1	2
9月	2,080	1,231	26	12	19	11	1	1
10月	2,211	1,075	2	2	12	7	1	2
11月	2,344	1,012	1	1	5	4	12	22
12月	2,666	1,226	0	0	12	12	69	148
2021年計	24,358	12,603	1,028	460	506	351	771	1,212

資料:農畜産業振興機構「ベジ探」より

原資料:総務省統計局 2018年から「家計調査結果表(二人以上世帯)」

2017年まで(二人以上世帯-農林漁家世帯を除く)

しめじ、えのきたけについては、2014年までは「他のきのこ」に含まれる。

指定野菜の生産・流通・消費動向

令和3年10月

独立行政法人農畜産業振興機構



目 次

1	指定野菜とは	1	9	トマト	23
2	キャベツ	2	10	なす	26
3	ねぎ	5	11	ピーマン	29
4	はくさい	8	12	だいこん	32
5	ほうれんそう	11	13	にんじん	36
6	レタス	14	14	さといも	39
7	たまねぎ	17	15	ばれいしょ	42
8	きゅうり	20		参考野菜価格安定制度の概要	45

〈使用した資料〉

- | | |
|------------------|-------------------------|
| ・ 国内生産量（全国・指定産地） | 農林水産省「野菜生産出荷統計」 |
| ・ 輸入数量、輸入価格 | 財務省「貿易統計」 |
| ・ 国内価格及び入荷量 | 東京都「東京都中央卸売市場年報」 |
| ・ 国産と輸入品の出回り時期 | 農畜産業振興機構「ベジ探」、財務省「貿易統計」 |
| ・ 購入数量及び購入金額 | 総務省「家計調査報告」 |

1 指定野菜とは

- 「指定野菜」とは、全国的に流通し特に消費が多く重要な野菜で、キャベツ、はくさい、レタスなど14品目が指定されています。
- 指定野菜は、野菜全体の作付面積の約7割、出荷量の約8割、購入量の約7割を占めています。
- 全国の野菜指定産地（産地）が指定野菜の全国出荷量の約7割を担う中核供給基地となっています。

○ 指定野菜14品目



○ 指定野菜の位置付け（令和元年）

品目	作付面積	出荷量	1人当たり	
			購入量	支出額
	千ha	千トン	グラム	円
だ い こ ん	30.9	1,073.0	4,006	518
に ん じ ん	17.0	533.8	2,692	730
ば れ い し ょ	74.4	2,027.0	3,189	760
さ と い も	11.1	92.1	471	261
は く さ い	16.7	726.5	2,715	385
キ ャ ベ ツ	34.6	1,325.0	5,775	888
ほ う れ ん そ う	19.9	184.9	919	642
レ タ ス	21.2	545.6	2,012	812
ね ぎ	22.4	382.5	1,518	1,003
た ま ね ぎ	25.9	1,211.0	5,386	1,083
き ゆ う り	10.3	474.7	2,589	1,096
な す	8.7	239.5	1,373	651
ト マ ト	11.6	653.8	3,988	2,730
ピ ー マ ン	3.2	129.5	973	724
指定野菜計 (A)	307.9	9,598.9	37,606	12,283
野 菜 計 (B)	457.9	11,574.0	55,390	22,862
(A) / (B)	67%	83%	68%	54%

資料：1 農林水産省「野菜生産出荷統計」

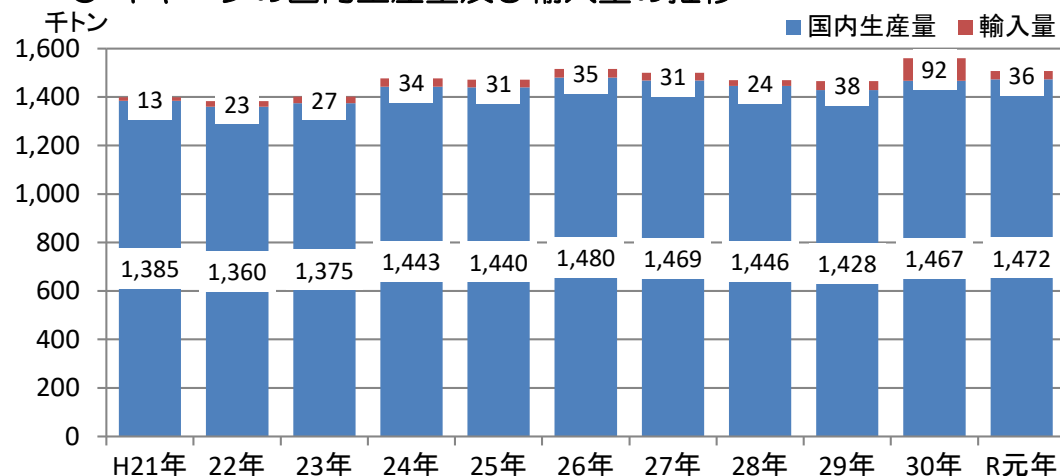
2 総務省「家計調査報告」

注意：野菜計は、作付面積・出荷量は、41品目の野菜計、購入量・支出額は生鮮野菜計である。

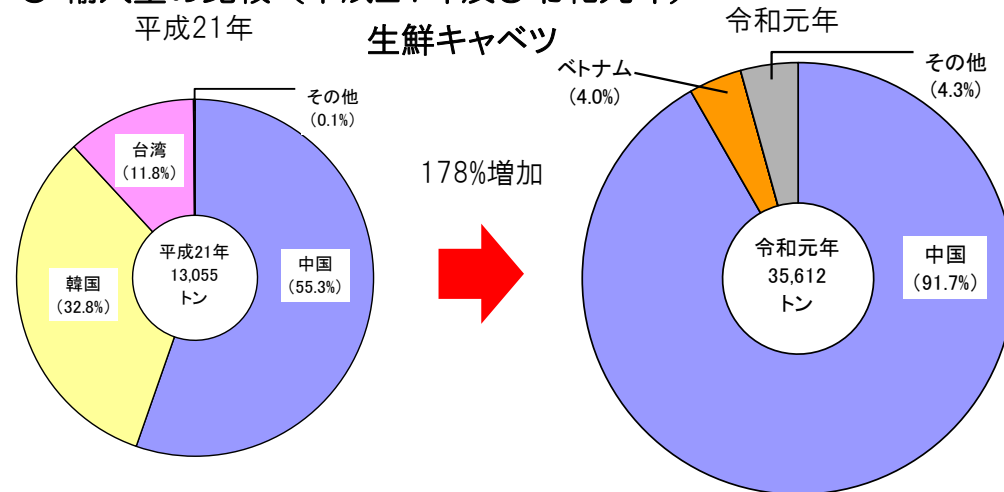
2 キャベツ

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、近年増加傾向（平成21年140万トン→令和元年151万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で97.6%。国内消費量の増加と国産価格の上昇により輸入量が増加（平成21年は99.1%）。
- 国内生産量は近年微増傾向（令和元年は147万トン、平成21年比で108%）。加工・業務用の取引が増えている中四国・九州等多くの県で生産量が増加。上位5県では、鹿児島県が平成21年に比べ7割、茨城県、群馬県及び愛知県が1割以上増加。
- 輸入量は近年は3万トンを上回っており、平成30年は天候不順等による国産の出荷減で9.2万トンに急増。中国が9割を占める。ベトナムの割合が増加。毎月輸入されており、国産が不作になると増加する傾向。

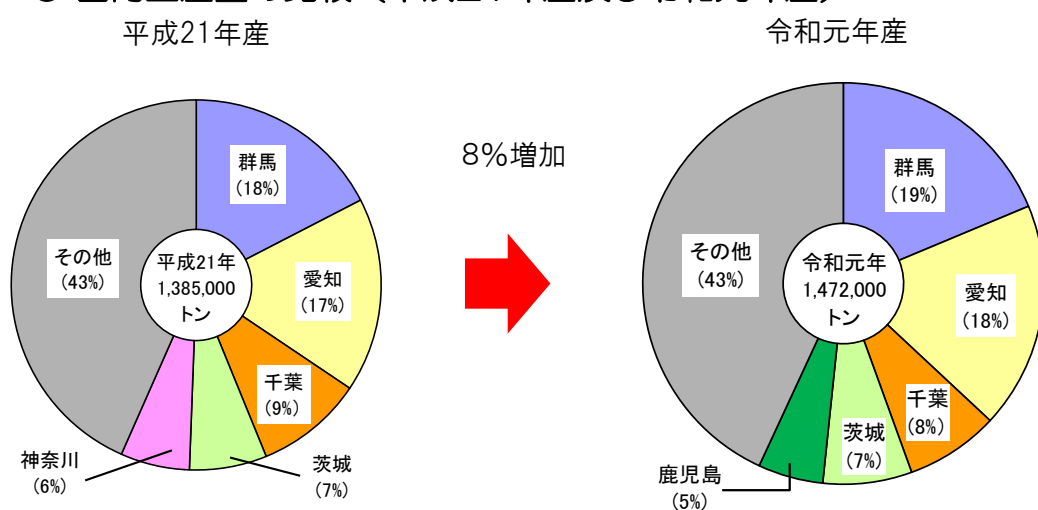
○ キャベツの国内生産量及び輸入量の推移



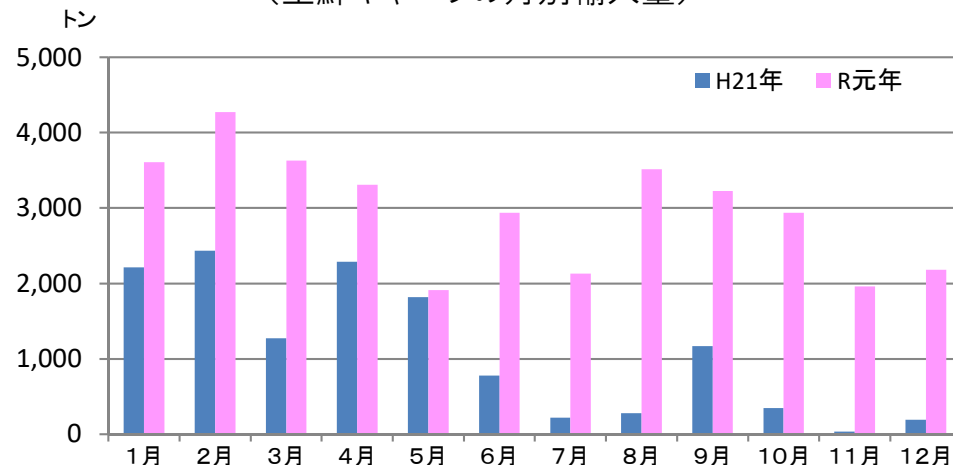
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

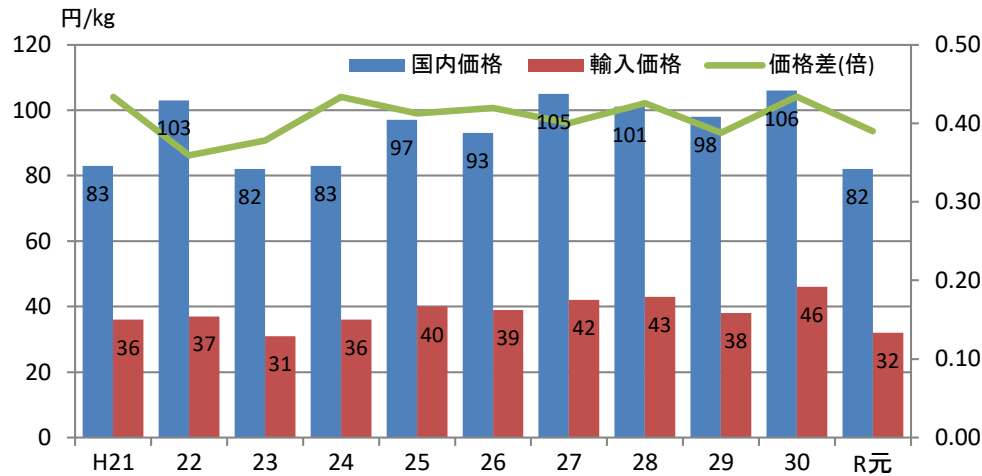


（生鮮キャベツの月別輸入量）

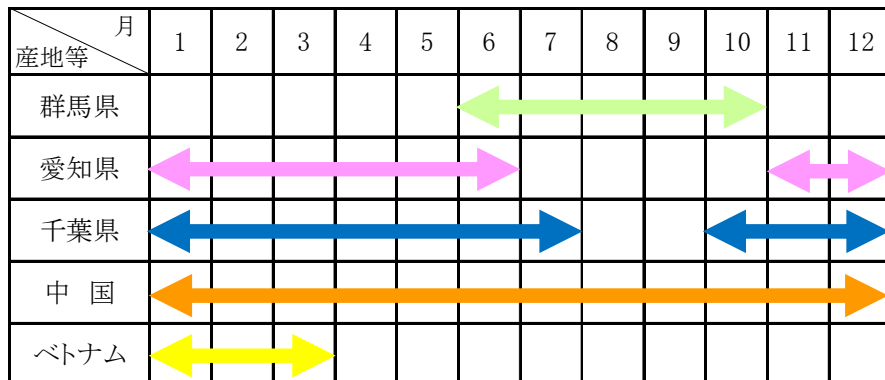


- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は、32円/kgで国内価格82円/kg（東京都中央卸売市場の卸売価格）の4割程度。
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、19.8万トンで平成21年に比べて増加（平成21年比105%）。県別では、長野県（同340%）、愛知県（同120%）及び茨城県（同118%）が大きく増加。
- 加工・業務用需要が増加。外食・中食企業の基本食材として使われることが多く、巻きが固く歩留まりがいい冬系（寒玉）の国内生産量が増加。中国産は周年で輸入されているが、卸売市場にはほとんど入荷されず、多くは直接加工・業務用に仕向けられている。

○ 国産キャベツと輸入キャベツの価格の比較

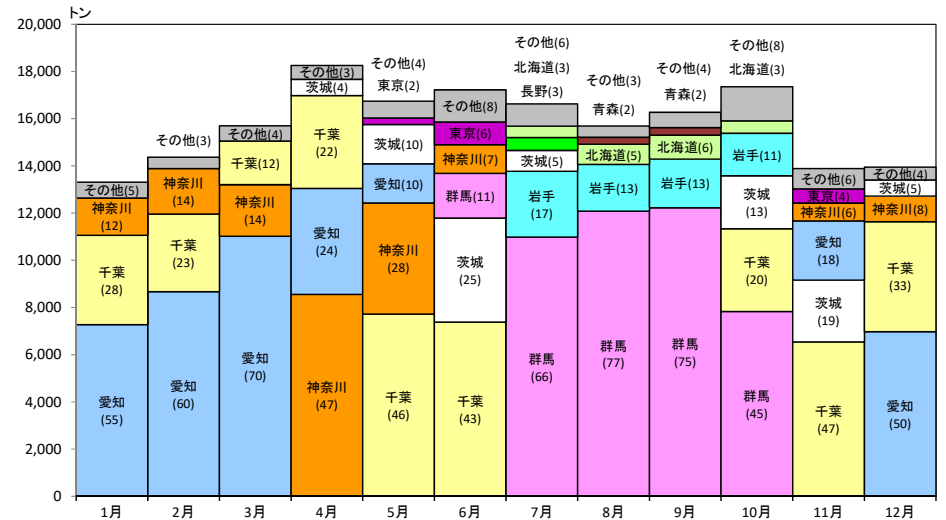


○ 国産キャベツと輸入キャベツの出回り時期

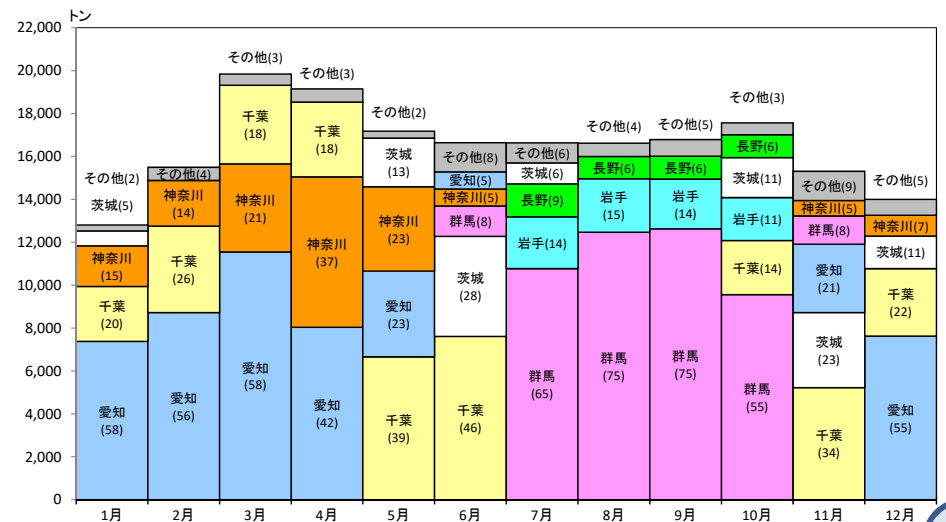


○ 東京都中央卸売市場の入荷量

平成21年

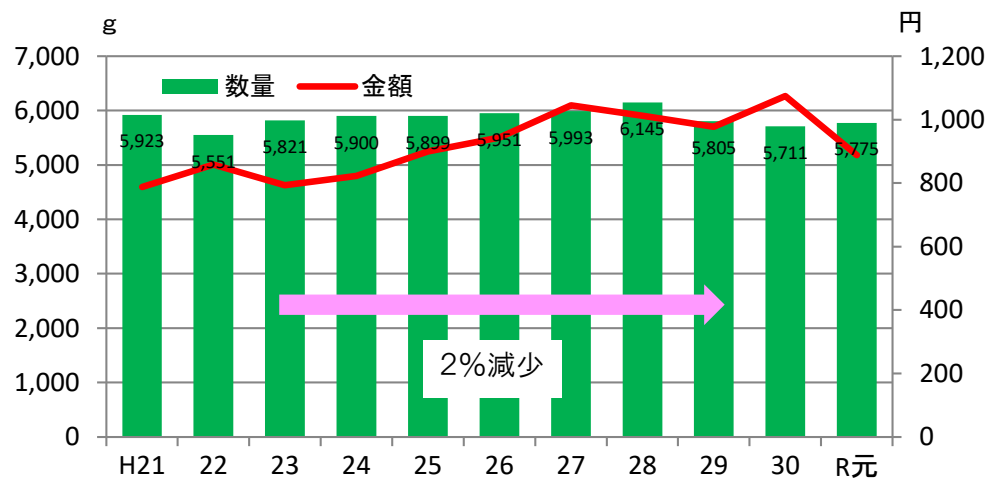


令和元年



- 1人当たり年間購入数量は、この10年間6,000グラム前後で推移し令和元年は5,775グラム。野菜の中で最も購入量が多く、販売価格に関係なく安定している。加工された千切りキャベツも含まれており、1人当たり年間の購入金額は上昇している（令和元年888円）。平成30年は国産の不作により販売価格が高くなった。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は101%（17,650ha）、出荷量（82万トン）は106%とそれぞれ増加。夏秋キャベツの約8割が指定産地から出荷されている。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは作付面積で51%、出荷量で62%を占める。

○ キャベツの年間購入数量と購入金額の推移



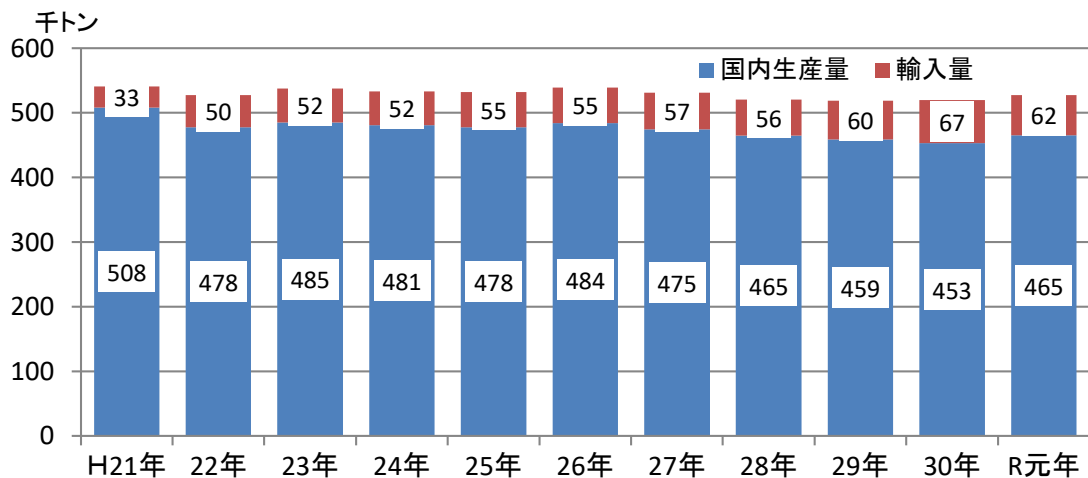
○ キャベツにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年				(単位:ha、t)	
	作付面積		出荷数量			作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地		全国	指定産地	全国	指定産地
春	8,870	(38.7%) 3,430	317,900	(47.1%) 149,700	春	8,860	(38.0%) 3,370	323,700	(43.7%) 141,300
夏秋	10,200	(64.5%) 6,580	399,300	(80.4%) 321,100	夏秋	10,300	(65.5%) 6,750	449,900	(79.5%) 357,500
冬	14,200	(52.8%) 7,500	493,700	(61.5%) 303,600	冬	15,400	(48.9%) 7,530	551,400	(59.0%) 325,600
合計	33,200	(52.7%) 17,510	1,211,000	(63.9%) 774,400	合計	34,600	(51.0%) 17,650	1,325,000	(62.2%) 824,400

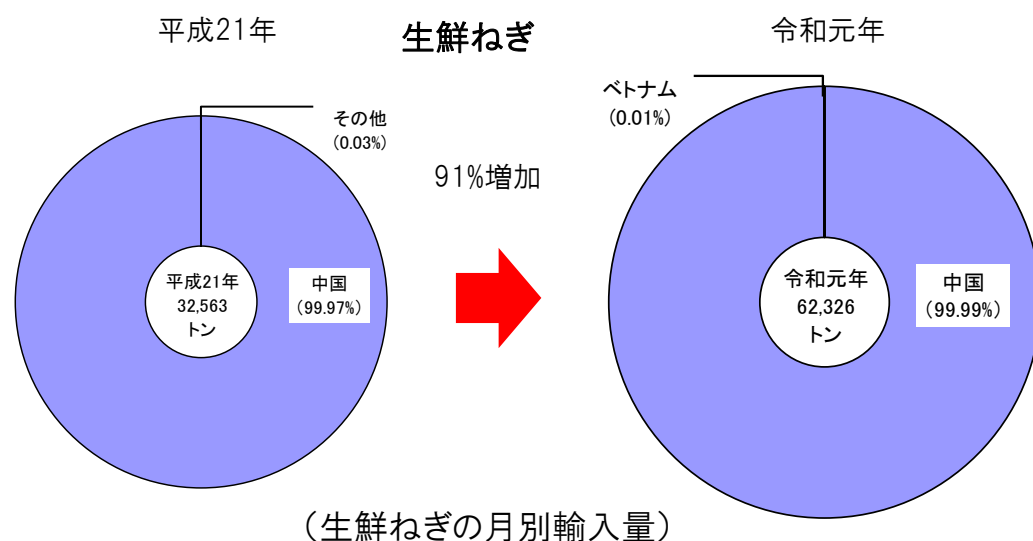
3 ねぎ

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、近年微減傾向（平成21年54.1万トン→令和元年52.8万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で88%と低下傾向（平成21年は94%）。
- 国内生産量は近年微減傾向（令和元年は46.5万トン、平成21年比で91.5%）。上位5県では、茨城県以外は減少。
- 令和元年の輸入量は平成21年比で1.9倍。主な輸入先国は中国で、平成20年1月の中国産ギョーザ事案の発生により一時輸入量が半減したものの、増加に転じ平成19年以前の約9割の水準まで増加。主に加工・業務用として輸入されているが（白ねぎが主、近年は薬味用の刻み青ねぎも増加）、国内生産量の減少も一因と考えられる。

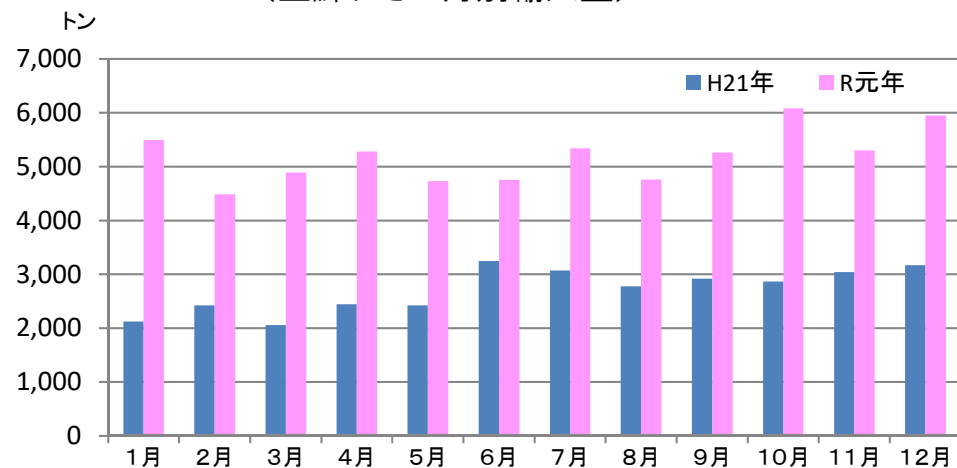
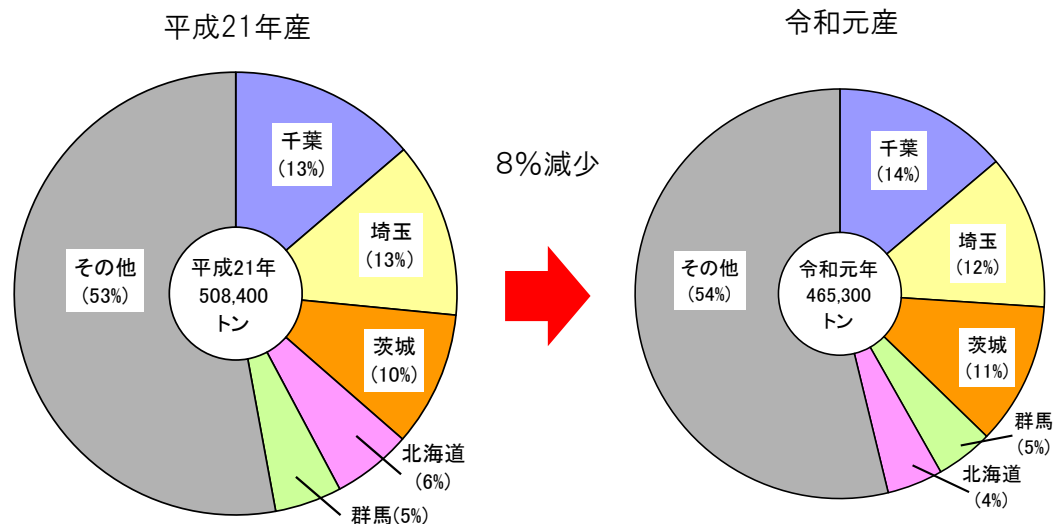
○ ねぎの国内生産量及び輸入量の推移



○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）

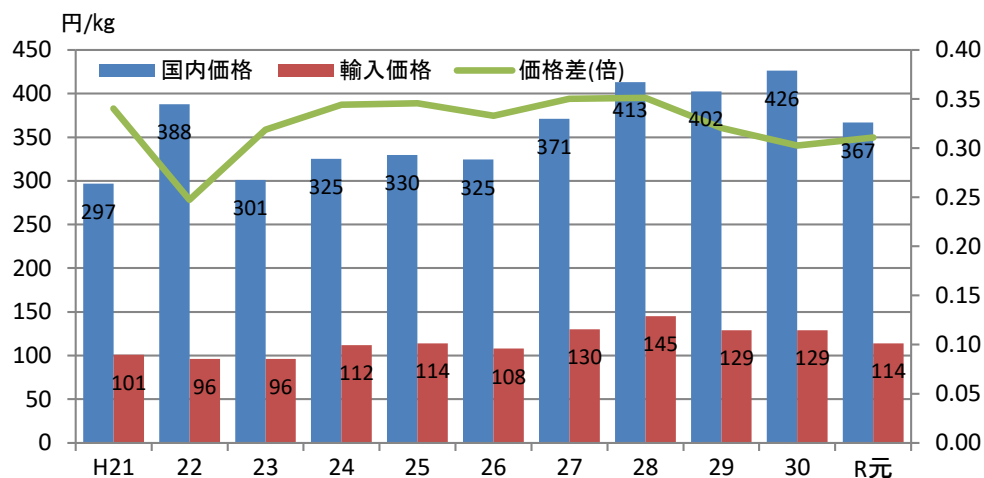


○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

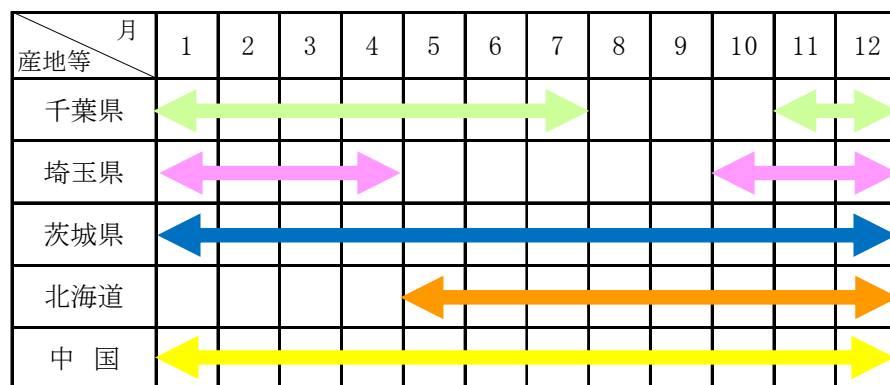


- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は、114円/kgで国内価格367円/kg（東京都中央卸売市場の卸売価格）の3割前後で、指定野菜の中で比較的内外価格差が大きい品目。
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、5.8万トンで平成21年に比べて減少（平成21年比90%）。県別では、北海道（188%）、秋田県（同150%）及び栃木県（同124%）が近年大きく増加。

○ 国産ねぎと輸入ねぎ（生鮮）の価格の比較

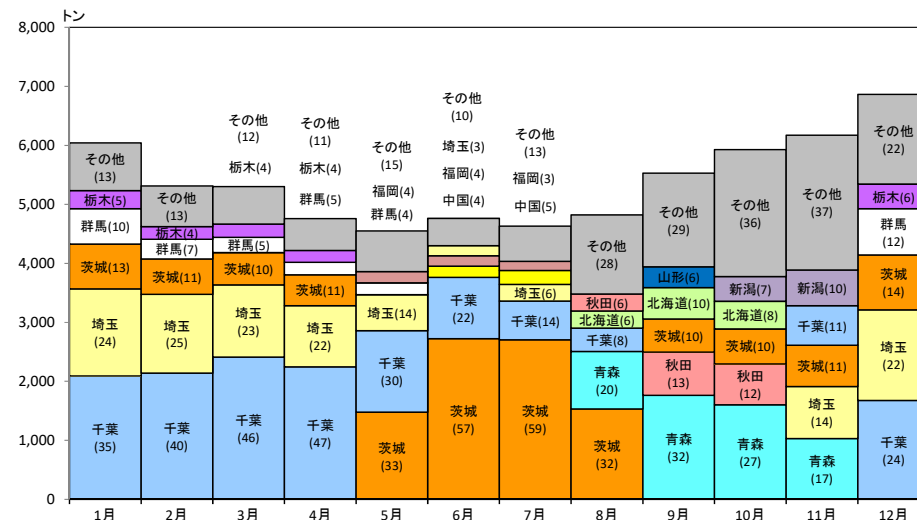


○ 国産ねぎと輸入ねぎ（生鮮）の出回り時期

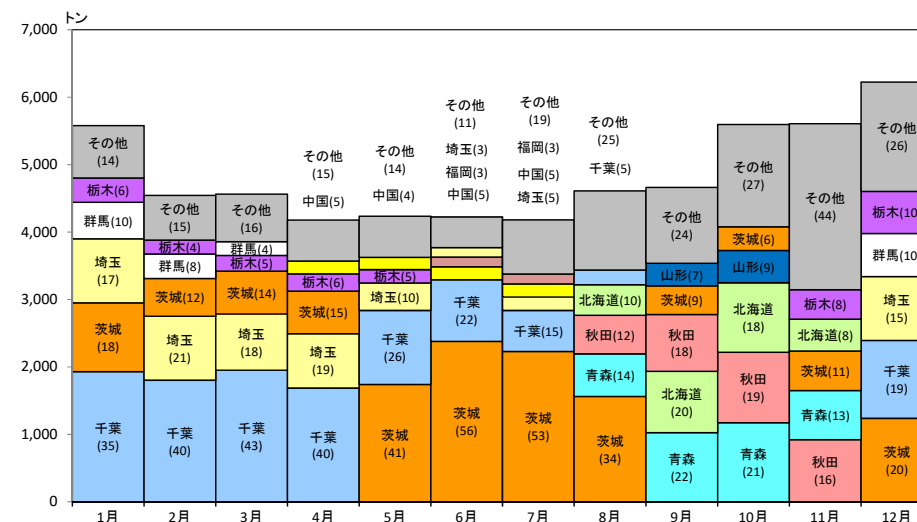


○ 東京都中央卸売市場の入荷量

平成21年

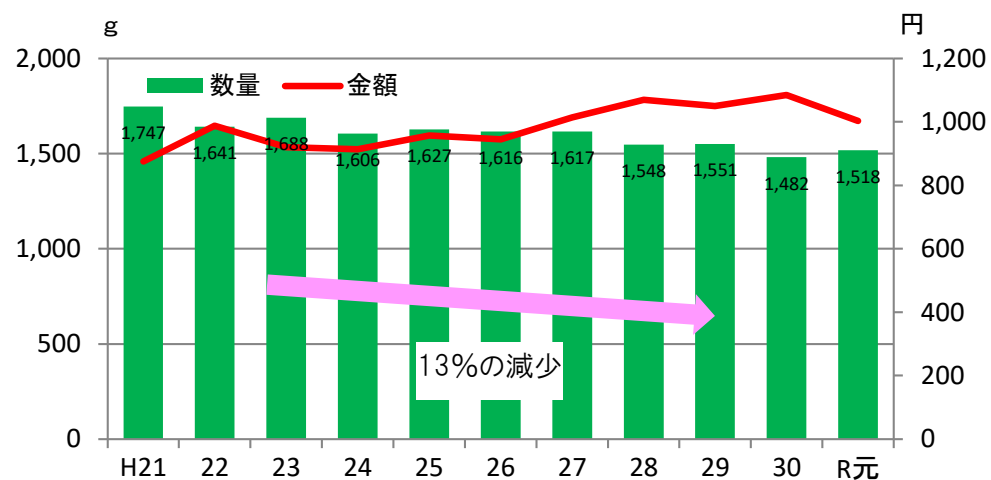


令和元年



- 1人当たりの年間購入数量は、平成28年以降は1,550グラム前後で推移している。30年は価格高騰により大きく減少し1,482グラム。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は110%（6,074ha）、出荷量は106%（11.8万トン）とそれぞれ増加。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で27%、出荷量で31%を占める。

○ ねぎの年間購入数量と購入金額の推移



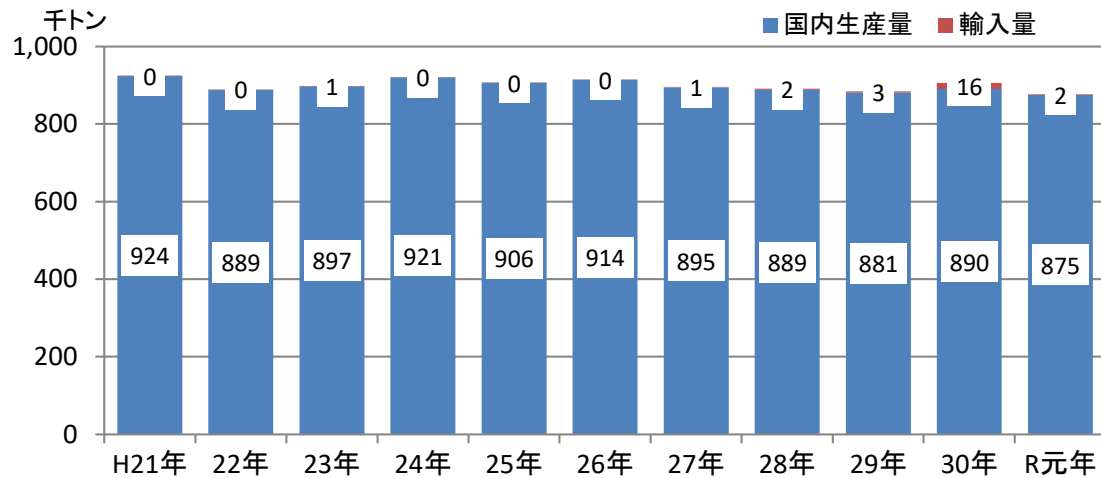
○ ねぎにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年				(単位:ha、t)	
	作付面積		出荷数量			作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地		全国	指定産地	全国	指定産地
春	3,410	(15.1%) 515	75,200	(18.4%) 13,800	春	3,410	(22.4%) 764	71,800	(23.4%) 16,800
夏	5,160	(25.8%) 1,330	85,000	(30.5%) 25,900	夏	4,910	(27.9%) 1,370	80,700	(34.4%) 27,800
秋冬	14,600	(25.3%) 3,700	239,800	(29.6%) 70,900	秋冬	14,100	(27.9%) 3,940	230,100	(31.7%) 72,900
合計	23,100	(24.0%) 5,545	400,000	(27.7%) 110,600	合計	22,400	(27.1%) 6,074	382,500	(30.7%) 117,500

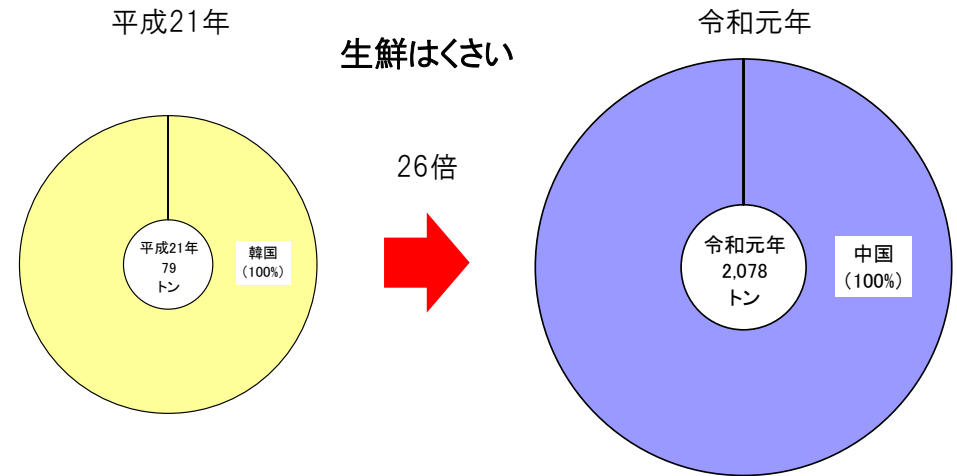
4 はくさい

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、近年88～92万トン前後で推移（平成21年92.4万トン→令和元年87.7万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、ほぼ100%で推移。
- 国内生産量はやや減少傾向（令和元年は87.5万トン、平成21年比で95%）。北海道及び東北産の生産量が減少したことが要因。上位5県では、長野県が約1割増加。北海道は約3割減少。その他の県では、熊本県が約3割、宮崎県が約5割増加。
- 輸入量は国内の不作時以外は非常に少なく、国産が不作になった年に加工・業務用（主として漬物用）として輸入されている（平成28年の10～12月、平成30年1～4月）。近年、国内価格の高騰もあり、平成29年以降は周年で輸入されている。

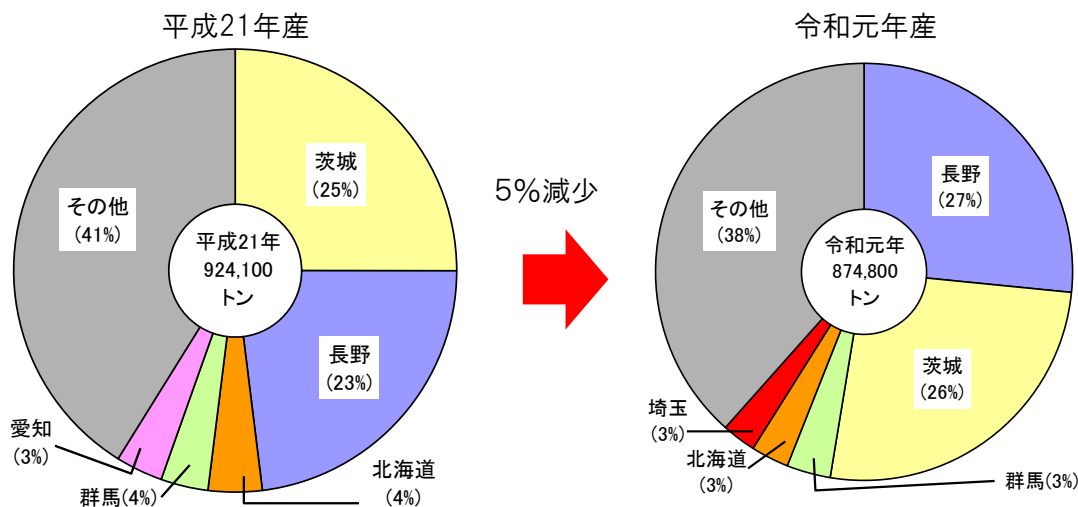
○ はくさいの国内生産量及び輸入量の推移



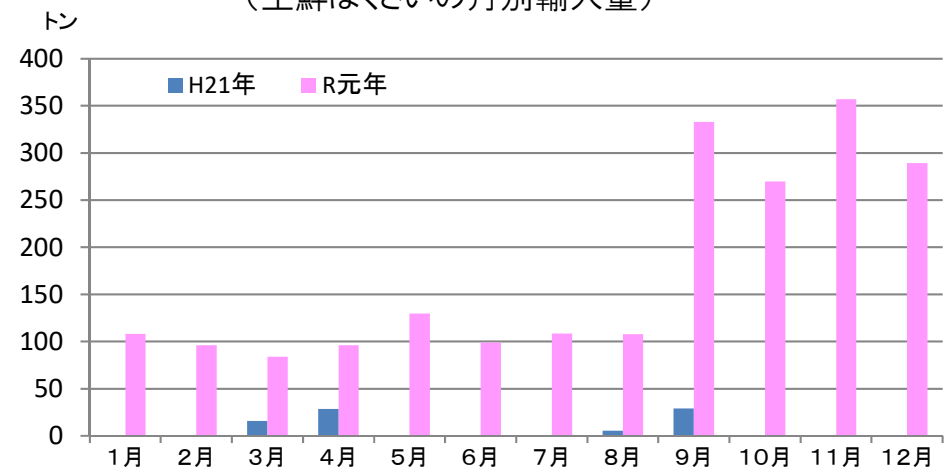
○ 輸入量の比較（平成21年及び平成元年）



○ 国内生産量の比較（平成20年産及び平成30年産）

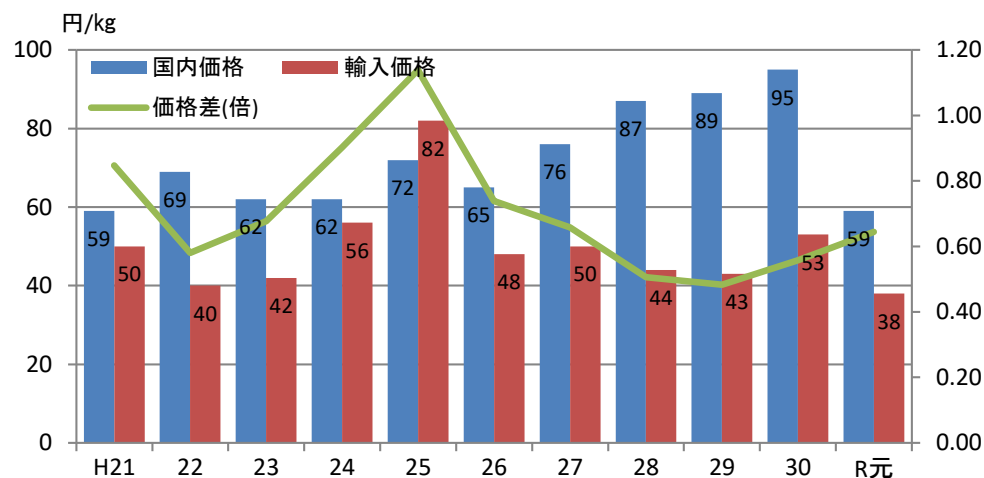


（生鮮はくさいの月別輸入量）

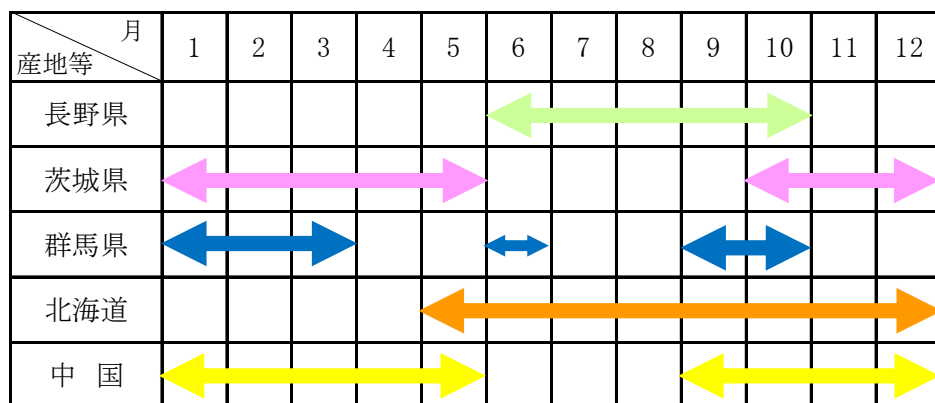


- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は38円/kgで、近年国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の5割～6割程度。
- 輸入品は、卸売市場の入荷は少なく、主に漬物用原料用に仕向けられている。
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、12.7万トンで平成21年に比べて増加（平成21年比116%）。県別では、長野県（同148%）及び長崎県（同138%）が大きく増加する一方、愛知県が大幅に減少。

○ 国産はくさいと輸入はくさい（生鮮）の価格の比較

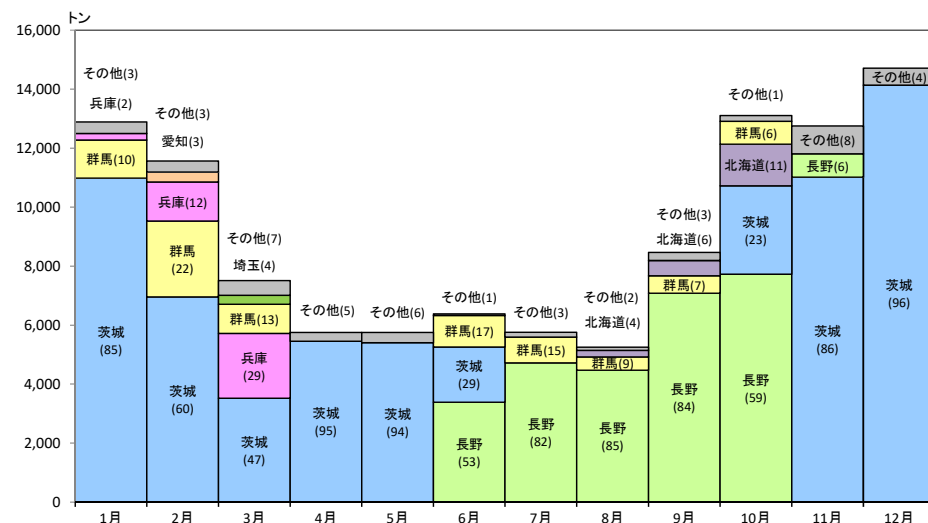


○ 国産はくさいの出回り時期

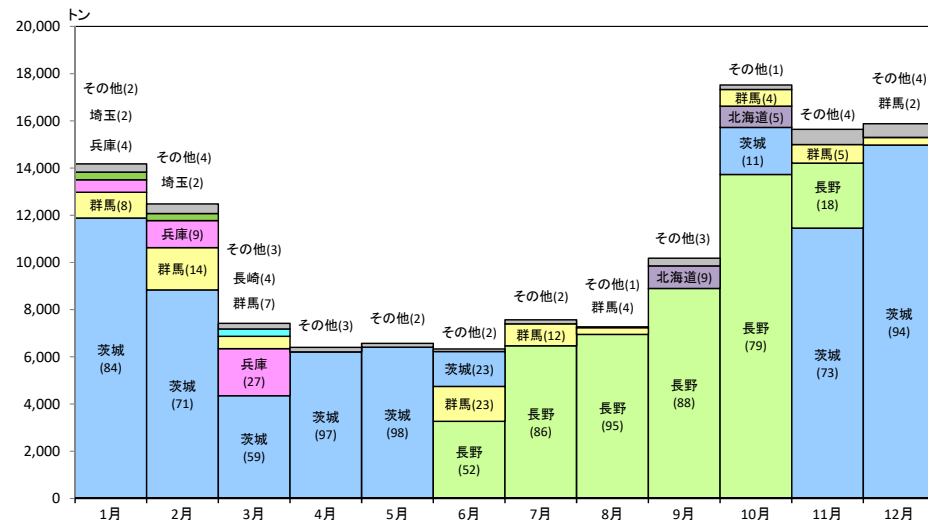


○ 東京都中央卸売市場の入荷量

平成21年

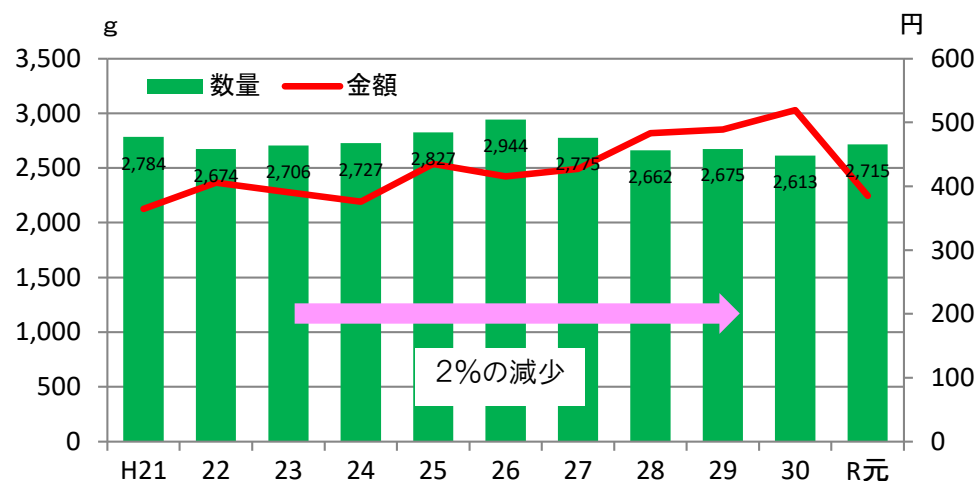


令和元年



- 1人当たりの年間購入数量は、平成26年の2,944グラムをピークに減少したが、近年は2,600～2,700グラム程度で推移。家庭で手軽に作れる鍋つゆの普及が一因。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は98%（6,335ha）、出荷量は103%（42.0万トン）となった。夏はくさいは、9割以上が指定産地から出荷されている。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で38%、出荷量で58%を占める。

○ はくさいの年間購入数量と購入金額の推移



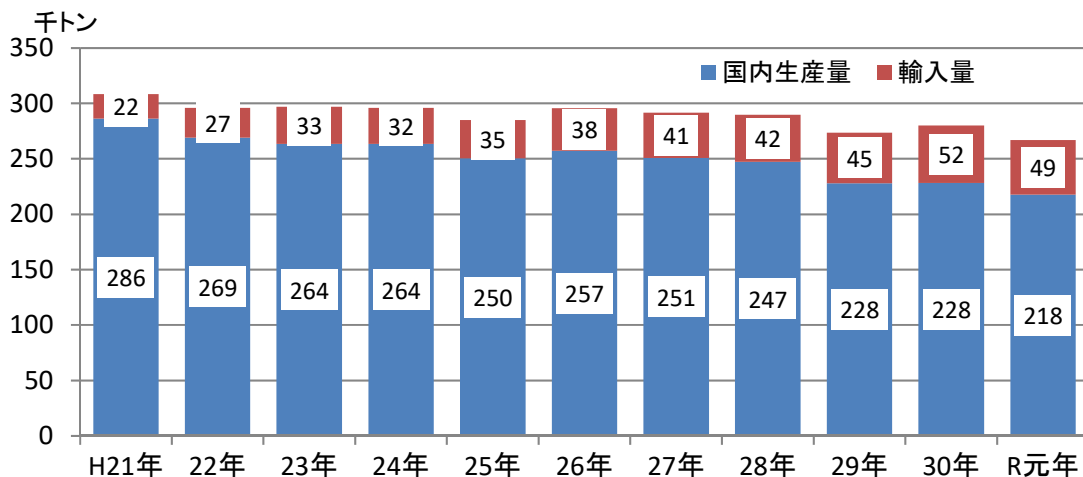
○ はくさいにおける指定産地の位置付け

平成21年					令和元年				
	作付面積		出荷数量			作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地		全国	指定産地	全国	指定産地
春	1,880	(47.8%) 899	102,200	(60.0%) 61,300	春	1,810	(49.4%) 895	107,600	(59.9%) 64,500
夏	2,800	(73.6%) 2,060	152,400	(87.7%) 133,600	夏	2,460	(84.1%) 2,070	163,200	(92.5%) 151,000
秋冬	13,900	(25.4%) 3,530	464,000	(46.3%) 214,700	秋冬	12,500	(27.0%) 3,370	455,700	(44.9%) 204,500
合計	18,600	(34.9%) 6,489	718,700	(57.0%) 409,600	合計	16,700	(37.9%) 6,335	726,500	(57.8%) 420,000

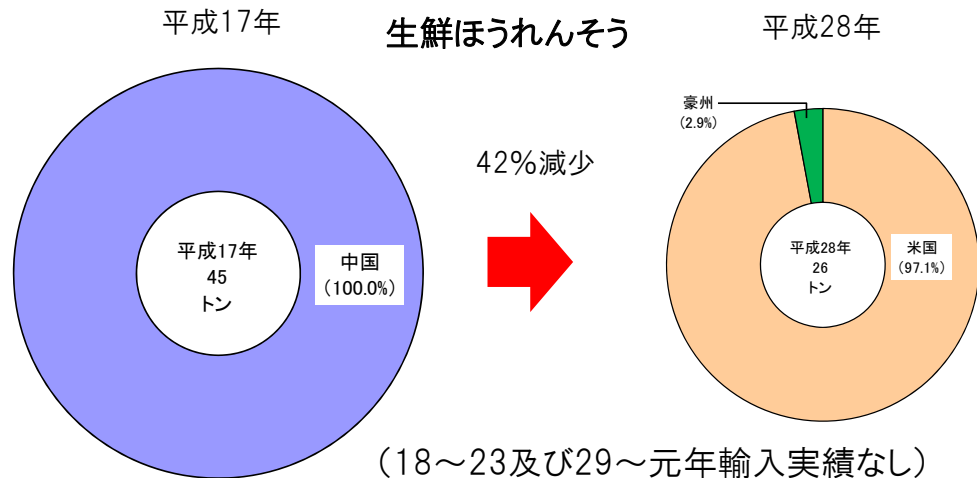
5 ほうれんそう

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、近年微減傾向（平成21年30.8万トン→令和元年26.7万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で82%と国産割合が低下（平成21年は93%）。輸入は、輸入先が中国から米国に変わった生鮮ではほとんどなく、冷凍ほうれんそうが年々増加（平成21年比223%）。
- 国内生産量は減少（令和元年は21.8万トン、平成21年比で76%）。多くの県で生産量が減少する中、熊本県（同比114%）及び宮崎県（同111%）では増加。宮崎県では国産の冷凍ほうれんそう製造のために増加していると考えられる。

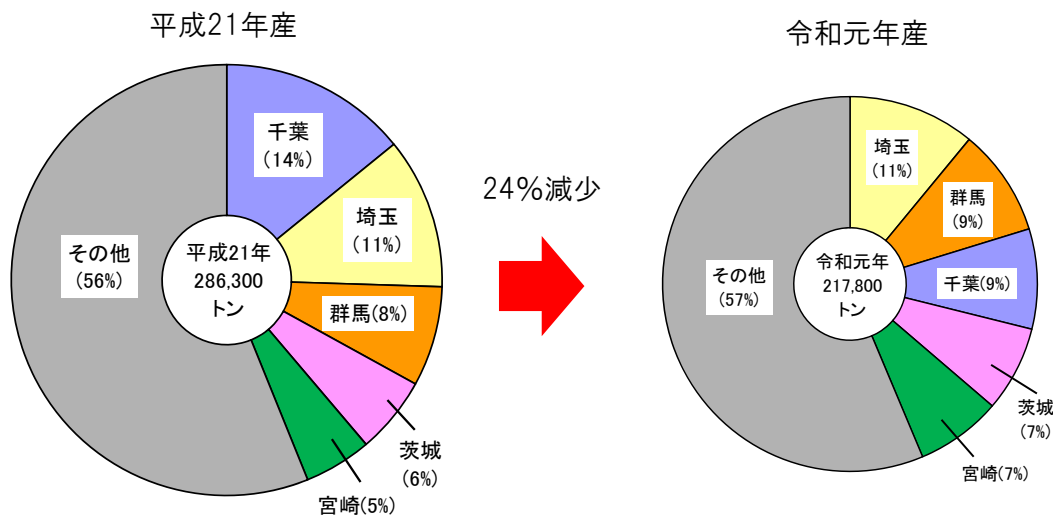
○ ほうれんそうの国内生産量及び輸入量の推移



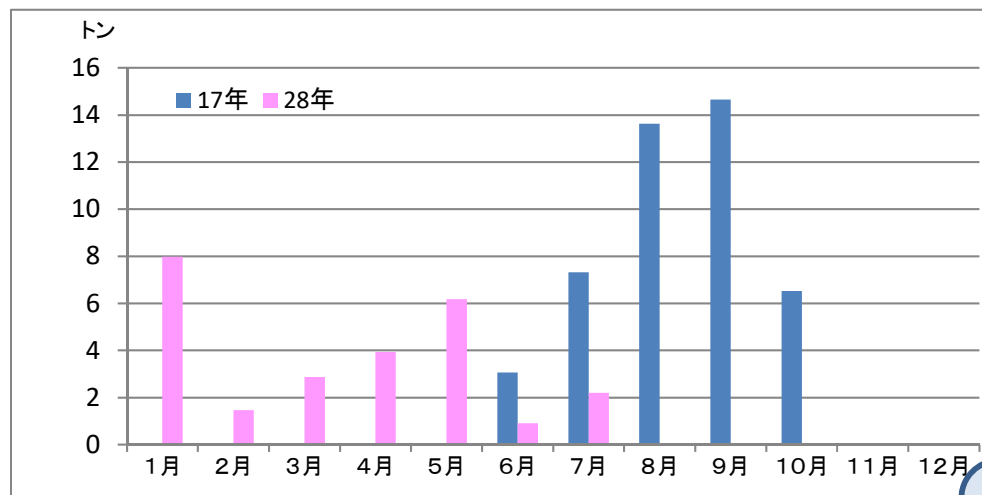
○ 輸入量の比較（平成17年及び平成28年）



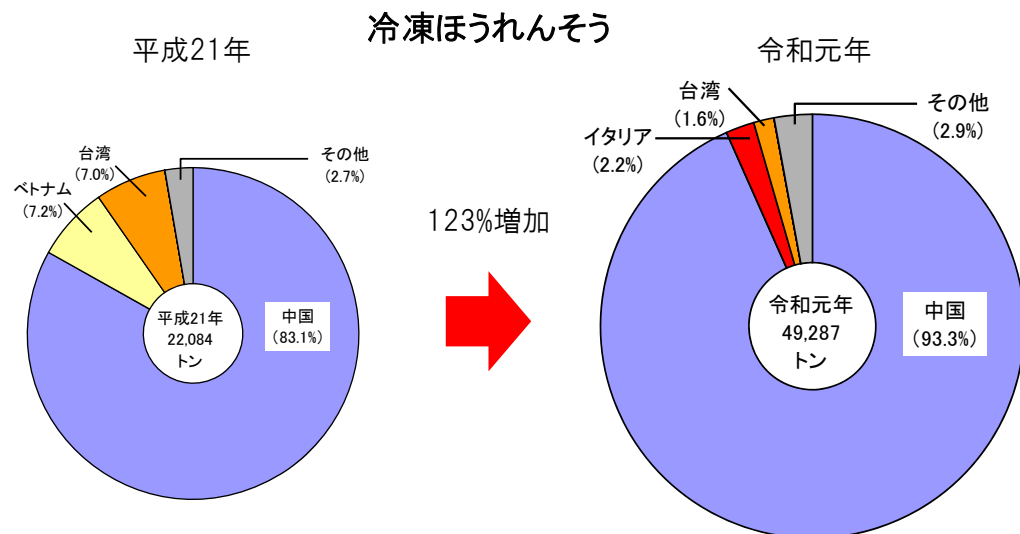
○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）



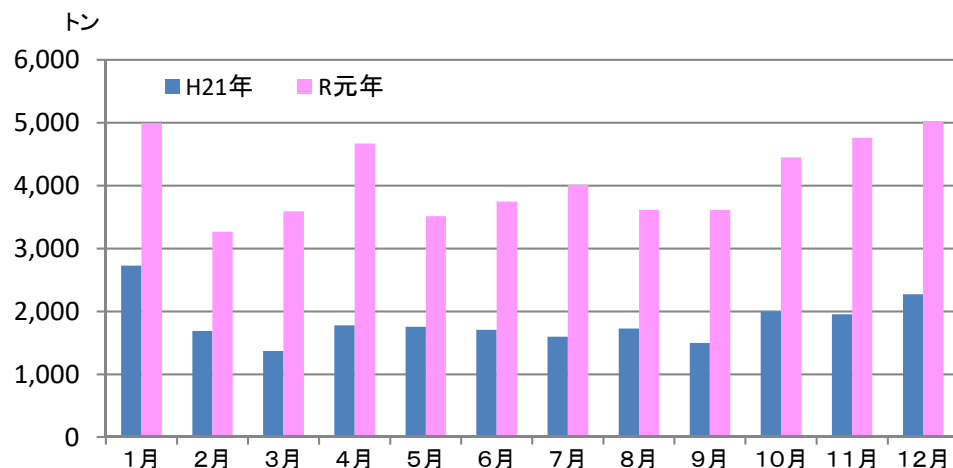
(生鮮ほうれんそうの月別輸入量)



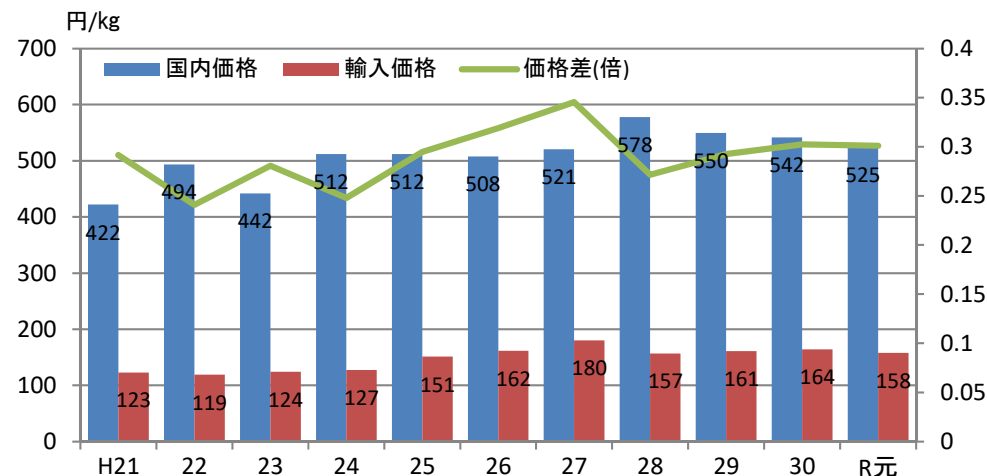
- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は158円/kg、国内価格525円/kg（東京都中央卸売市場の卸売価格）の3割程度。
- 冷凍ほうれんそうは、周年で量販店での販売や加工・業務用として輸入。令和元年の輸入量は、平成21年に比べて223%と大きく増加。中国の割合が大きく増加（平成21年83%→令和元年93%）。
- 宮崎県を中心に国産冷凍ほうれんそうの生産も増加傾向。



（冷凍ほうれんそうの月別輸入量）



○ 国産ほうれんそうと輸入ほうれんそう（冷凍）の価格の比較



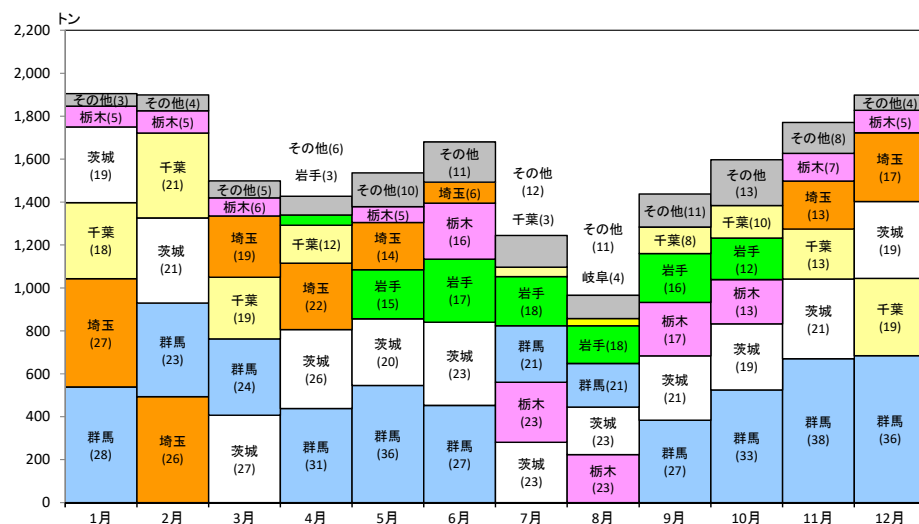
○ 国産ほうれんそうと輸入ほうれんそう（冷凍）の出回り時期

月 産地等	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
埼玉県	←									→		
群馬県	←											
千葉県	←									→		
中国	←											
台湾	←											

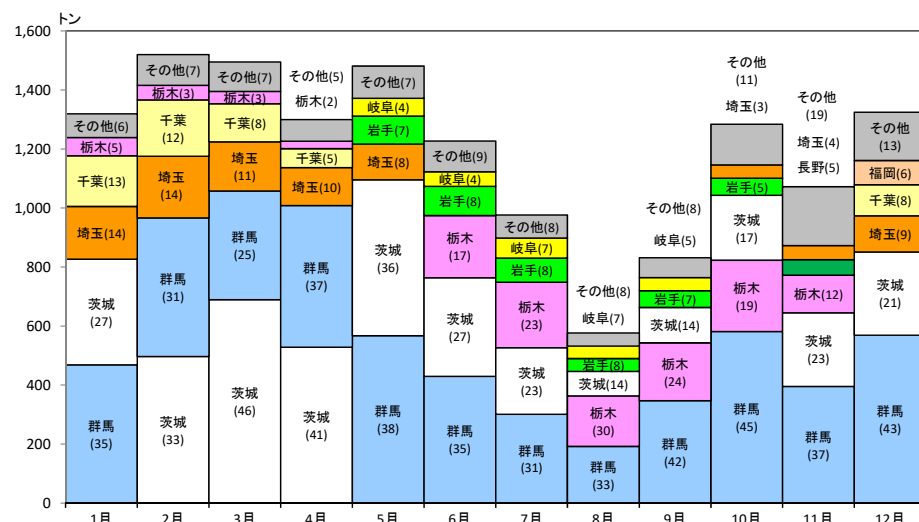
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、1.4万トンで平成21年に比べて大きく減少（平成21年比76%）。県別では、福岡県17倍、福岡県6倍、岐阜県（同176%）が大きく増加する一方、岩手県、千葉県、埼玉県が大きく減少。
- 令和元年の1人当たりの年間購入数量は919グラムで、平成18年以降は減少傾向。一方、1人当たりの年間購入金額は700円前後で推移しており、価格によって購入数量が変化している。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は90%（6,320ha）、出荷量は90%（57千トン）と減少。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で32%、出荷量で30%を占める。

○ 東京都中央卸売市場の入荷量

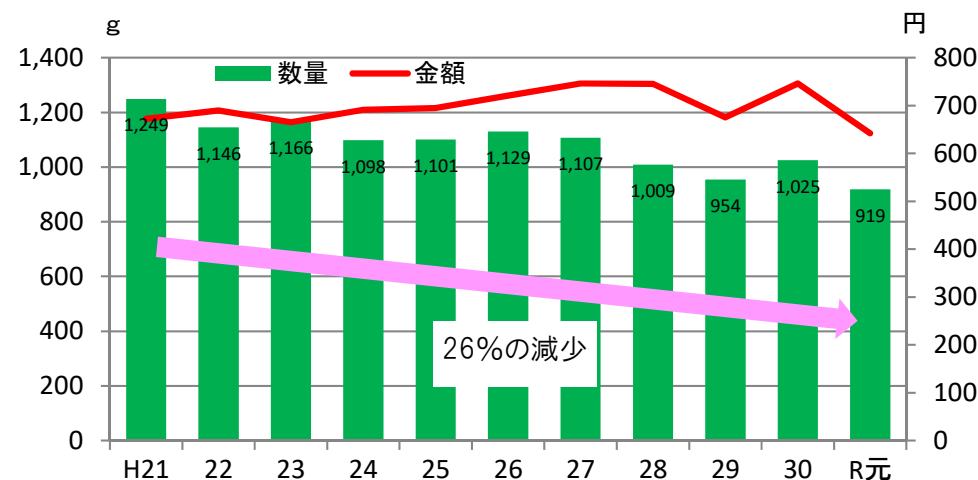
平成21年



令和元年



○ ほうれんそうの年間購入数量と購入金額の推移



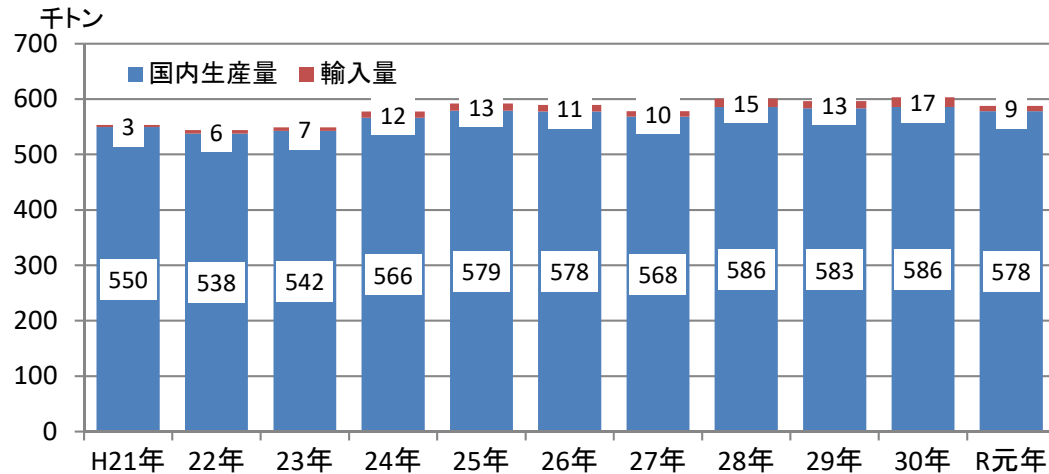
○ ほうれんそうにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年				(単位:ha、t)	
作付面積		出荷数量		作付面積		出荷数量			
全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地
	(31.2%)		(26.9%)		(31.8%)		(30.9%)		
22,400	6,990	234,200	63,100	19,900	6,320	184,900	57,100		

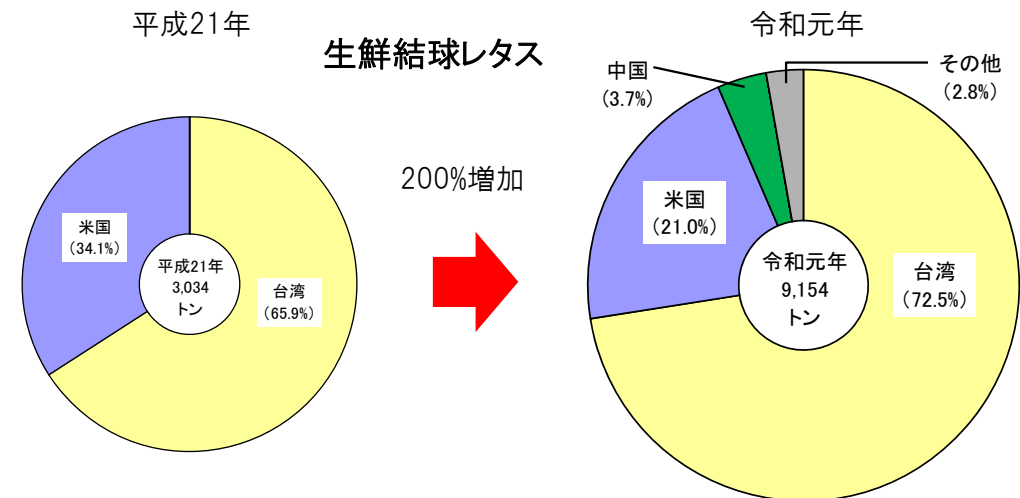
6 レタス

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、近年増加傾向（平成21年55.3万トン→令和元年58.7万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で98.4%と微減（平成21年は99.4%）。
- 国内生産量は増加（令和元年は57.8万トン、平成21年比で105%）。上位5県では、長崎県（同138%）、群馬県（同125%）及び長野県（同108%）では増加。
- 輸入量は平成24年以降9千トン以上輸入されており、主な輸入先国は台湾及び米国。近年、結球レタスは、冬場（12月から3月）の国産が気象の影響で不作の場合が多く、外食などの業務用として台湾からの輸入が常態化。

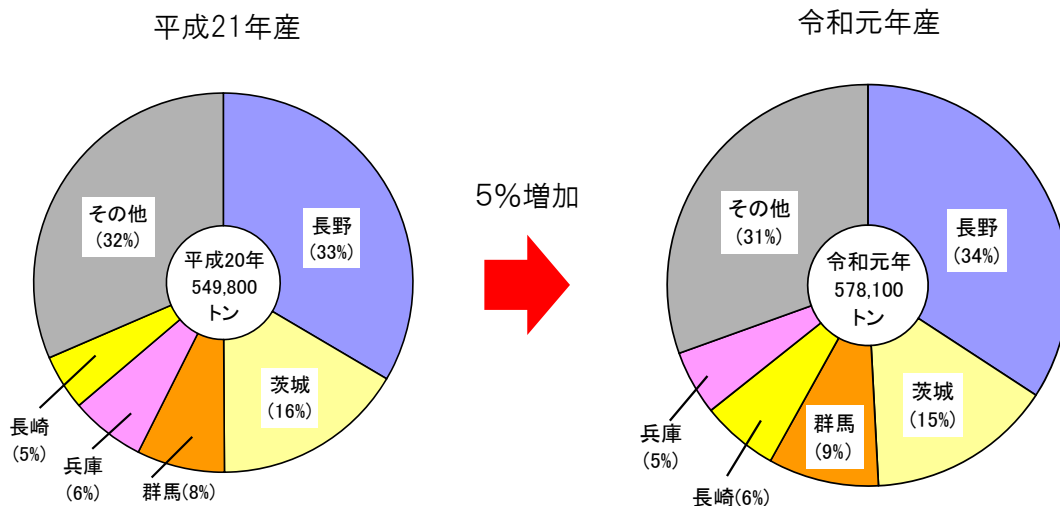
○ レタスの国内生産量及び輸入量の推移



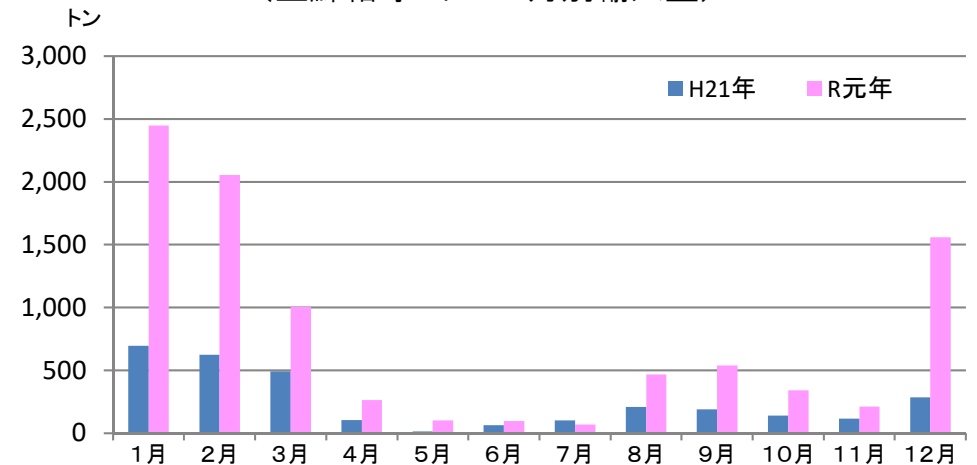
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



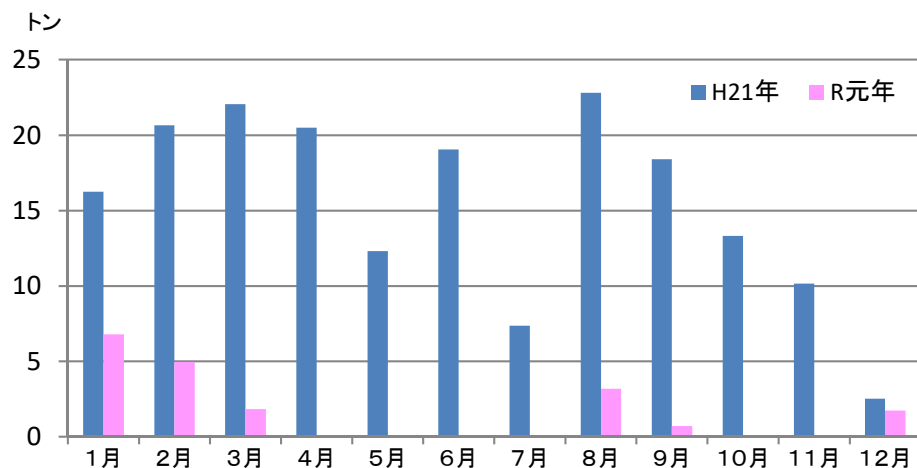
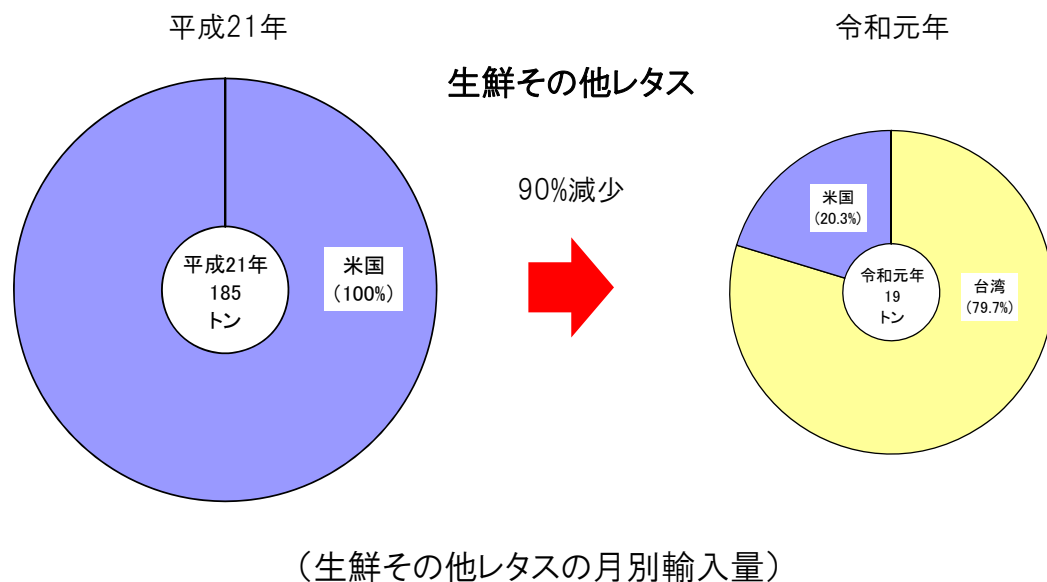
○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）



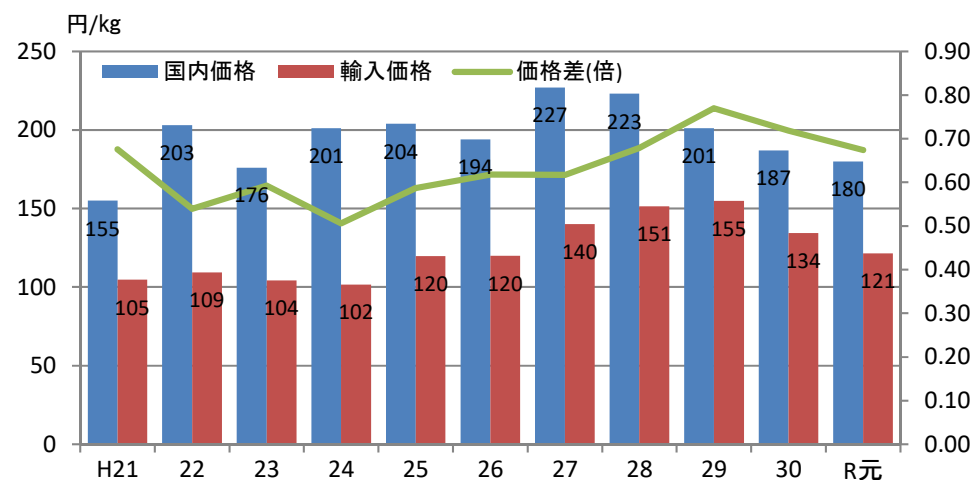
（生鮮結球レタスの月別輸入量）



- 非結球レタス（ロメインレタス等）は、業務用として主に米国から輸入されていた。近年減少傾向が続いており、平成16年以降で最低の輸入量となった。結球レタス同様に台湾からの輸入が増加。
- 令和元年の生鮮レタス輸入価格（CIF価格）は121円/kgで、平成20年までは国産との価格差が小さかったが、21年以降は価格差が広がり近年は国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の7割程度で推移。平成21年以降価格が安い結球レタスの輸入が増加したことが要因。



○ 国産レタスと輸入レタス（生鮮）の価格の比較



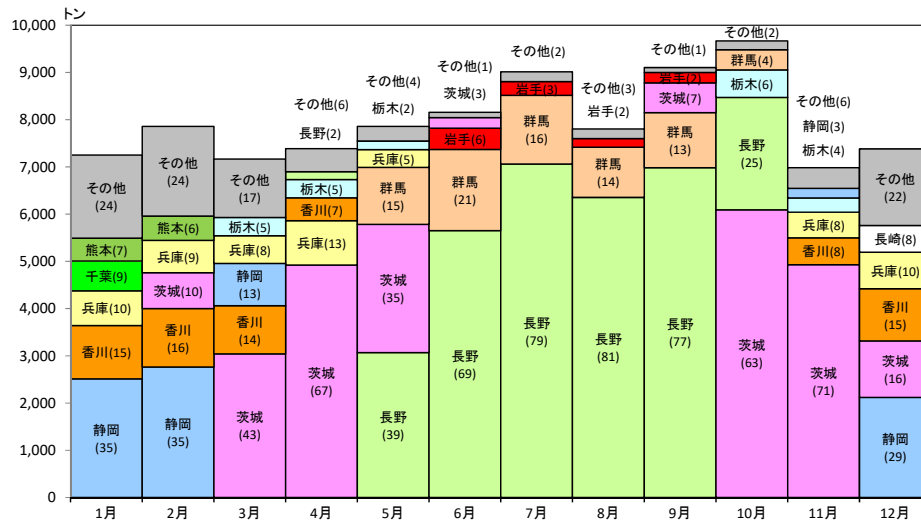
○ 国産レタスと輸入レタス（生鮮結球）の出回り時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
産地等												
長野県					←					→		
茨城県	←					→				←		→
群馬県					←					→		
台湾(結球)	←				→							→
米国(結球)	←											→

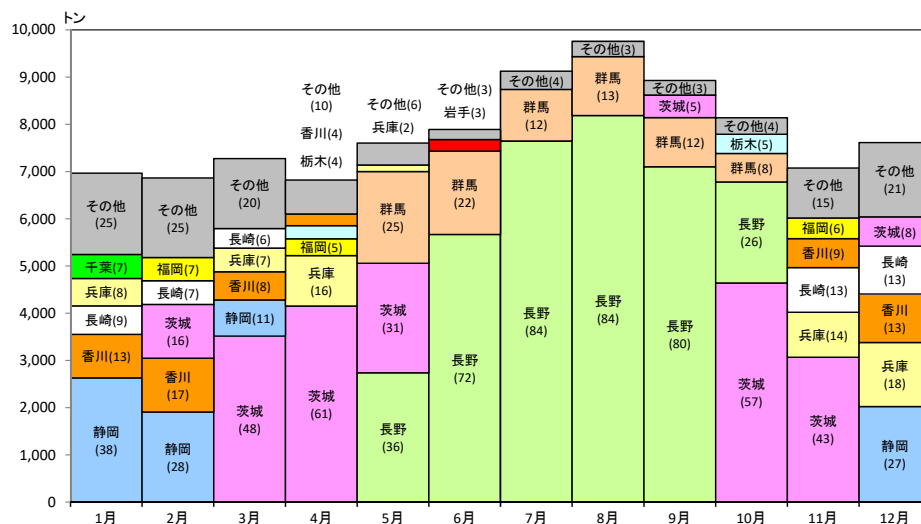
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、9.4万トンで平成21年に比べてやや減少（平成21年比98%）。県別では、長崎県（同220%）、福岡県（同182%）、群馬県（同110%）、兵庫県（同109%）及び長野県（同106%）が増加。
- 令和元年の1人当たり年間購入数量は2,012グラムで、増加傾向。近年は2,000グラム前後で推移。販売価格に関係なく購入量が増加しており、加熱調理の普及や家庭でサラダの食材として増えているためと考えられる（各調味料メーカーが様々な素材を使用したドレッシングを販売しており、相性の良いレタスを多く使うようになった）。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は101%（16,060ha）、出荷量は107%（44.6万トン）とそれぞれ増加。令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で77%、出荷量で83%を占めている。夏秋レタスでは9割を超えている。指定野菜の中でも割合が高い。

○ 東京都中央卸売市場の入荷量

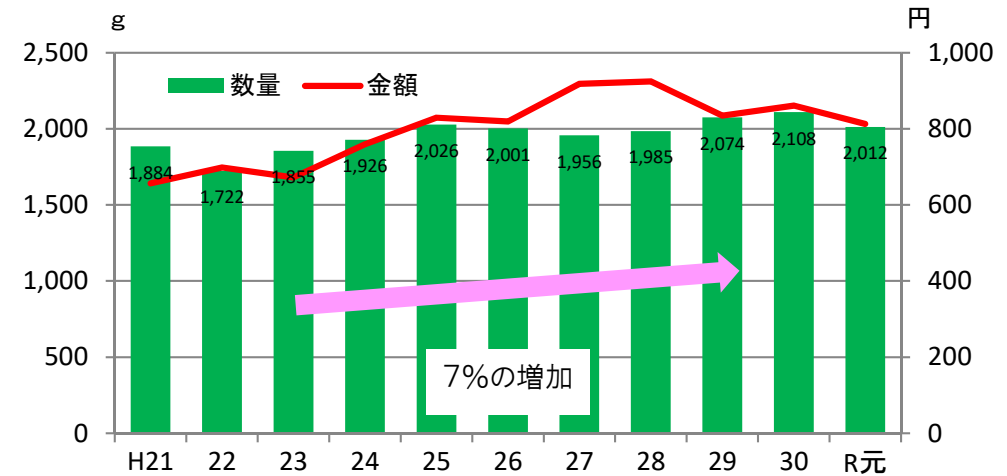
平成21年



令和元年



○ レタスの年間購入数量と購入金額の推移



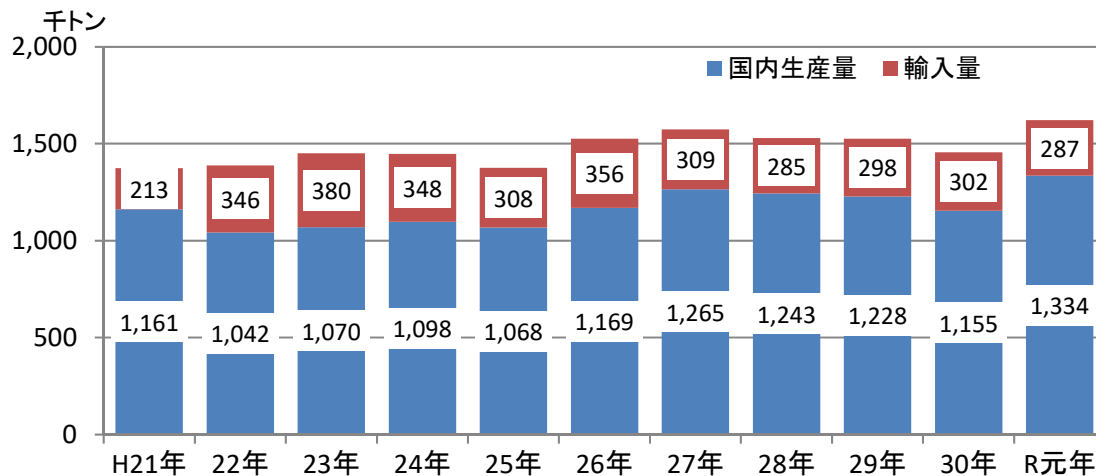
○ レタスにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年				(単位:ha、t)	
	作付面積		出荷数量			作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地		全国	指定産地	全国	指定産地
春		(66.3%)		(66.9%)	春		(61.7%)		(63.6%)
	4,116	2,730	108,000	72,300		4,211	2,600	109,540	69,700
夏秋		(85.9%)		(92.2%)	夏秋		(85.0%)		(91.7%)
	8,437	7,250	232,020	214,000		8,939	7,600	259,030	237,600
冬		(78.3%)		(81.6%)	冬		(77.0%)		(81.9%)
	7,589	5,940	162,470	132,600		7,607	5,860	169,340	138,700
合計		(79.1%)		(83.3%)	合計		(77.4%)		(82.9%)
	20,122	15,920	502,930	418,900		20,757	16,060	537,910	446,000

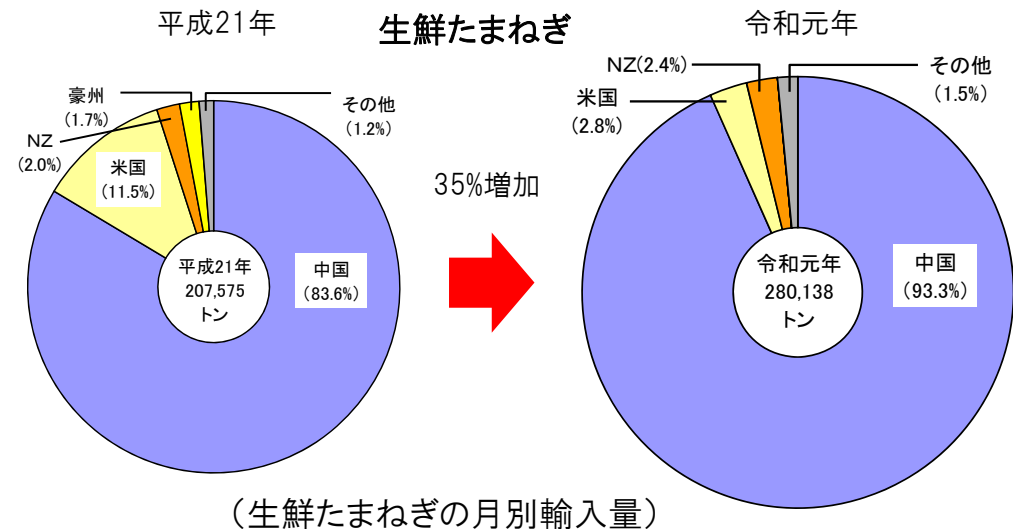
7 たまねぎ

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、年によって増減はあるものの、近年は150万トン前後で推移（平成21年137万トン→令和元年162万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で82%（平成21年は85%）と他の指定野菜に比べると国産の割合が低い。これは、北海道産の不作や業務用需要（むきたまねぎ）の増加等から、主に中国からの輸入が増加したことが要因。
- 国内生産量は近年100～130万トン程度で推移しており（令和元年は133万トン、平成21年比で115%）、全生産量の63%を占める北海道のシェアは横ばいで推移（北海道の収穫量は平成21年比125%）。
- 令和元年の輸入量は平成28年並みの28.0万トン。輸入先国のシェアは中国が拡大する一方、米国及び豪州は縮小。

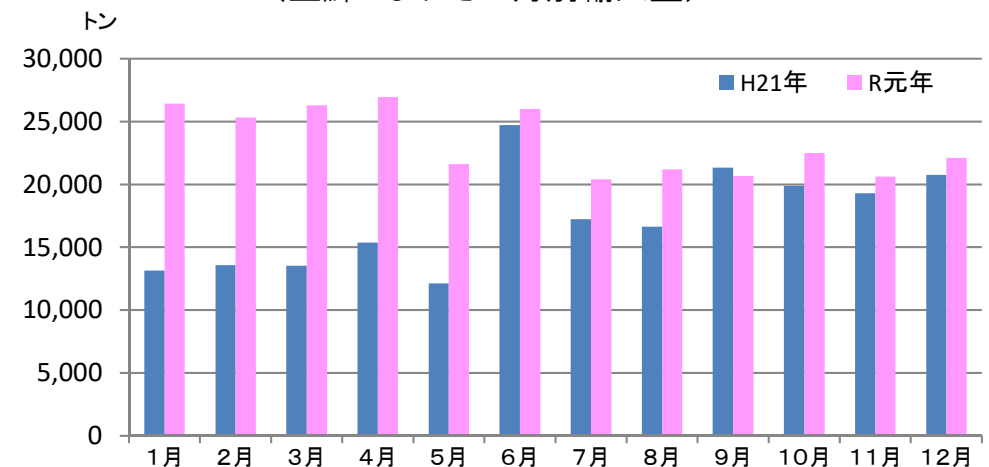
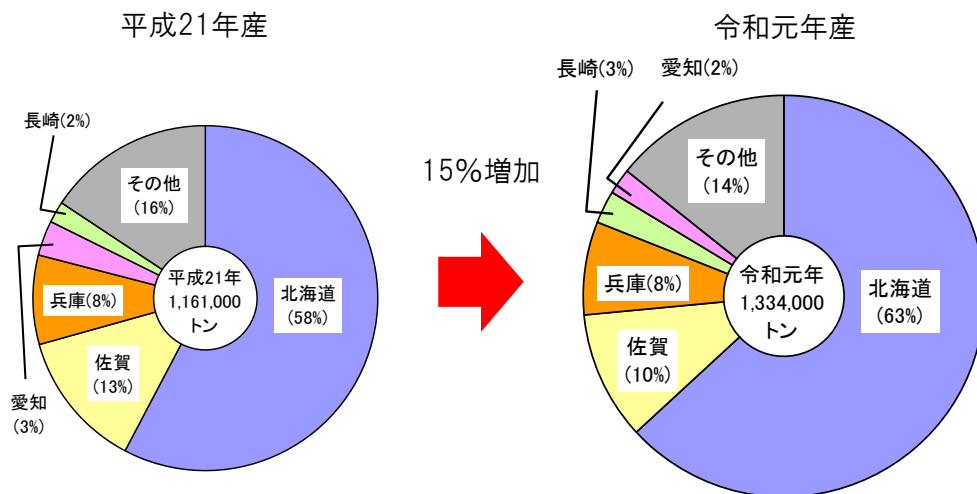
○ たまねぎの国内生産量及び輸入量の推移



○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）

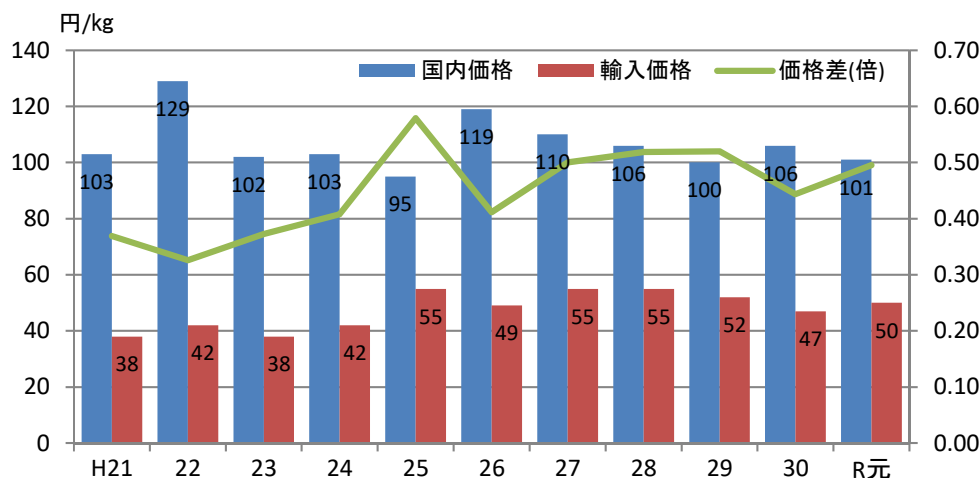


○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

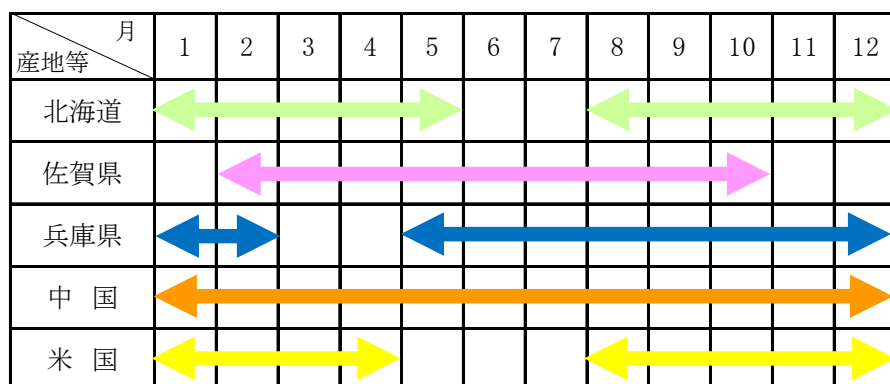


- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は50円/kgで、近年国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の5割程度。
- 中国産は、周年で輸入されており、卸売市場にも入荷しているが、主に加工・業務用（むきたま）として輸入されている。また、米国産は、主に8月～翌年4月に輸入されており、量販店などでも販売される。
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、12.3万トンと減少（平成21年比99%）。県別では、長崎県（同183%）、静岡県（同179%）及び栃木県（同179%）が大きく増加。一方、愛知県が2割減少。

○ 国産たまねぎと輸入たまねぎ（生鮮）の価格の比較

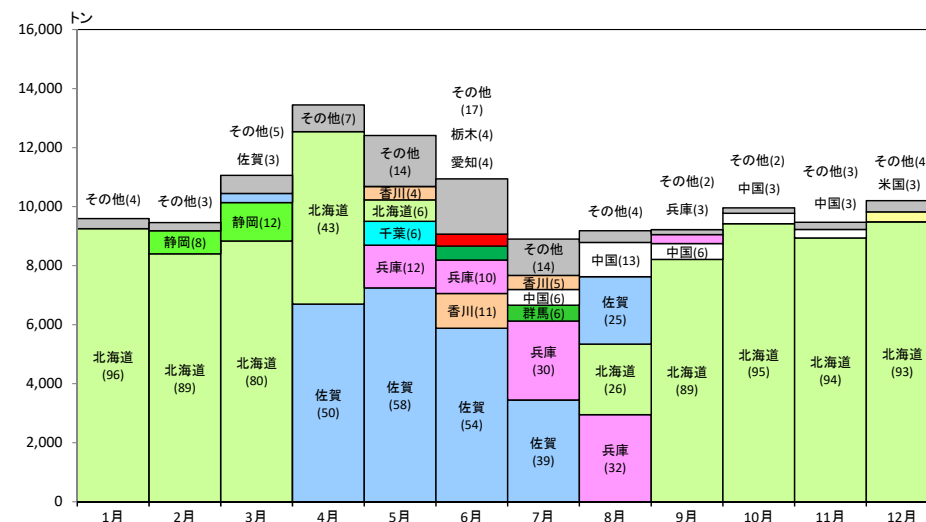


○ 国産たまねぎと輸入たまねぎ（生鮮）の出回り時期

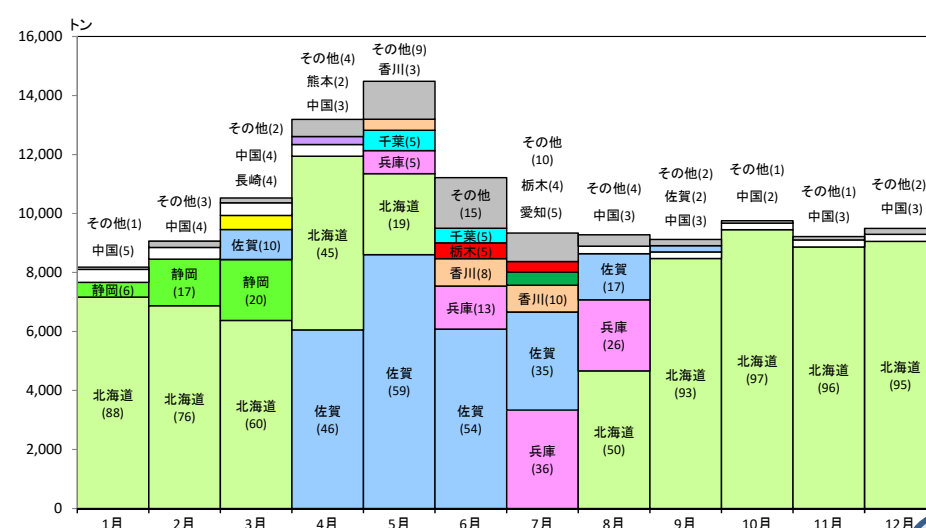


○ 東京都中央卸売市場の入荷量

平成21年

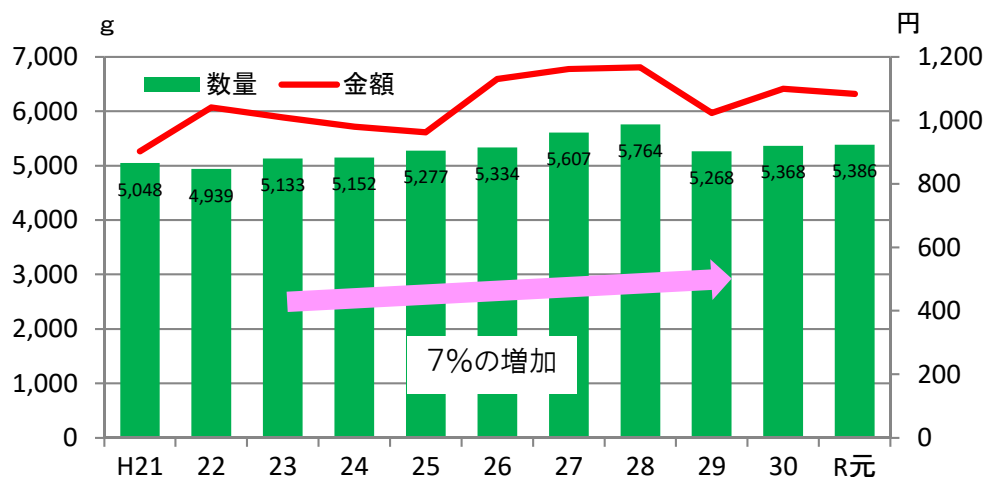


令和元年



- 令和元年の1人当たり年間購入数量は5,764グラムで、平成29年以降増加傾向。平成23年以降増加し、28年には5.8kgまで増加、また23年以降は5kgを上回って推移。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は109%（20,900ha）、出荷量は117%（110万トン）とそれぞれ増加。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で81%、出荷量で91%を占める。全国出荷量シェアは、指定野菜の中ではれいしょと並んで高い。

○ たまねぎの年間購入数量と購入金額の推移



○ たまねぎにおける指定産地の位置付け

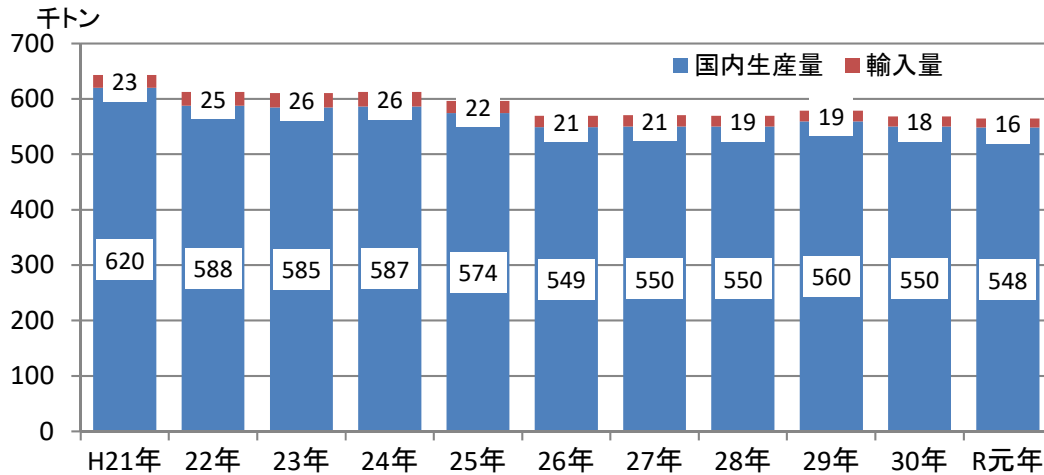
平成21年				令和元年			
作付面積		出荷数量		作付面積		出荷数量	
全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地
24,000	(80.0%)	1,022,000	(92.3%)	25,900	(80.7%)	1,211,000	(91.2%)
	19,200		943,200		20,900		1,104,000

8 きゅうり

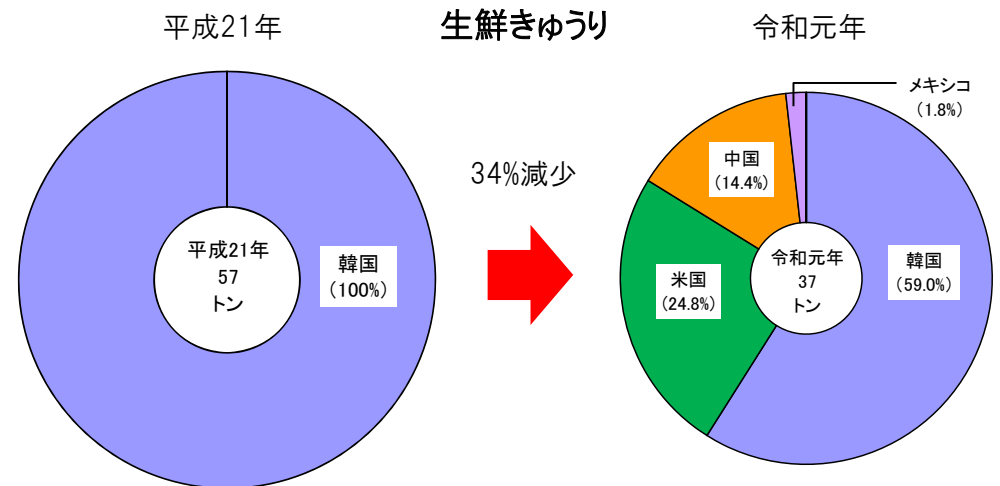


- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、漸減傾向（平成21年64.3万トン→令和元年56.4万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で97%と近年国産割合がやや上昇傾向（平成21年は96%）。
- 国内生産量は減少（令和元年は54.8万トン、平成21年比で88%）。上位5県では、群馬県（同100%）以外は減少。その他の道府県でも減少する産地が大半。
- 令和元年の輸入量は1.6万トンで、平成21年に比べて30%減少。特に生鮮きゅうりが大幅に減少し、国産が不作の際に主に漬物用として輸入。輸入先国のシェアは米国及び中国が拡大する一方、韓国は縮小。

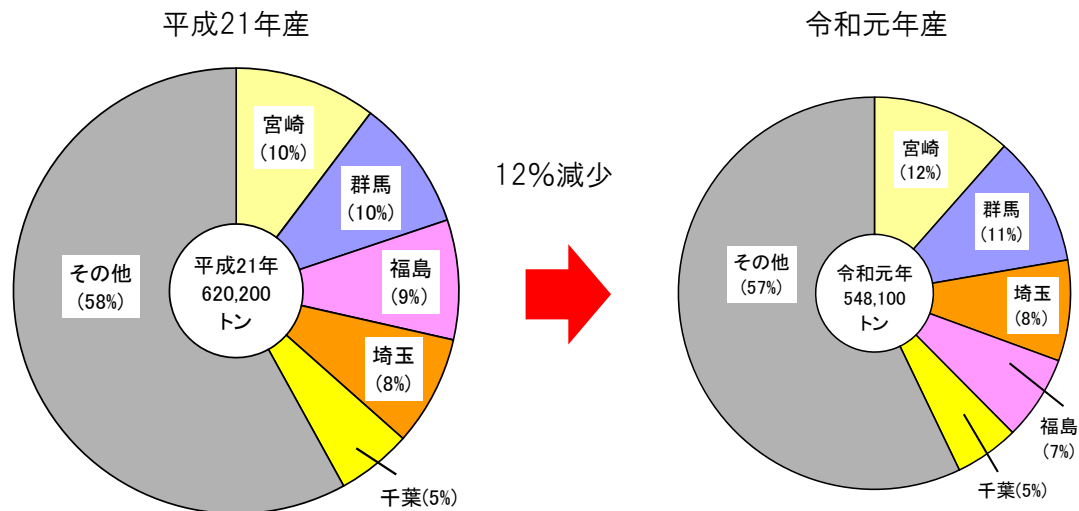
○ きゅうりの国内生産量及び輸入量の推移



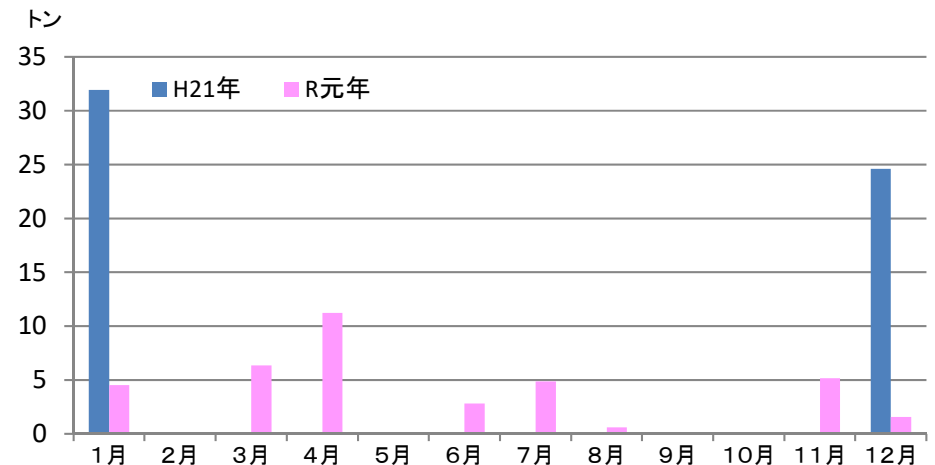
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

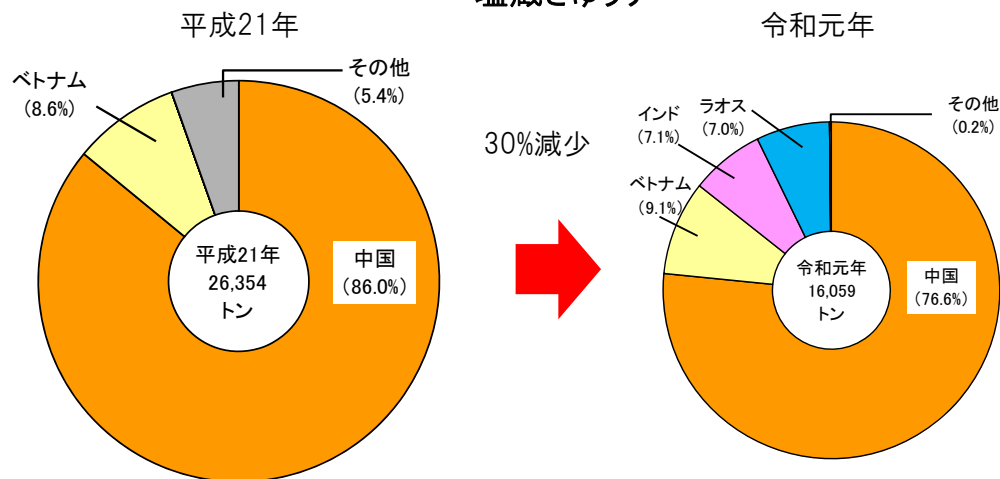


（生鮮きゅうりの月別輸入量）

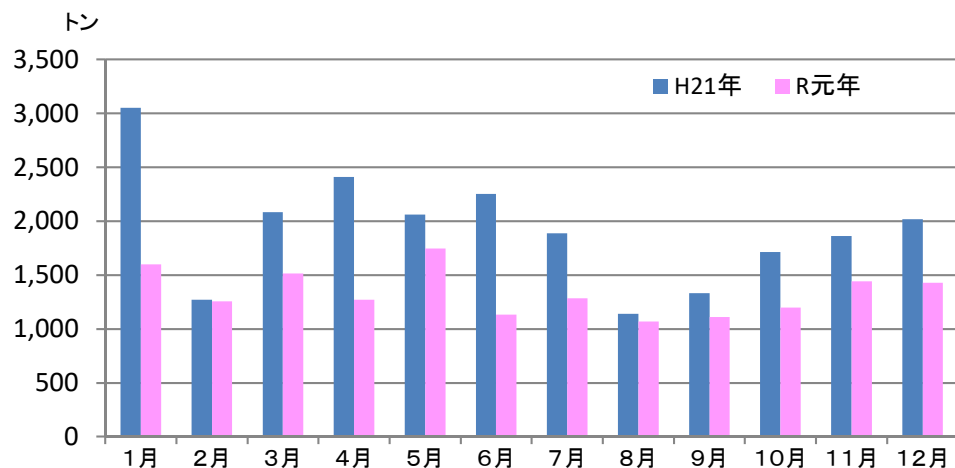


- 塩蔵きゅうりは、漬物原料として主に中国から輸入されており、令和元年の輸入量は1.6万トンで平成21年に比べて30%減少。近年はインドやラオスからの輸入量が増加。
- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は88円/kgで、近年、国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の2～3割程度で推移。指定野菜の中でも内外価格差が大きい品目。

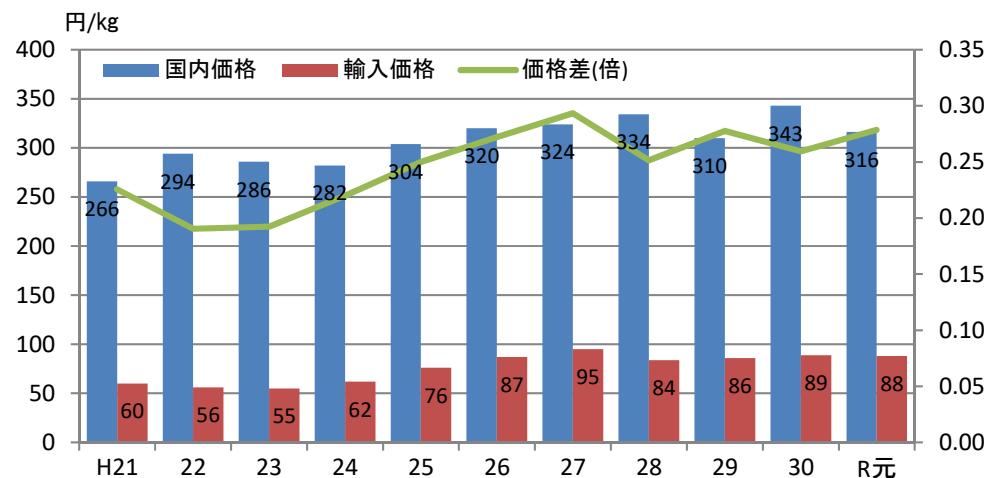
塩蔵きゅうり



（塩蔵きゅうりの月別輸入量）



○ 国産きゅうりと輸入きゅうり（塩蔵）の価格の比較

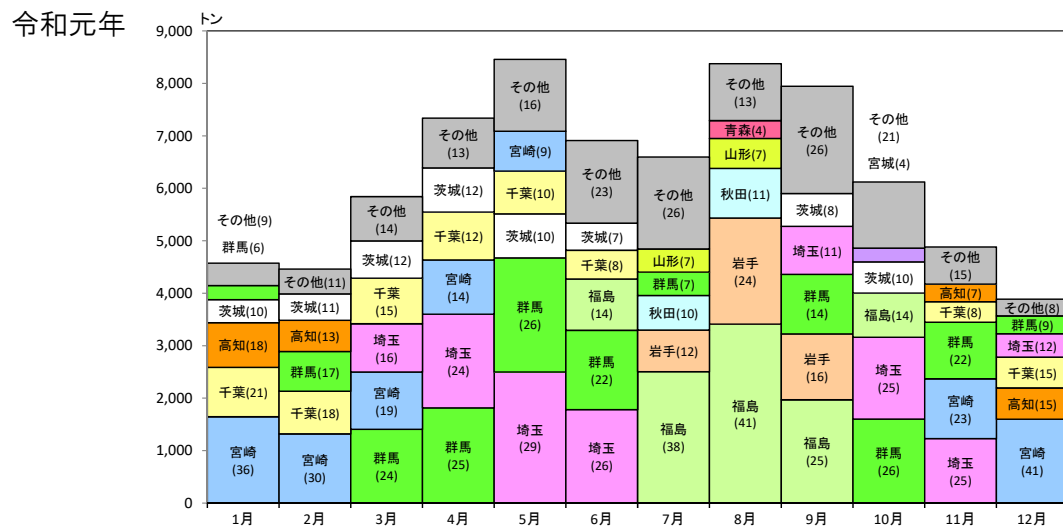
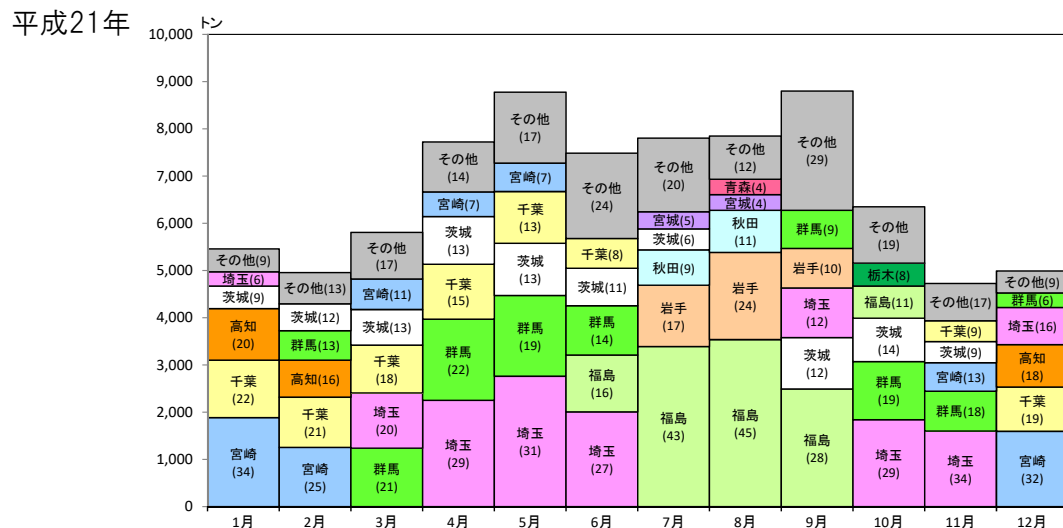


○ 国産きゅうりと輸入きゅうり（塩蔵）の出回り時期

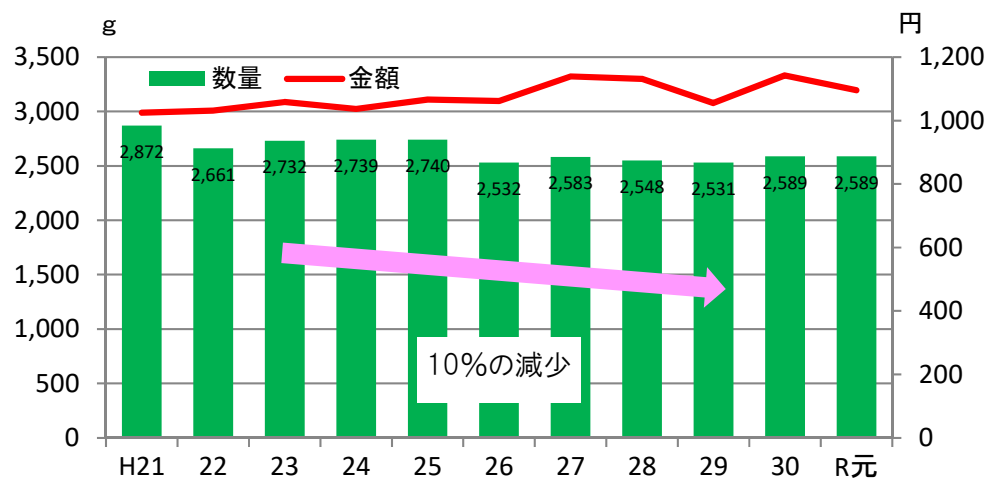
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
産地等												
宮崎県	→											
群馬県			←→						←→			
埼玉県	←											→
中国	←											→
ベトナム	←											→

- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、7.5万トンで平成21年に比べて減少（平成21年比93%）。上位10県では、多くの県が減少する中で、群馬県（同129%）及び宮崎県（同123%）は大きく増加。
- 令和元年の1人当たり年間購入数量は2,589グラムで、年によって増減はあるが横ばいで推移。1人当たり年間購入金額は1,096円で販売価格や気温により変動はあるが平成27年以降1,100円前後で推移。また、昭和50年の購入量は5,365グラムで漬物用の購入が多かったが、食生活の変化による漬物需要の低下から購入量は減少し、現在はサラダ食材用の購入も多い。
- 指定産地について令和元年を平成20年と比較すると、作付面積は86%（4,930ha）、出荷量は89%（31.9万トン）と減少。令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で48%、出荷量で67%を占める。

○ 東京都中央卸売市場の入荷量



○ きゅうりの年間購入数量と購入金額の推移



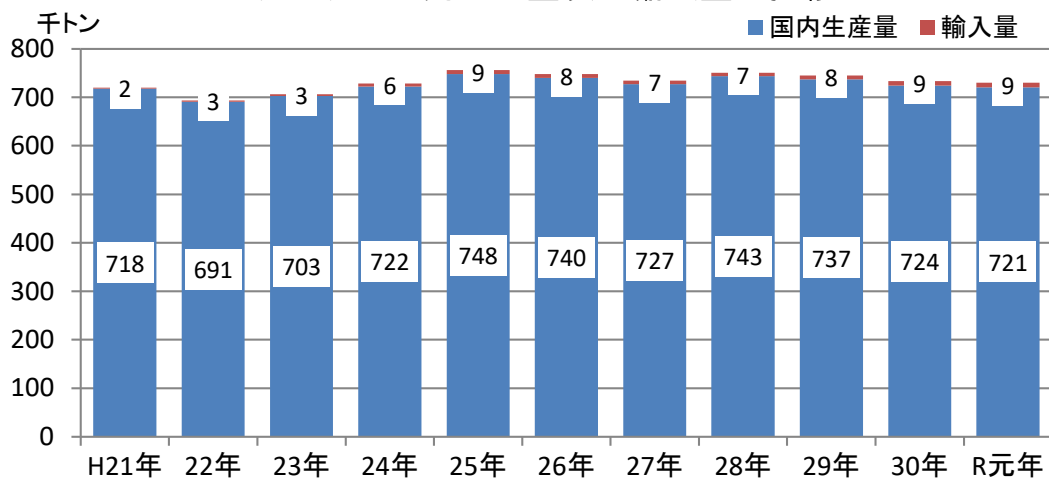
○ きゅうりにおける指定産地の位置付け

	平成21年		令和元年		令和元年		(単位:ha、t)	
	作付面積		出荷数量		作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地
夏秋	9,170	(38.9%)	223,500	(58.1%)	7,580	(40.9%)	202,600	(55.7%)
冬春	3,190	(68.0%)	300,500	(75.6%)	2,720	(67.3%)	272,100	(75.6%)
合計	12,400	(46.3%)	524,100	(68.1%)	10,300	(47.9%)	474,700	(67.1%)

9 トマト

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、年によって増減はあるものの、近年横ばい傾向（平成21年72.0万トン→令和元年73.0万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で98.7%と輸入量の増加で減少傾向（平成21年は99.7%）。
- 国内生産量が横ばいで推移する中で（令和元年は72.1万トン、平成21年比で101%）、大玉からミニに生産が移行し、ミニトマトの生産量は拡大（平成21年比で139%）。上位5県では、熊本県（同143%）及び北海道（同122%）が増加。
- 輸入量は、年により増減するが令和元年は9千トンで平成21年の4倍。米国産の割合が減少する一方、韓国産、メキシコ産及びニュージーランド産が増加。

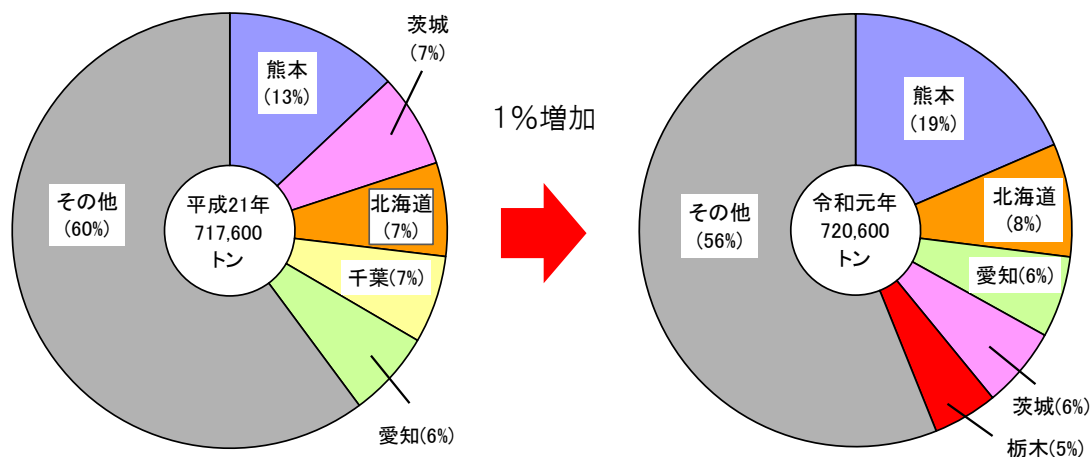
○ トマトの国内生産量及び輸入量の推移



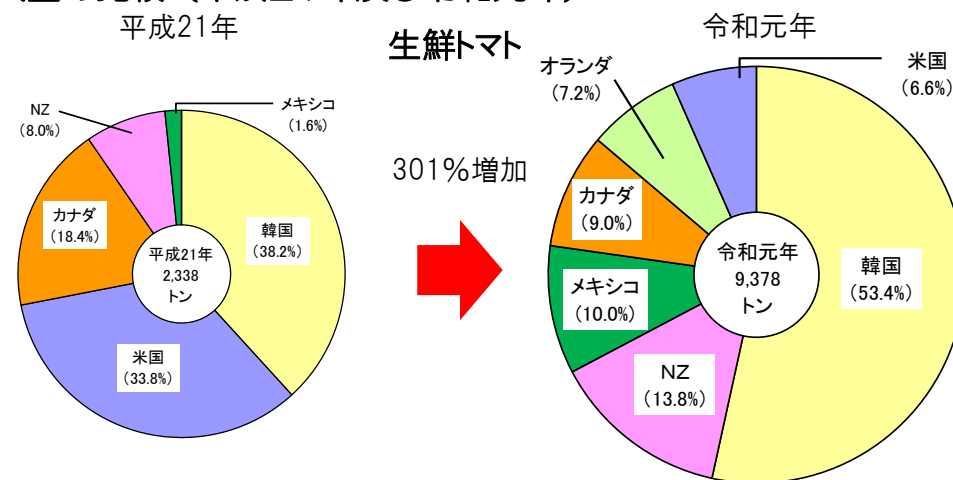
○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

平成21年産

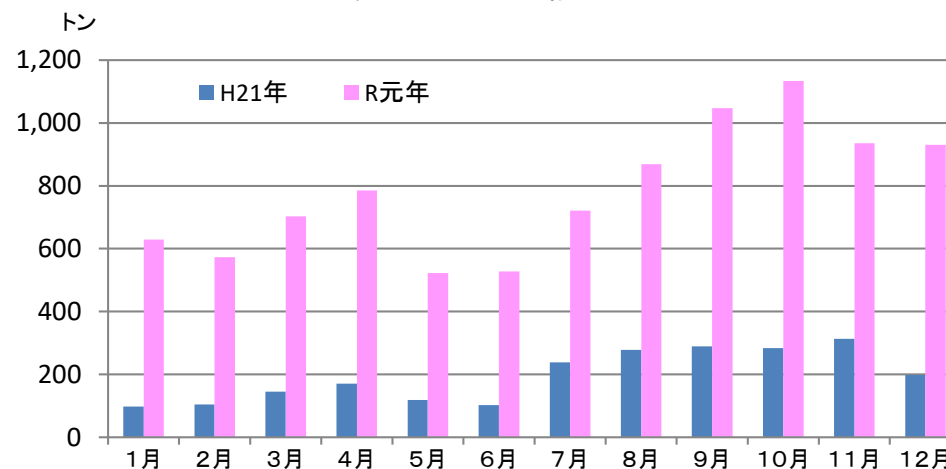
令和元年産



○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）

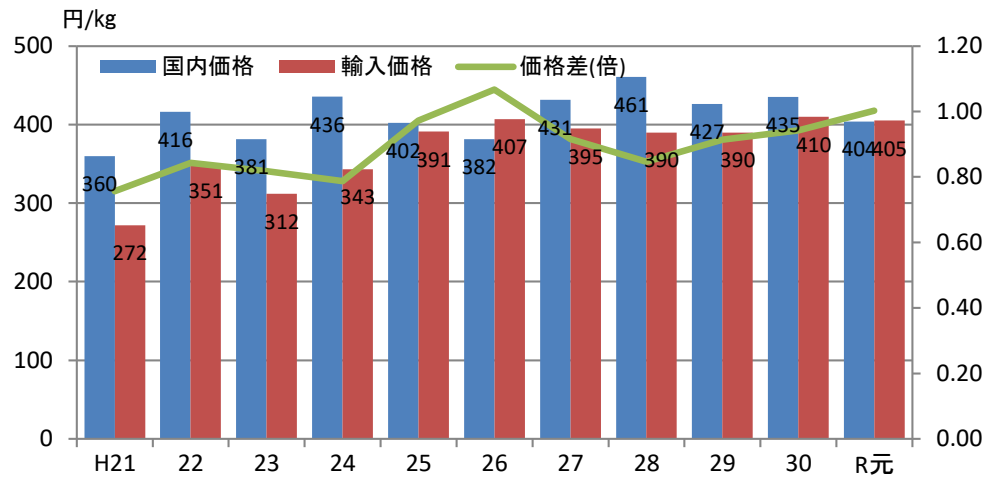


（生鮮トマトの月別輸入量）

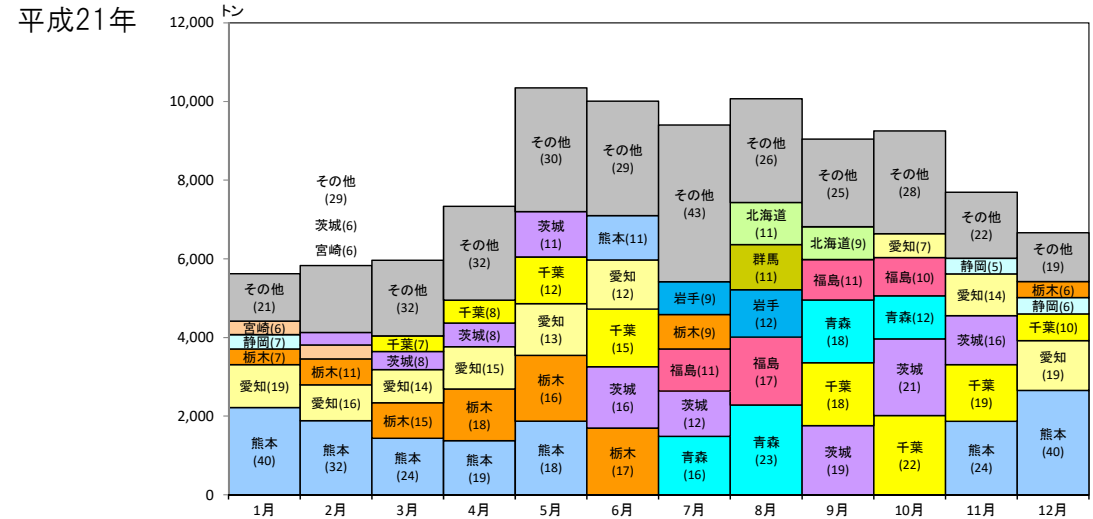


- 平成30年の輸入価格（CIF価格）は405円/kgで、近年国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）と同程度。内外価格差が少ない中で輸入量が増加しているのは、輸入量の5割以上を占める韓国産は、空輸でなく船舶であることから、日本までの輸送コストなどにより輸入品に優位性があるためと考えられる。
- 輸入品は周年で出回っている。卸売市場への入荷は少なく、多くは加工・業務用に仕向けられている。
- 令和元年の市場入荷量は、10.6万トンと平成21年に比べて入荷量が多くなった品目の一つ（平成20年比109%）。県別では、北海道（同241%）、熊本県（同167%）及び栃木県（同144%）が大幅に増加。

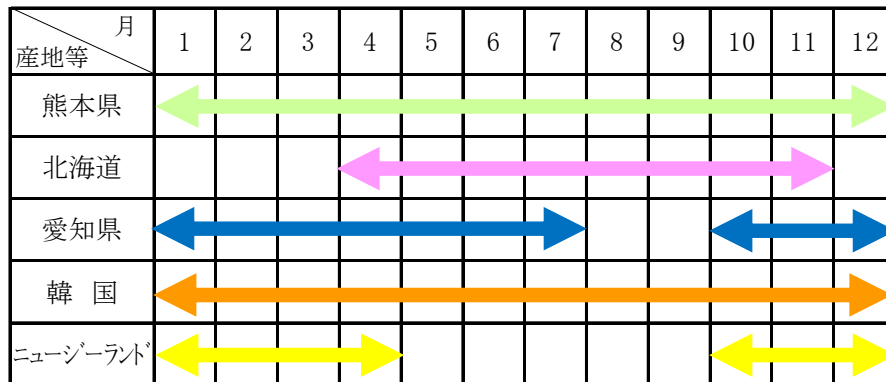
○ 国産トマトと輸入トマト（生鮮）の価格の比較



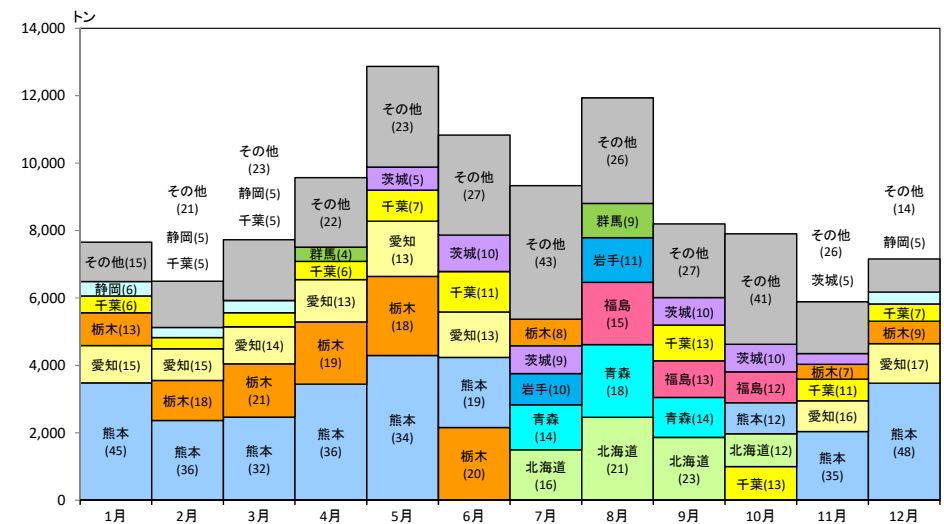
○ 東京都中央卸売市場の入荷量



○ 国産トマトと輸入トマト（生鮮）の出回り時期

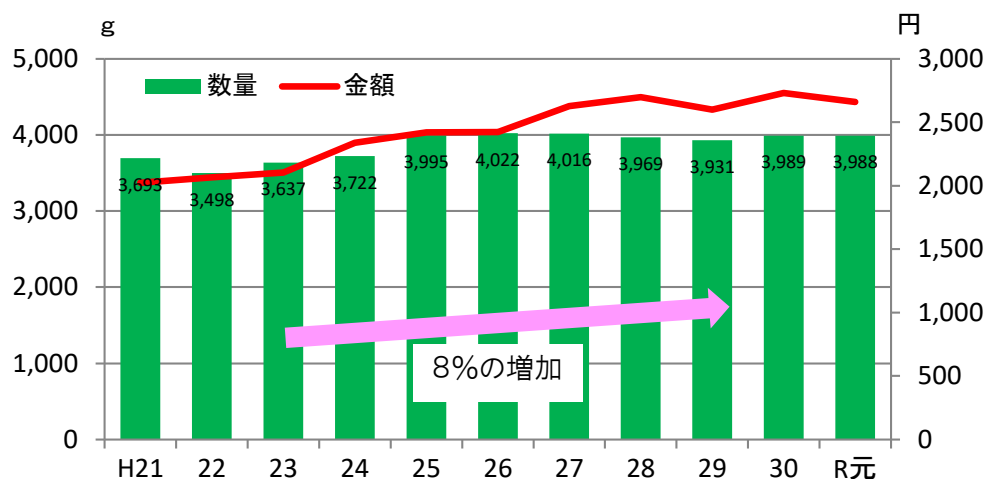


令和元年



- 令和元年の1人当たり年間購入数量は3,988グラムで、増加傾向。近年は4,000グラム前後で推移。また、価格に関係なく購入数量の増減は少ない。家庭内でサラダ等で一定量が消費されているためと考えられる。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は93%（5,970ha）、出荷量は105%（43.3万トン）。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で52%、出荷量で66%を占める。

○ トマトの年間購入数量と購入金額の推移



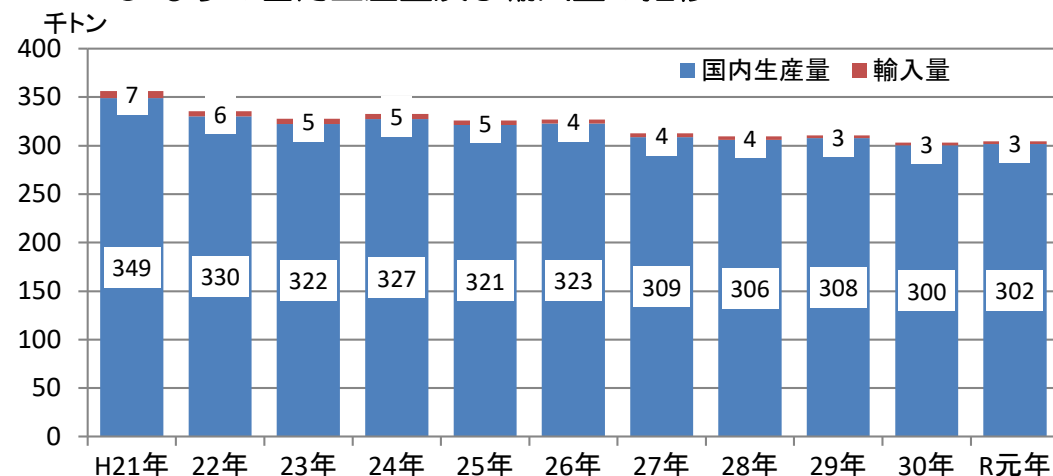
○ トマトにおける指定産地の位置付け

平成21年		令和元年				(単位:ha、t)			
	作付面積		出荷数量			作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地		全国	指定産地	全国	指定産地
夏秋	8,430	(47.4%) 4,000	284,800	(65.7%) 187,000	夏秋	7,660	(47.3%) 3,620	274,200	(63.4%) 173,800
冬春	4,000	(60.8%) 2,430	349,900	(64.4%) 225,400	冬春	3,920	(59.9%) 2,350	379,600	(68.3%) 259,300
合計	12,400	(51.9%) 6,430	634,600	(65.0%) 412,400	合計	11,600	(51.5%) 5,970	653,800	(66.2%) 433,100

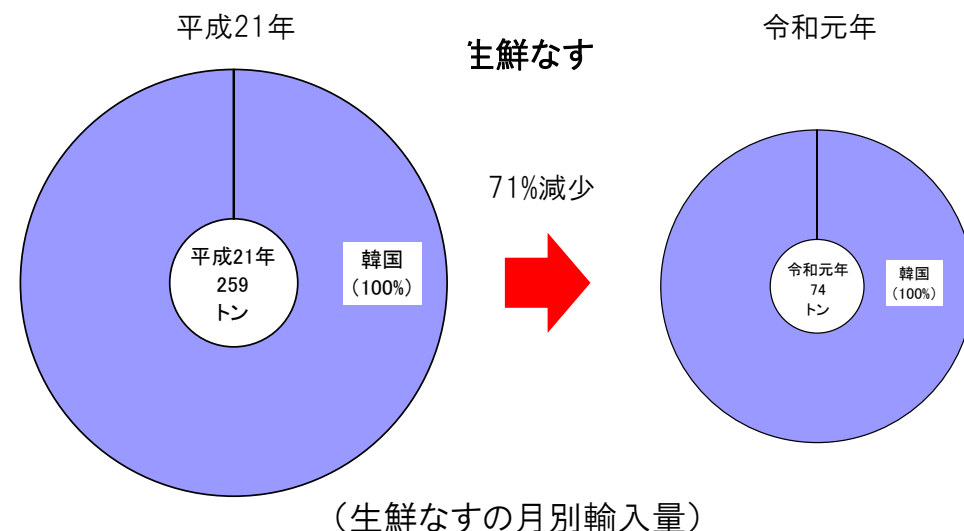
10 なす

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、この10年間で約2割減少（平成21年35.6万トン→令和元年30.4万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で99%と国産の割合が微増（平成21年は98%）。
- 国内生産量は減少（令和元年は30.2万トン、平成21年比85%）。上位5県では、群馬県（同122%）、熊本県（同111%）及び高知県（同107%）のほか、秋田県、広島県が増加。
- 生産量が多いのは高知県、熊本県、福岡県など西南暖地の冬春なすの主産地であり、周年で出荷している。群馬県は露地の産地のために夏場が中心。

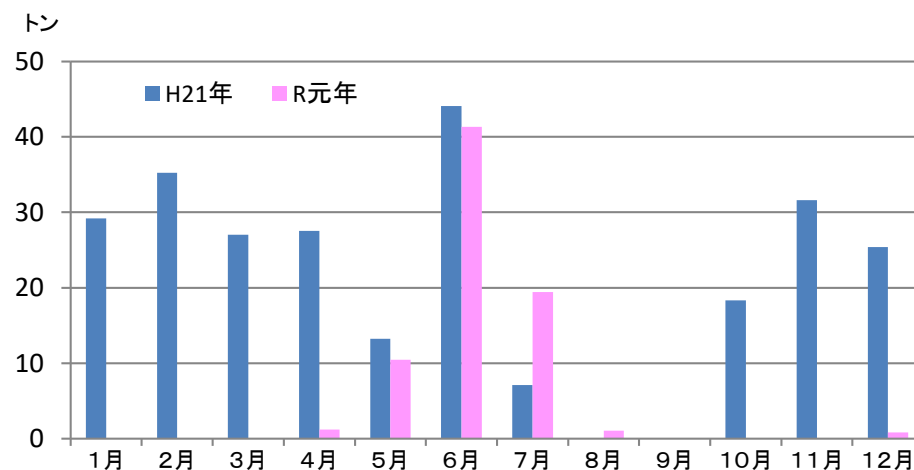
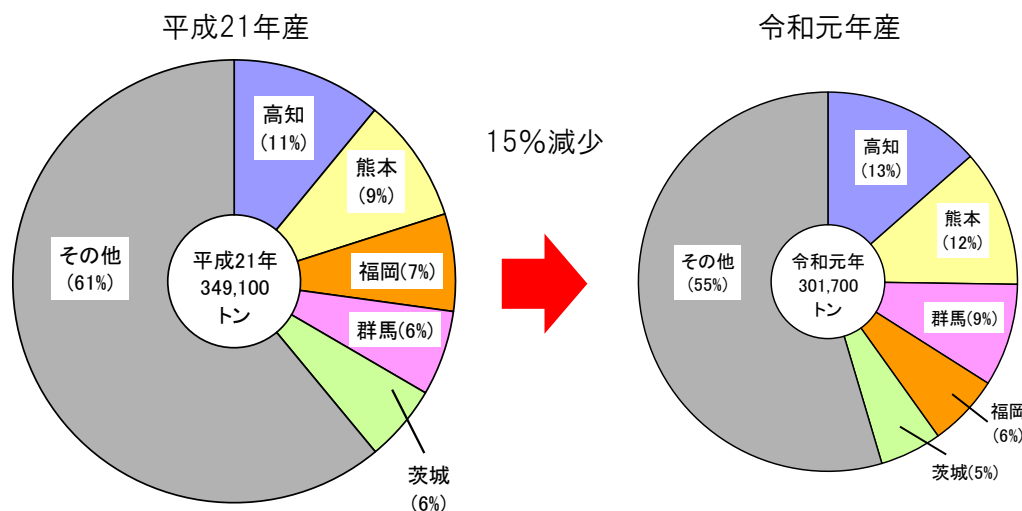
○ なすの国内生産量及び輸入量の推移



○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）

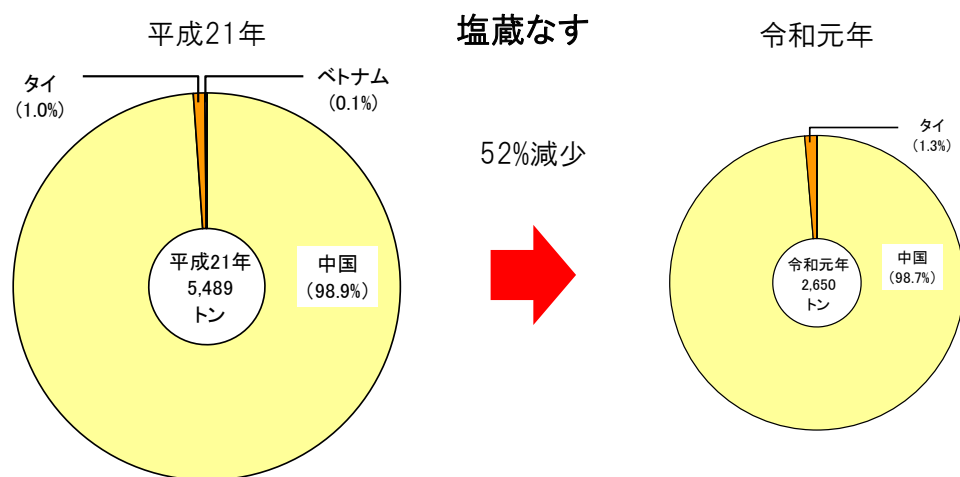


○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

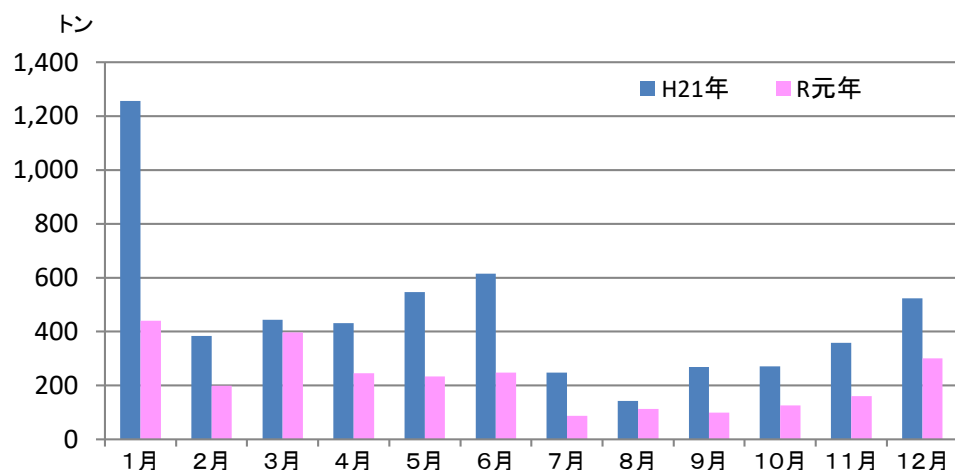


- 令和元年の生鮮なすの輸入量は74トンで平成21年に比べ71%減少。近年は、国産の作型が変わる6～7月に主に漬物用原料として韓国から輸入。
- 令和元年の塩蔵なす（なす＋こなす）の輸入量は2,650トンで、漬物原料用として主に中国から輸入されており、平成21年に比べ52%減少。
- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は232円/kgで、近年国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の6割～7割程度。

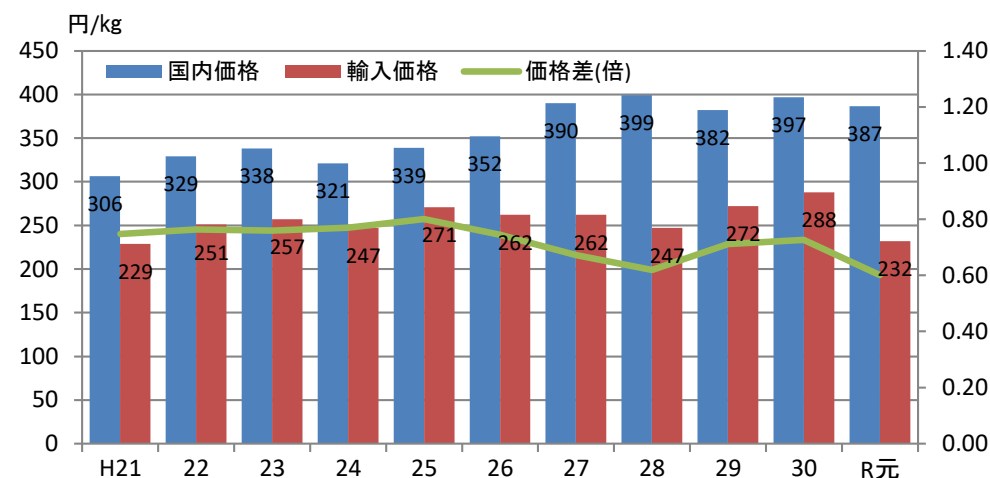
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



（塩蔵なすの月別輸入量）



○ 国産なすと輸入なす（生鮮）の価格の比較

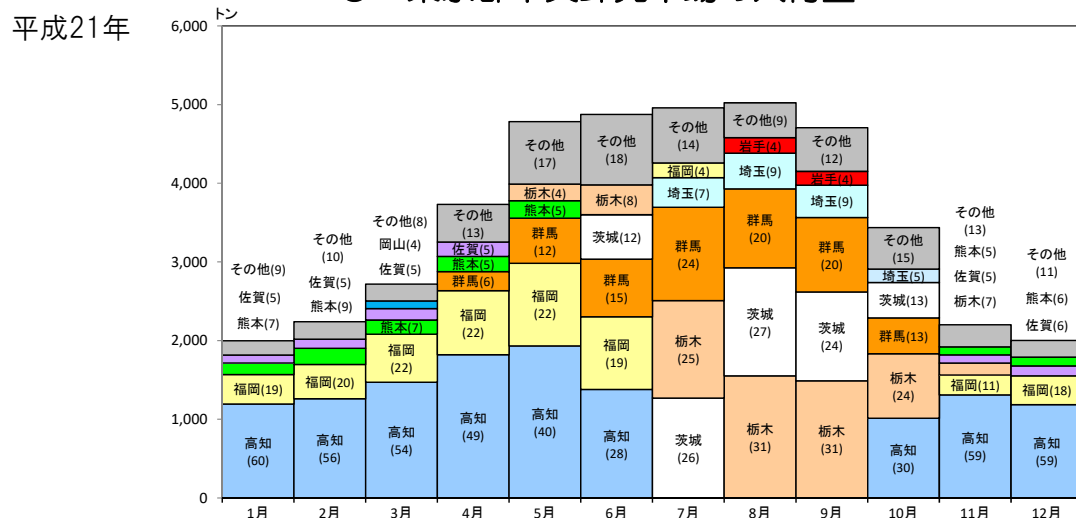


○ 国産なすと輸入なす（生鮮）の出回り時期

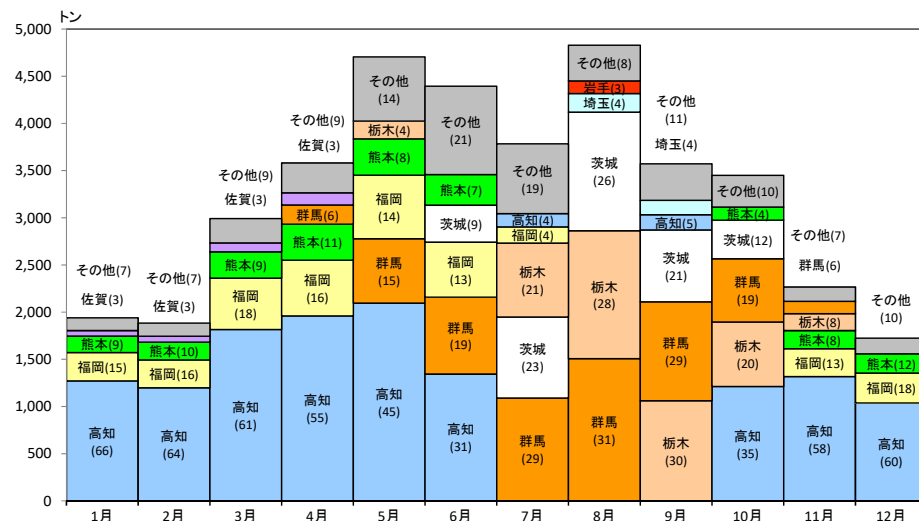
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
産地等												
高知県	← 高知県産は1月～12月まで出回り続けます。											
熊本県	← 熊本県産は1月～12月まで出回り続けます。											
群馬県							← 群馬県産は7月～9月に出回ります。					
福岡県	← 福岡県産は1月～12月まで出回り続けます。											
韓国					← 韓国産は5月～7月に出回ります。							

- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、3.9万トンで平成21年と比べて減少（平成21年比92％）。上位10県では、多くの県で減少し、特に埼玉県は3分の1に減少。10年前は東京市場にほとんど出荷がなかった宮崎県が242倍、熊本県（同173％）及び群馬県（同118％）は大きく増加。
- 令和元年の1人当たり年間購入数量は1,373グラムで減少傾向にあるが、近年は1400グラム前後で安定している。家庭で簡単に作れる調味料の普及も一因。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は99％（2,181ha）、出荷量は100％（14.3万トン）とほぼ横ばい。冬春なすは、約9割が指定産地から出荷されている。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で25％、出荷量で60％を占める。

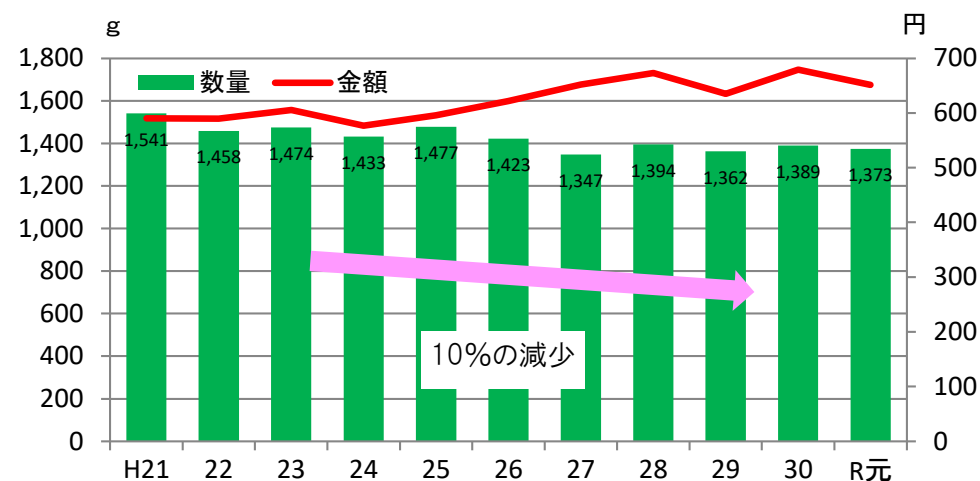
○ 東京都中央卸売市場の入荷量



令和元年



○ なすの年間購入数量と購入金額の推移



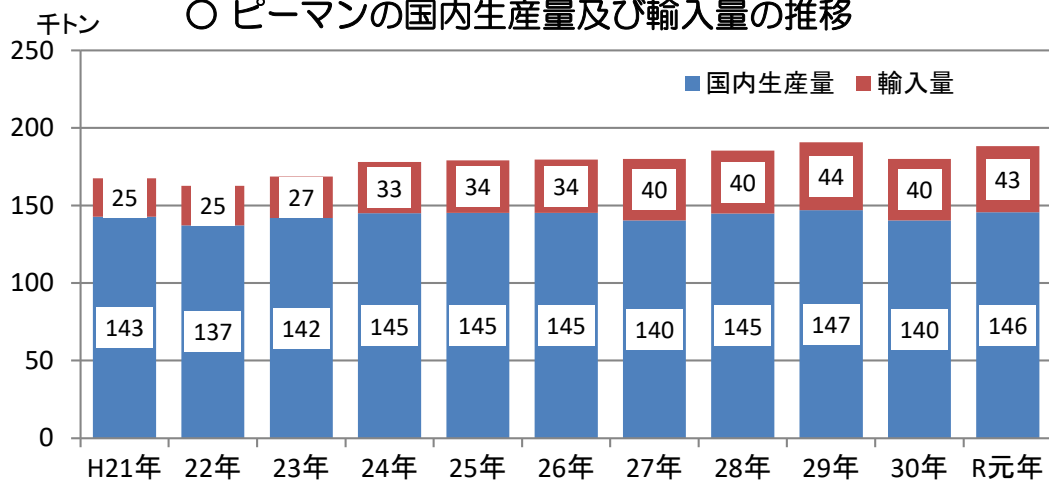
○ なすにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年				(単位:ha、t)	
	作付面積		出荷数量			作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地		全国	指定産地	全国	指定産地
夏秋		(14.5%)		(31.0%)	夏秋		(17.5%)		(34.9%)
	9,170	1,330	139,200	43,100		7,580	1,330	126,500	44,100
冬春		(70.1%)		(80.5%)	冬春		(79.5%)		(87.6%)
	1,250	876	124,000	99,800		1,070	851	112,900	98,900
合計		(21.2%)		(54.3%)	合計		(25.2%)		(59.7%)
	10,400	2,206	263,200	142,900		8,650	2,181	239,500	143,000

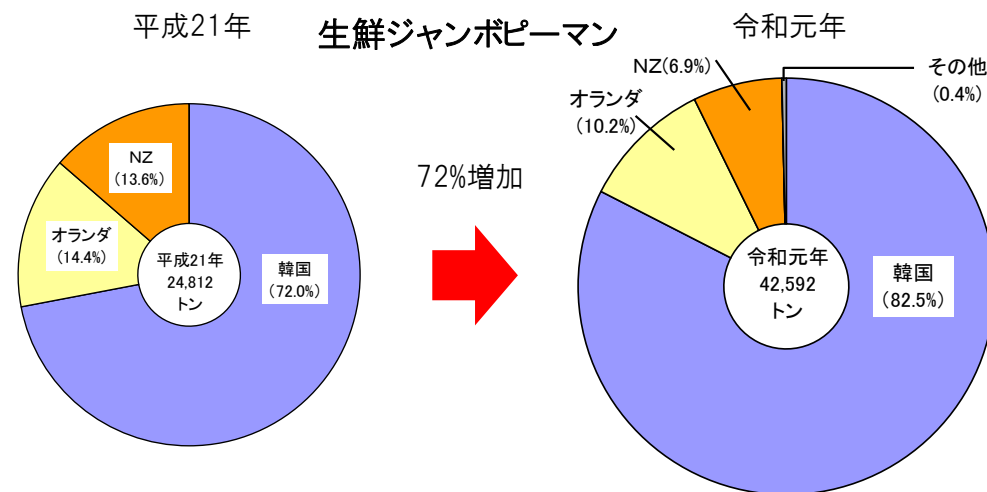
11 ピーマン

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、近年横ばい傾向（平成21年16.8万トン→令和元年18.8万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で77%（平成21年は85%）であり、他の品目に比べて国産割合が低い。需要が増加しているジャンボピーマン（パプリカ）の輸入が増加していることが一因。
- 国内生産量は減少傾向（令和元年は14.6万トン、平成21年比で102%）。上位5県では、茨城県以外の鹿児島県（同123%）、高知県（同111%）、宮崎県（同107%）及び岩手県（同105%）が増加。
- 令和元年の輸入量は4.3万トンでこの10年間で72%増加。ジャンボピーマンが周年で主に韓国、オランダ、NZから輸入されているが、国内生産量は年々増加しているものの、需要に比べて少ないことが要因と考えられる。

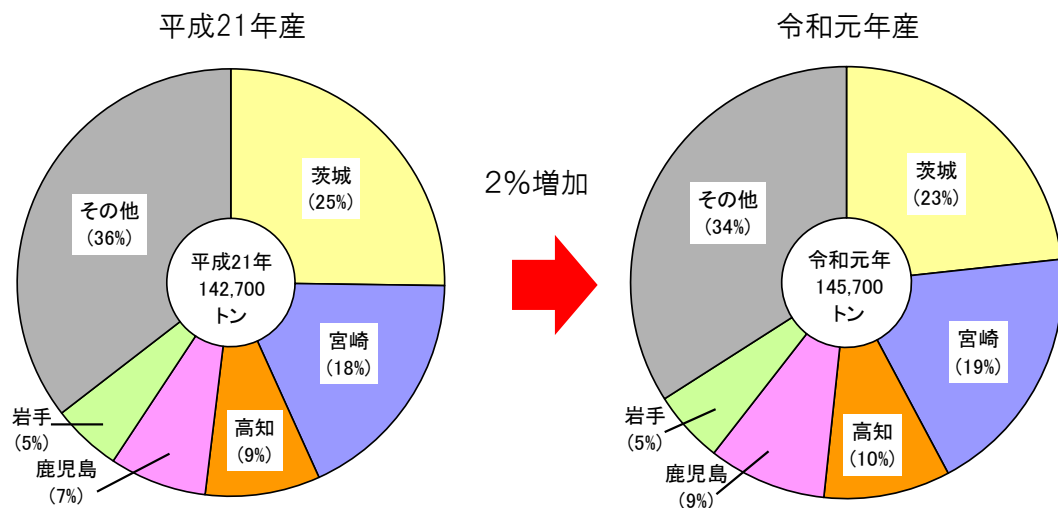
○ ピーマンの国内生産量及び輸入量の推移



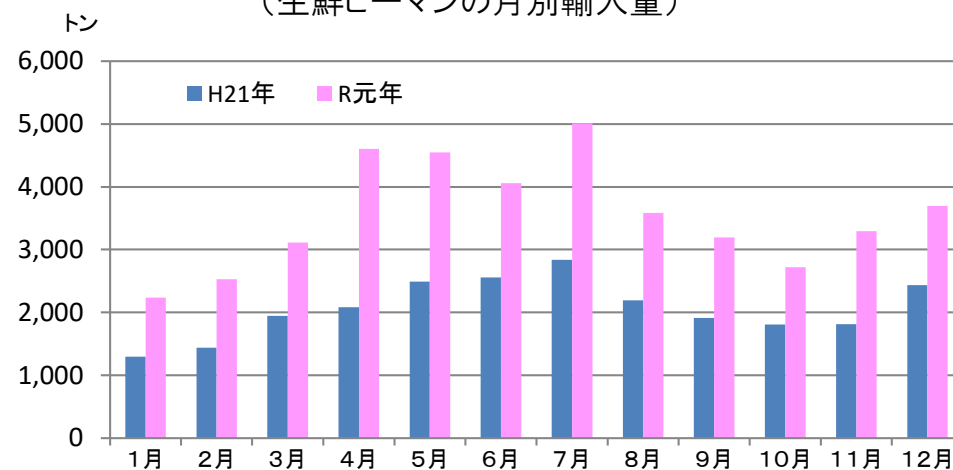
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

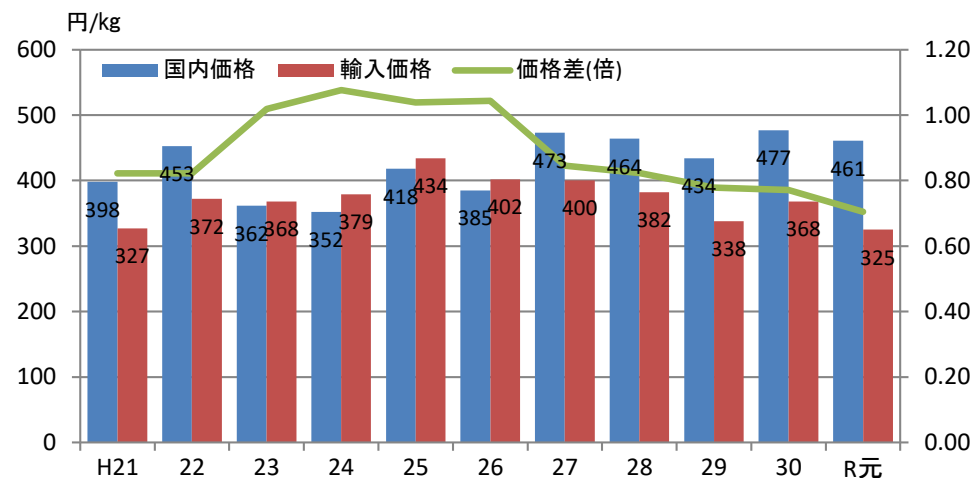


（生鮮ピーマンの月別輸入量）



- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は325円/kgで、近年国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の7～8割程度。
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、2.4万トンで平成21年に比べて増加（平成21年比106%）。上位10県では、宮崎県（同157%）、高知県（同145%）、岩手県（同133%）、鹿児島県（同126%）及び福島県（115%）が増加。
- パプリカ等の主な国内産地は、茨城県、宮城県、高知県等で、生産量は増加傾向。

○ 国産ピーマンと輸入ピーマン（生鮮）の価格の比較

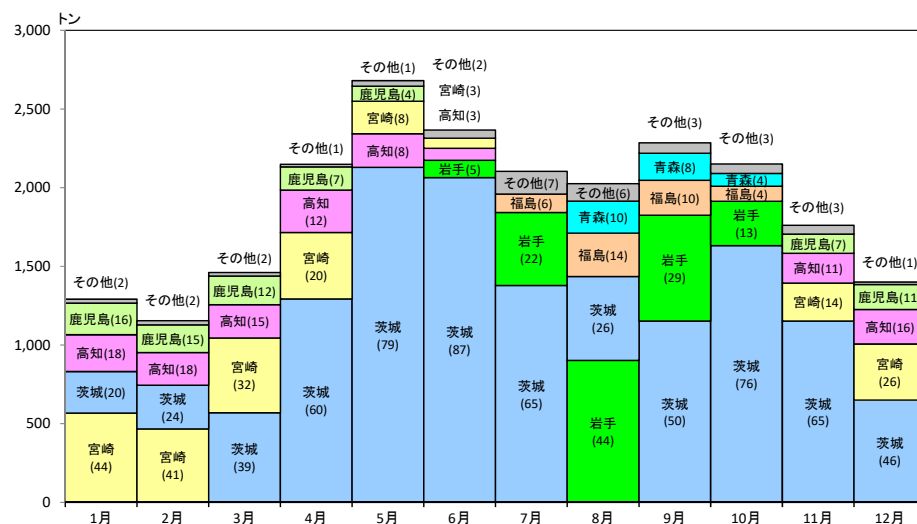


○ 国産ピーマンと輸入ピーマン（生鮮）の出回り時期

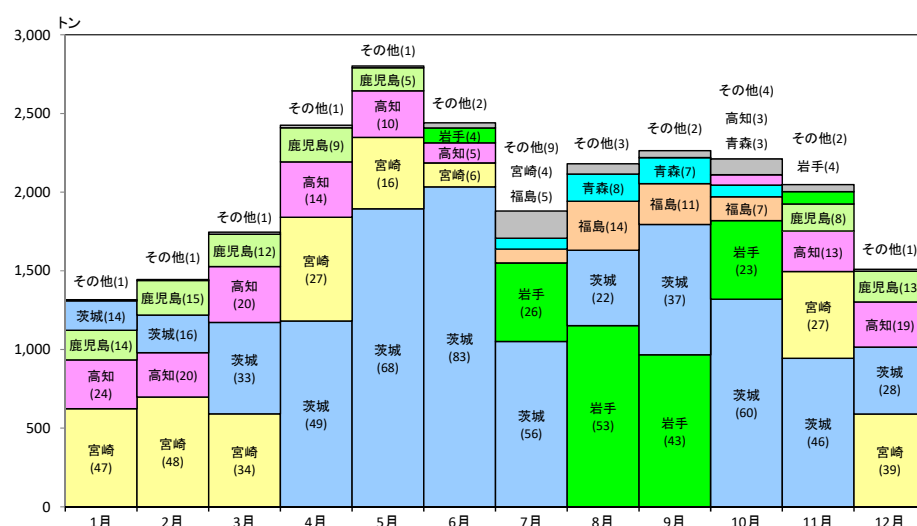
産地等	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
茨城県												
宮崎県												
高知県												
韓国												
オランダ												

○ 東京都中央卸売市場の入荷量

平成21年

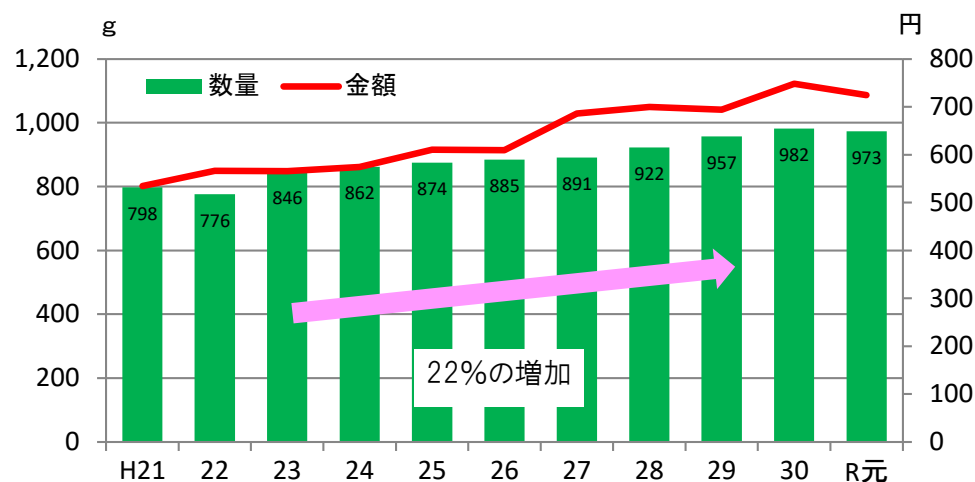


令和元年



- 1人当たり年間購入数量は、増加傾向で推移しており、令和元年は973グラム。家庭でのサラダの材料としてパプリカ等の購入が増えていることも一因。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は103%（1,351ha）、出荷量は112%（9.4万トン）とそれぞれ増加。冬春ピーマンは、9割以上が指定産地から出荷されている。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で47%、出荷量で76%を占める。果菜類の中では割合が1番高い。

○ ピーマンの年間購入数量と購入金額の推移



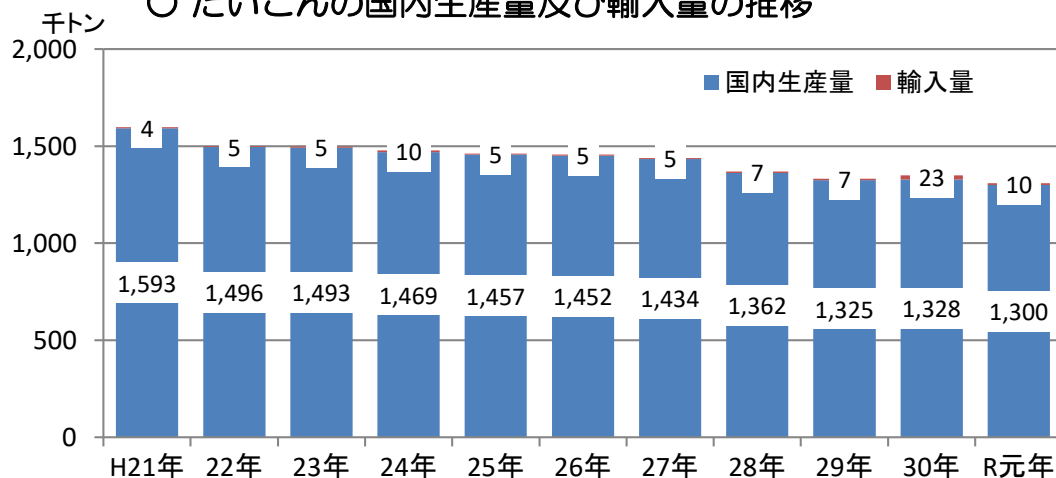
○ ピーマンにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年				(単位:ha、t)	
	作付面積		出荷数量			作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定野菜		全国	指定産地	全国	指定野菜
夏秋	2,322	(28.9%) 670	50,870	(46.8%) 23,800	夏秋	2,177	(33.1%) 721	52,210	(52.7%) 27,500
冬春	680	(94.0%) 639	63,790	(93.7%) 59,800	冬春	707	(89.1%) 630	71,920	(92.0%) 66,200
合計	3,008	(43.5%) 1,309	114,660	(72.9%) 83,600	合計	2,879	(46.9%) 1,351	124,040	(75.5%) 93,700

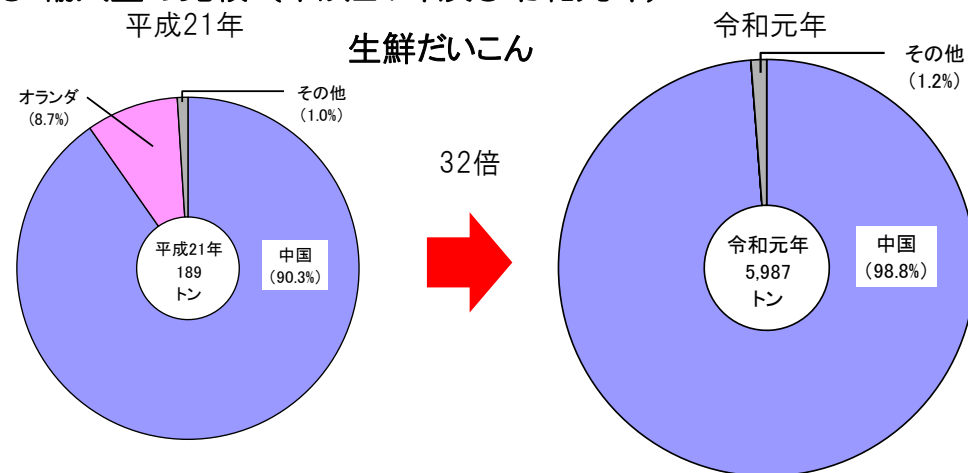
12 だいこん

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、この10年間で18%減少（平成21年160万トン→令和元年131万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で99.2%と微減（平成21年は99.7%）。
- 国内生産量は減少（令和元年は130万トン、平成21年比で82%）。上位5県では、すべての道県で減少。
- 輸入量は、平成19年から27年までは平成24年を除いて4～5千トンで推移していたが、近年は増加傾向。多くは漬物用原料用であり、国産の作況で輸入量の変動。令和元年は平成24年並みの1万トン。前年は国産が台風、秋以降の低温で少なくなったことから2.2万トンとなった。

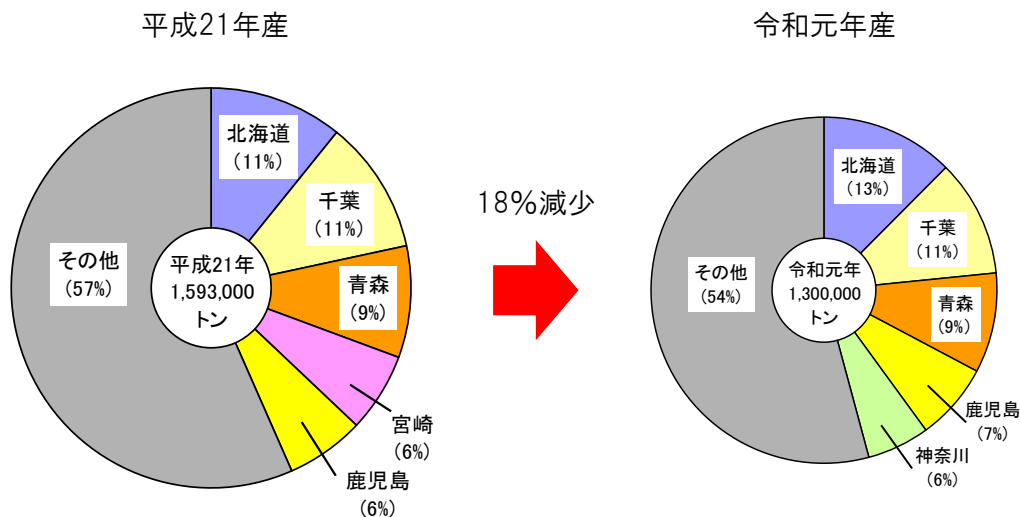
○ だいこんの国内生産量及び輸入量の推移



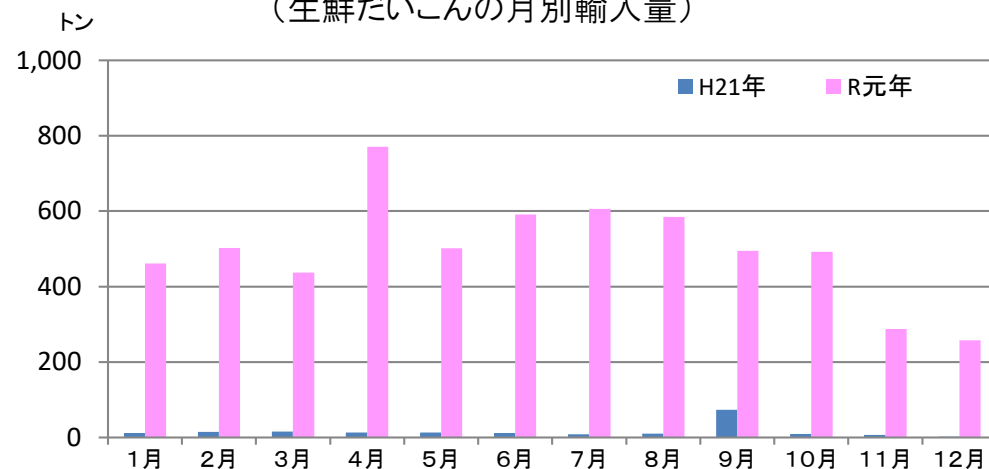
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）



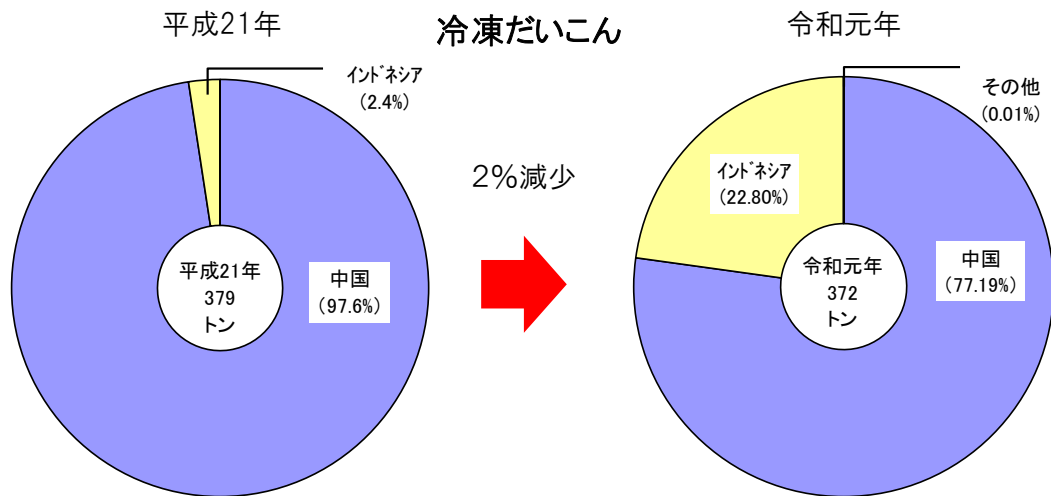
（生鮮だいこんの月別輸入量）



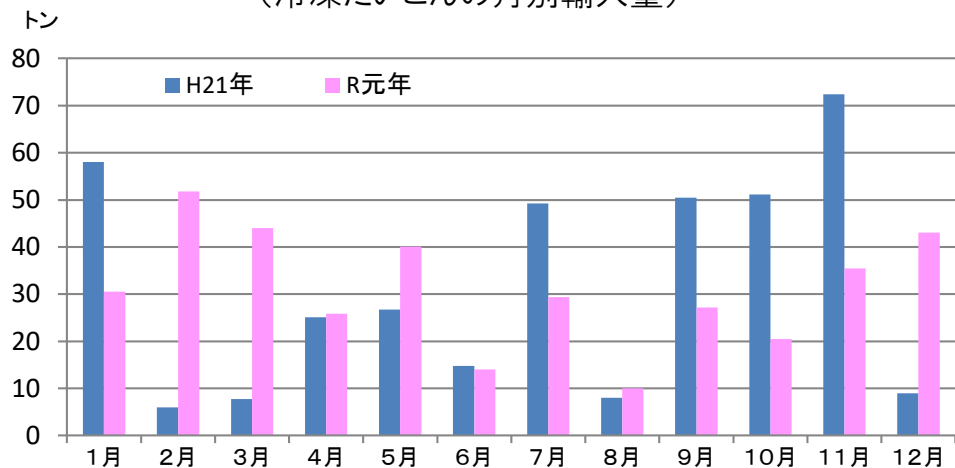
（生鮮だいこんは、貿易統計でその他根菜に区分され、データがない。植物防疫の国別検査数量が把握できる18年以降を輸入数量として代用した。）

- 冷凍だいいこんは、中国から主に業務用のだいいこんおろし用として周年で輸入。令和元年の輸入量は372トンで、平成21年に比べて2%減少。乾燥だいいこんは、主に中国から切り干しだいいこんの原料として、周年で毎年3～4千トン輸入。
- 国産だいいこんの東京都中央卸売市場の卸売価格は、67円/kgから97円/kgの間で変動して令和元年は82円/kg。11月は千葉産が9月上旬の台風15号により、蒔き直しをしたものの出荷となったが、病気の発生等により入荷量が少なくなり、平年を上回る価格となった。その他の月は、春先までは暖冬の影響で消費が伸びなかったこと、入荷が潤沢であったこと等から平年を下回った。

○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）

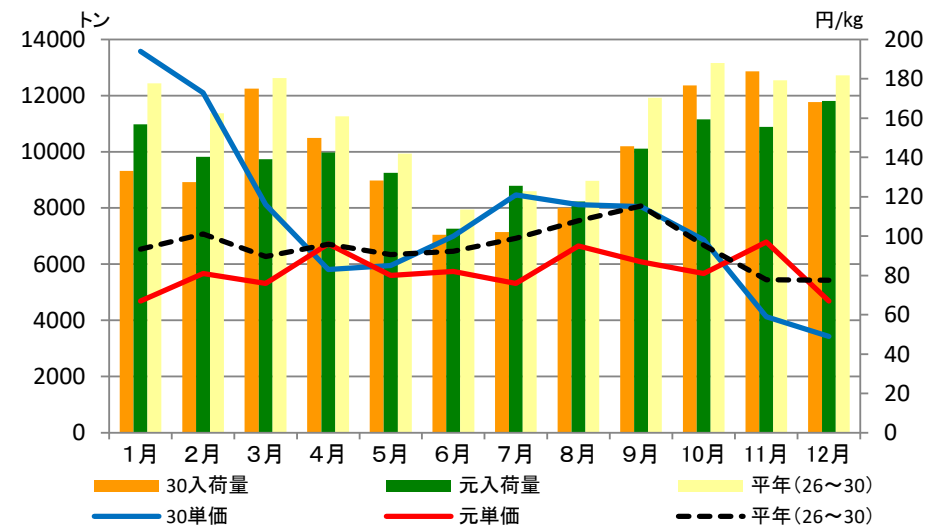
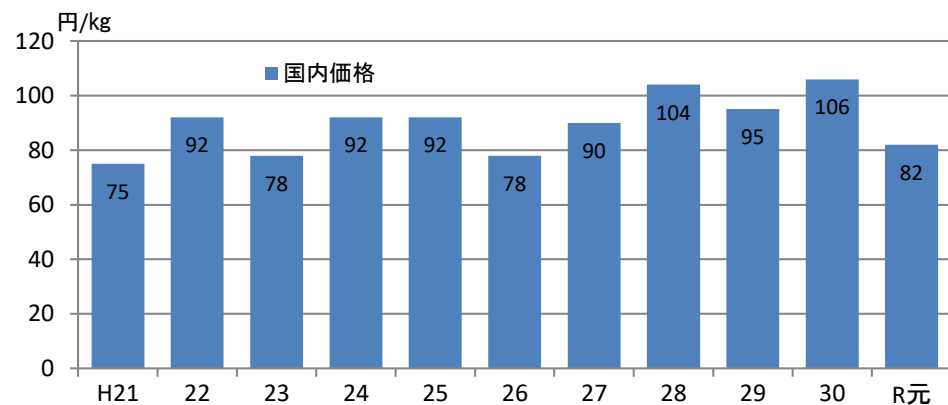


（冷凍だいいこんの月別輸入量）



（冷凍だいいこんは、貿易統計でその他の冷凍野菜に区分され、データがない。植物防疫の検査数量が把握できる18年以降を輸入数量として代用した。）

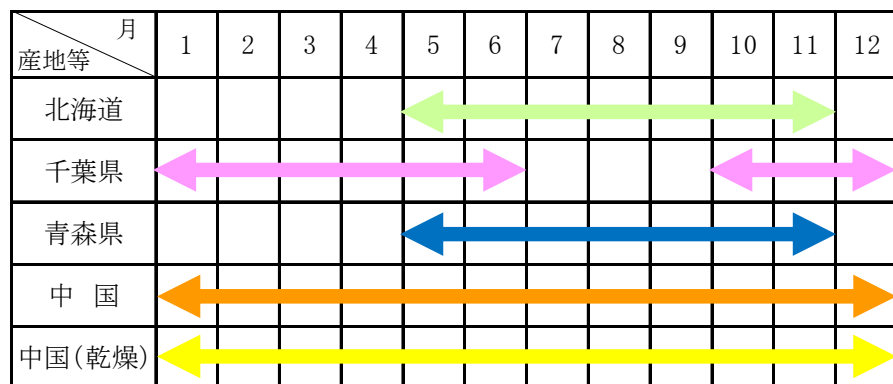
○ 国産だいいこんの卸売価格の推移（年別・月別）



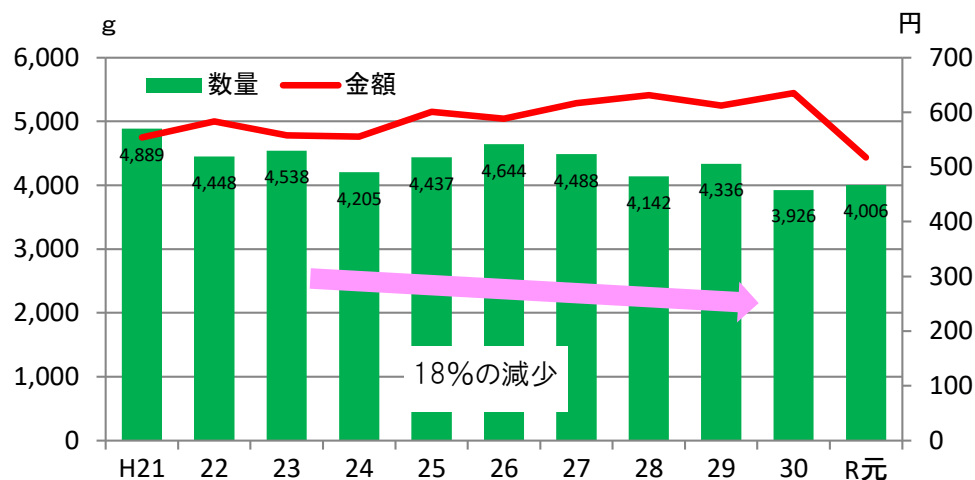
（生鮮だいいこん、冷凍だいいこんは貿易統計上その他に分類されているため、ここでは植物防疫の検査数量を輸入数量として代用した。そのため輸入価格については不明である。）

- 1人当たり年間購入数量は、平成26年以降減少傾向にあり令和元年は4,006グラム。家庭で漬物を作らなくなり、はくさいなどと並んで消費量の減少が大きく、価格が上がると購入量が少なくなる傾向がある。
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、11.8万トンで平成21年に比べて減少（平成21年比87%）。上位10県では、岩手産が半減する一方、10年前は東京市場にほとんど出荷がなかった鹿児島県（同44922%）及び鹿児島県（同683%）、茨城県（同124%）は増加。

○ 国産だいこんと輸入だいこん（生鮮）の出回り時期

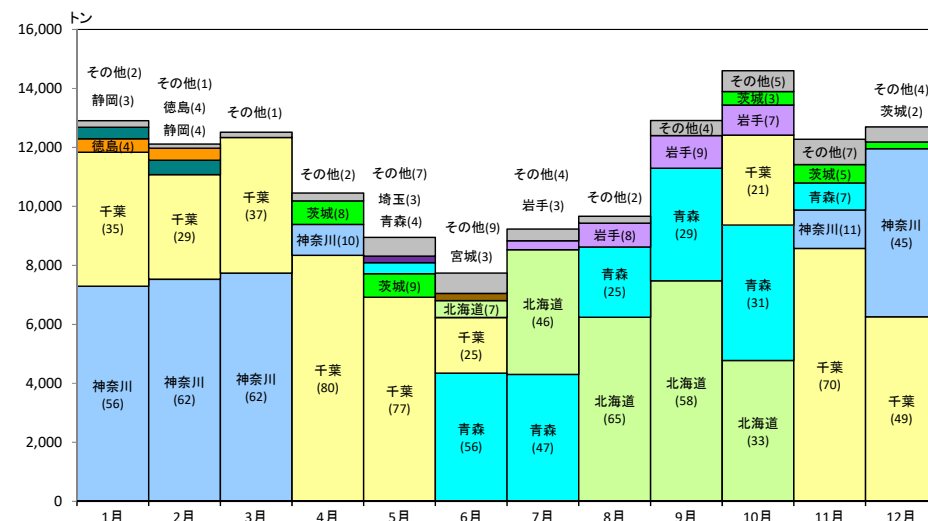


○ だいこんの年間購入数量と購入金額の推移

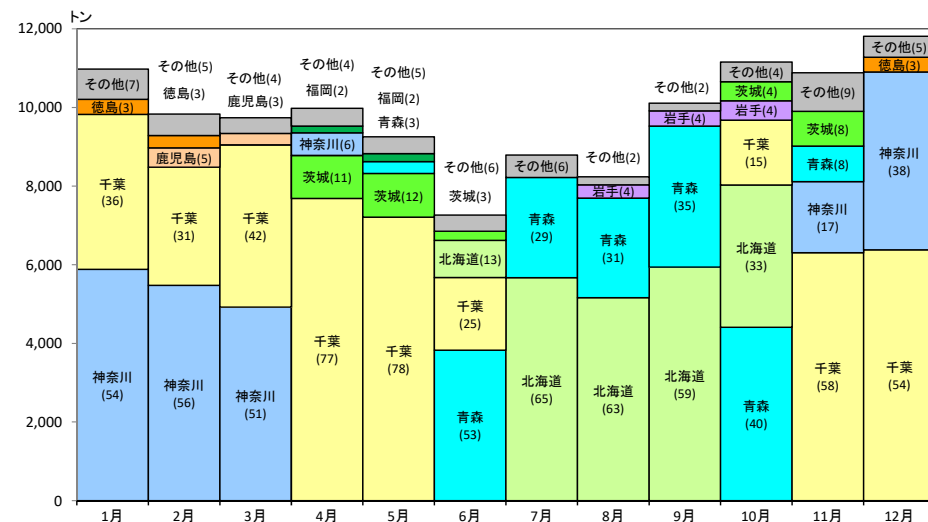


○ 東京都中央卸売市場の入荷量

平成21年



令和元年



- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は84%（9,100ha）、出荷量は90%（46.8万トン）と大きく減少。夏だいこんは、指定産地からの出荷が3分の2以上を占めている。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で29%、出荷量で44%を占める。

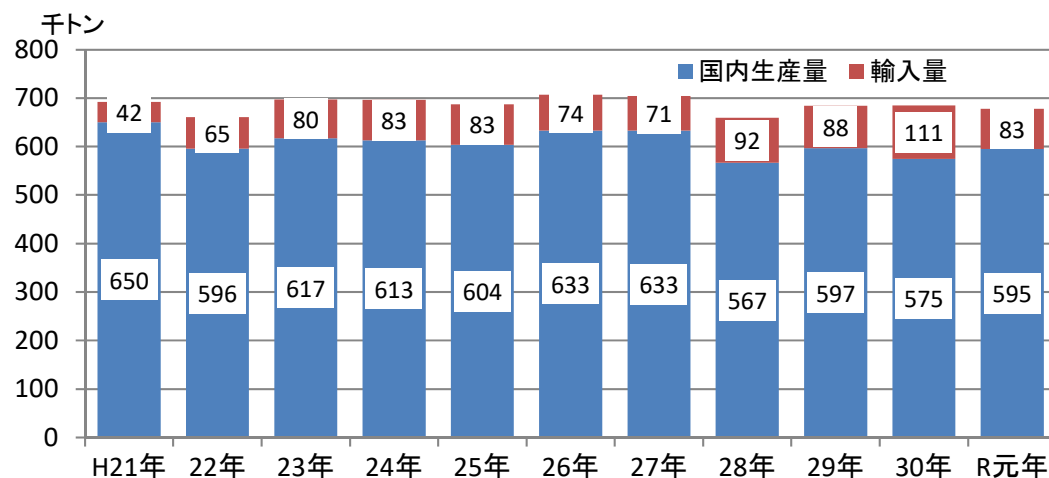
○ だいこんにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年				(単位:ha、t)	
	作付面積		出荷数量			作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地		全国	指定産地	全国	指定産地
春	5,000	(28.0%) 1,400	215,100	(35.6%) 76,500	春	4,350	(28.7%) 1,250	187,000	(37.9%) 70,900
夏	7,170	(62.6%) 4,490	228,500	(73.1%) 167,100	夏	6,050	(60.5%) 3,660	230,900	(68.2%) 157,400
秋冬	24,200	(20.3%) 4,910	806,700	(34.5%) 278,200	秋冬	20,500	(20.4%) 4,190	654,900	(36.6%) 239,900
合計	36,400	(29.7%) 10,800	1,250,000	(41.7%) 521,800	合計	30,900	(29.4%) 9,100	1,073,000	(43.6%) 468,200

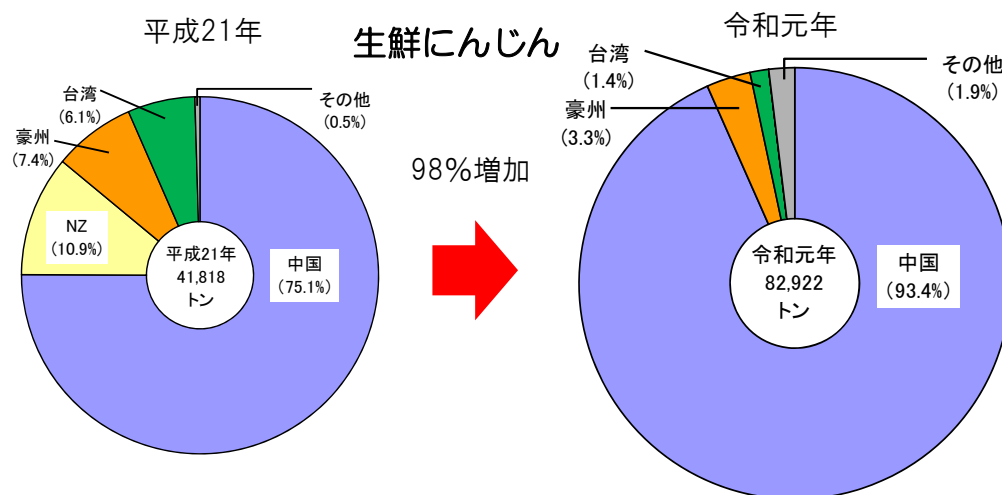
13 にんじん

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、近年横ばい傾向（平成21年69.2万トン→令和元年67.8万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で88%と輸入量の増加により国産の割合が減少傾向（平成21年は94%）。平成23年以降は、毎年8～10万トン程度が加工・業務用として主に中国から輸入されている。
- 国内生産量は減少（令和元年は59.5万トン、平成21年比で92%）。上位5県では、北海道（同110%）及び青森県（同103%）で増加。全国でも多くの都府県で減少している。
- 令和元年の輸入量は8.3万トンで平成21年の198%。平成20年に1月の中国産ギョーザ事案の発生により輸入量が大幅に減少したが、平成22年以降は増加。平成30年は、国産の北海道産、千葉産の不作により輸入量が多かった。

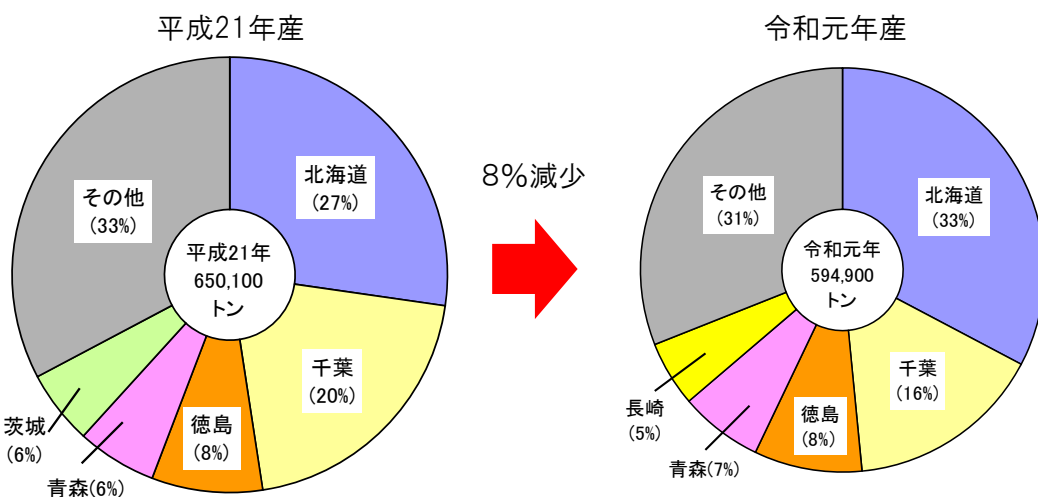
○ にんじんの国内生産量及び輸入量の推移



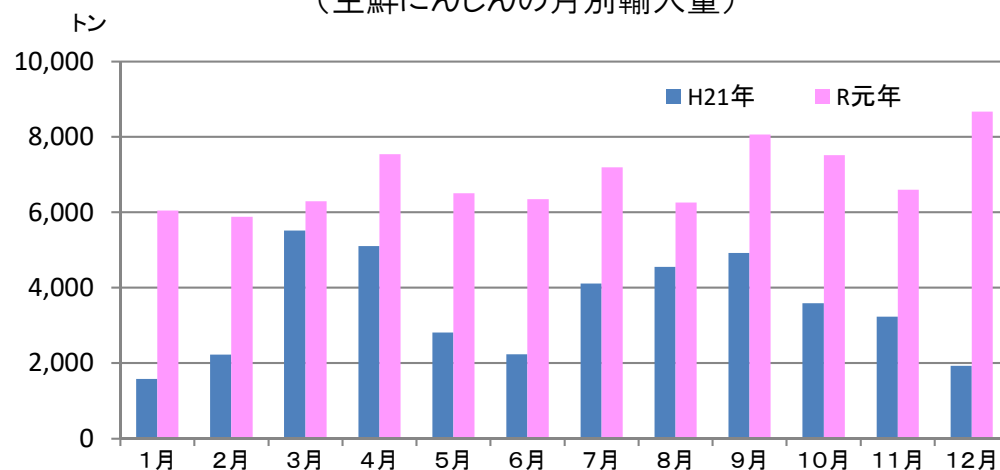
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

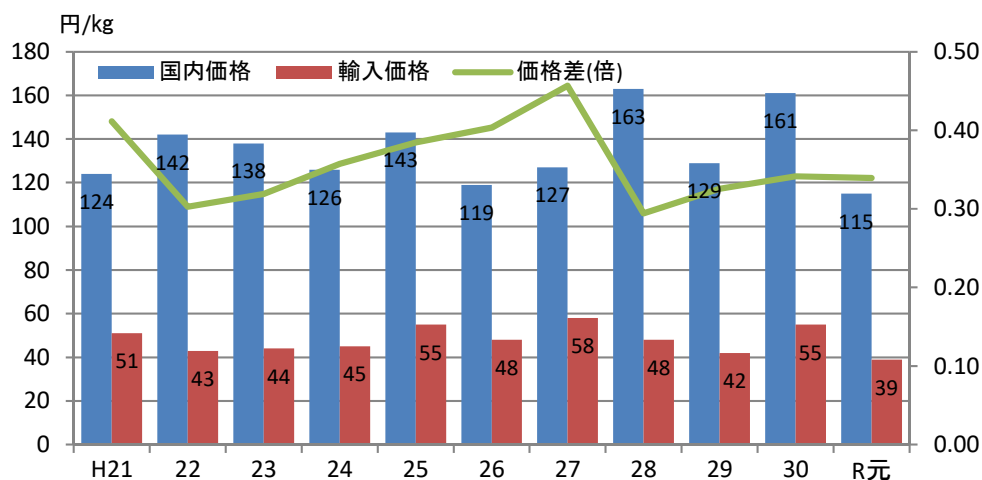


（生鮮にんじんの月別輸入量）

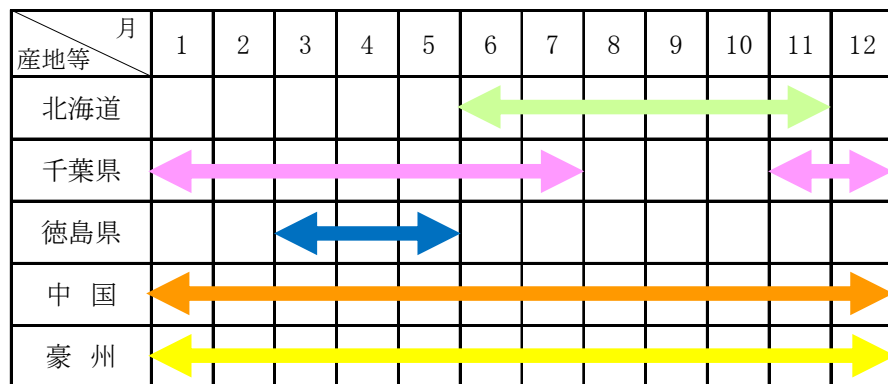


- 令和元年の輸入価格（CIF価格）は39円/kgで、平成28年以降は国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の3割程度。
- 中国産は、太物中心に周年で主に加工・業務用として仕向けられている。
- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、8.7万トンで平成21年に比べてやや減少（平成21年比97%）。上位10県では、10年前は東京市場の出荷が少なかった長崎県（同388%）、徳島県（同116%）及び北海道（同114%）が増加。前年は千葉産及び北海道産の不作で中国産の入荷が多かったが、本年は平年並みとなった。

○ 国産にんじんと輸入にんじん（生鮮）の価格の比較

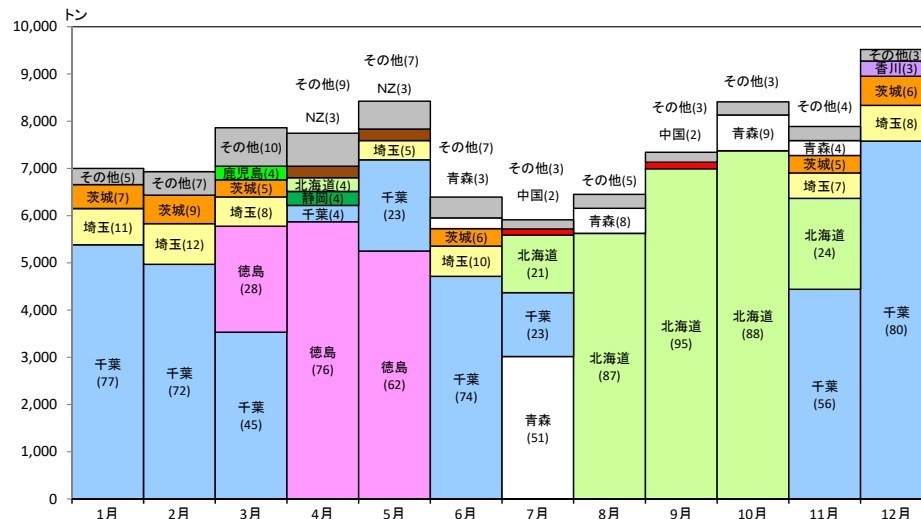


○ 国産にんじんと輸入にんじん（生鮮）の出回り時期

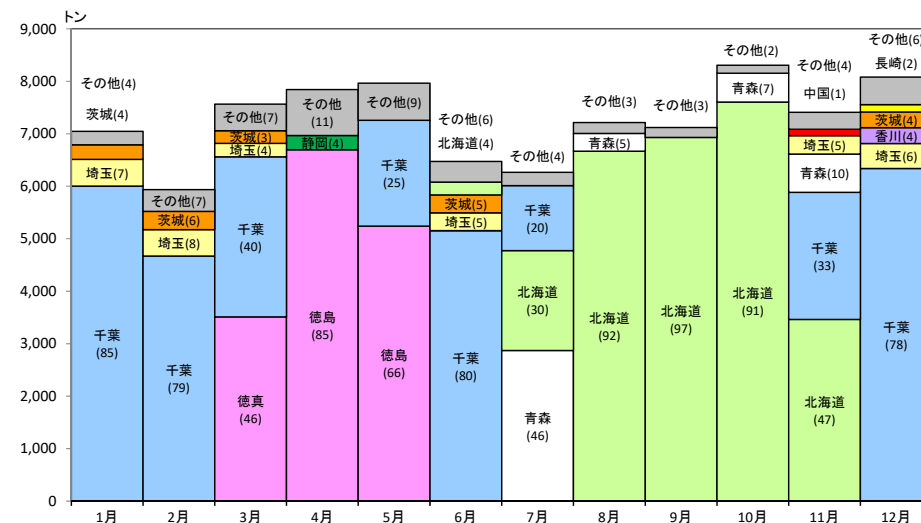


○ 東京都中央卸売市場の入荷量

平成21年

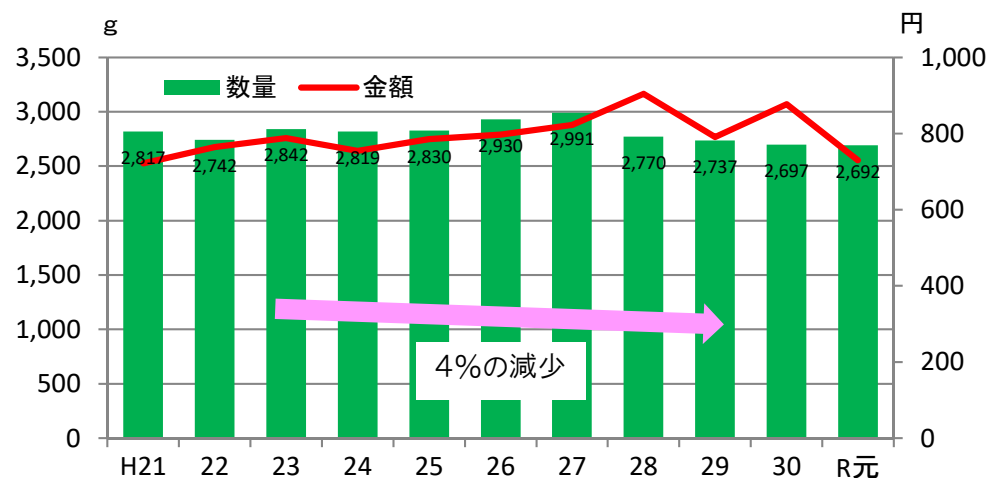


令和元年



- 1人当たり年間購入数量は、平成27年をピークに減少し、令和元年は2,692グラムに減少。価格が高い時は購入量が若干減少するが、にんじんは色々な調理方法があり、家庭において欠くことのできない野菜のため購入量の変動は比較的少ない。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は92%（11,480ha）、出荷量は97%（41.6万トン）とそれぞれ減少。
- 令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で68%、出荷量で75%を占める。

○ にんじんの年間購入数量と購入金額の推移



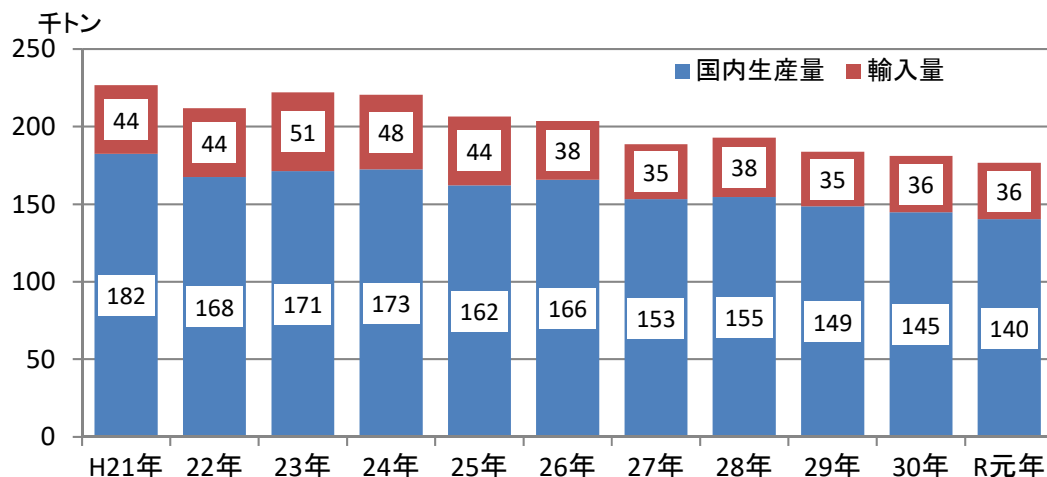
○ にんじんにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年			
	作付面積		出荷数量			作付面積	
	全国	指定産地	全国	指定産地		全国	指定産地
春夏	4,290	(65.0%)	147,200	(75.3%)	春夏	4,150	(68.0%)
秋	6,380	(77.1%)	180,800	(85.1%)	秋	5,370	(78.8%)
冬	8,290	(57.7%)	249,300	(66.9%)	冬	7,520	(58.9%)
合計	19,000	(65.7%)	577,300	(74.7%)	合計	17,000	(67.5%)

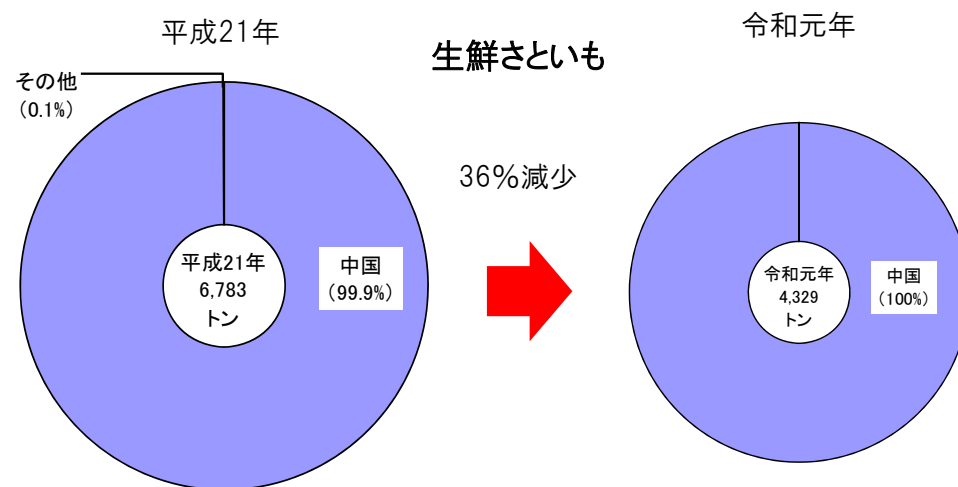
14 さといも

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、年々減少傾向し、令和元年は平成21年に比べて22%減少（平成21年22.7万トン→令和元年17.7万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で80%とここ10年間は8割程度で推移（平成21年は80%）。
- 国内生産量は減少（令和元年は14.0万トン、平成21年比で77%）。多くの県で減少する中、上位5県では、関西地域の主産地である愛媛県（同168%）及び埼玉（同110%）が増加。
- 令和元年の輸入量は、3.6万トンで平成21年に比べ18%減少。特に生鮮さといもの輸入量は36%減と大幅に減少。

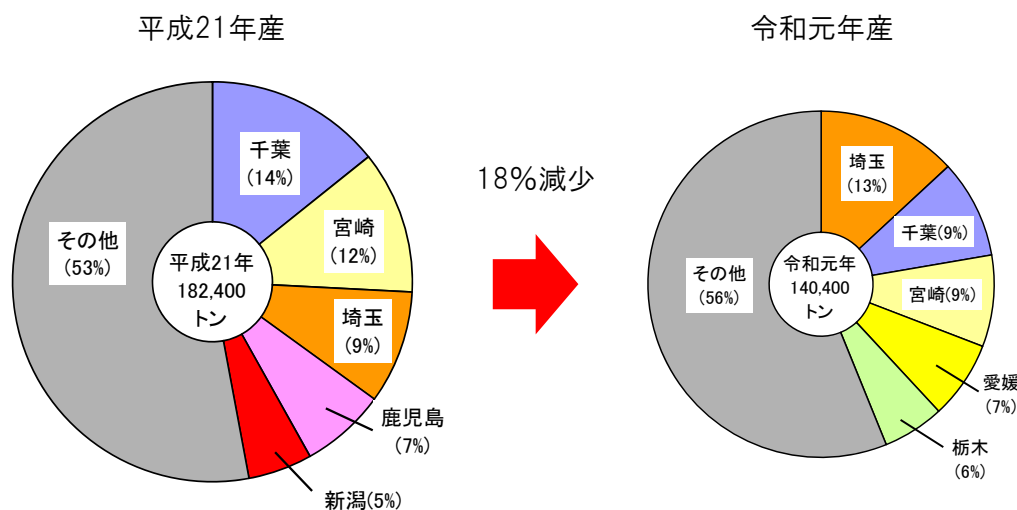
○ さといもの国内生産量及び輸入量の推移



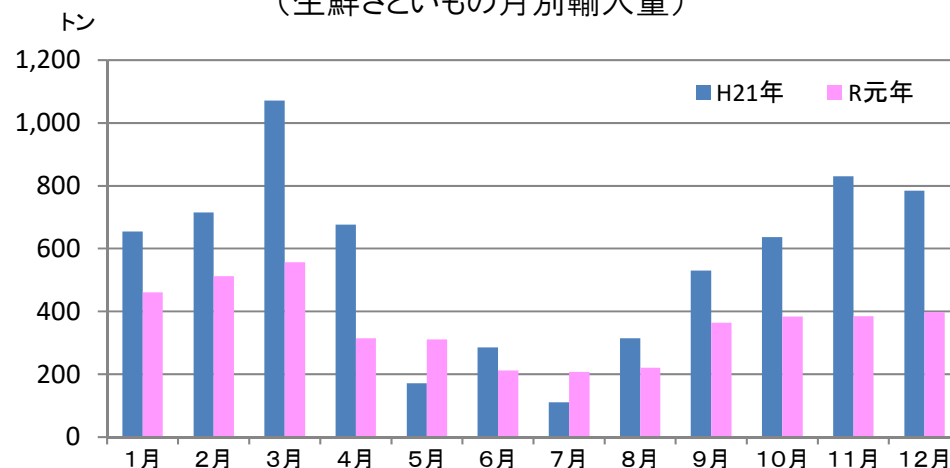
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



○ 国内生産量の比較（平成21年産及び令和元年産）

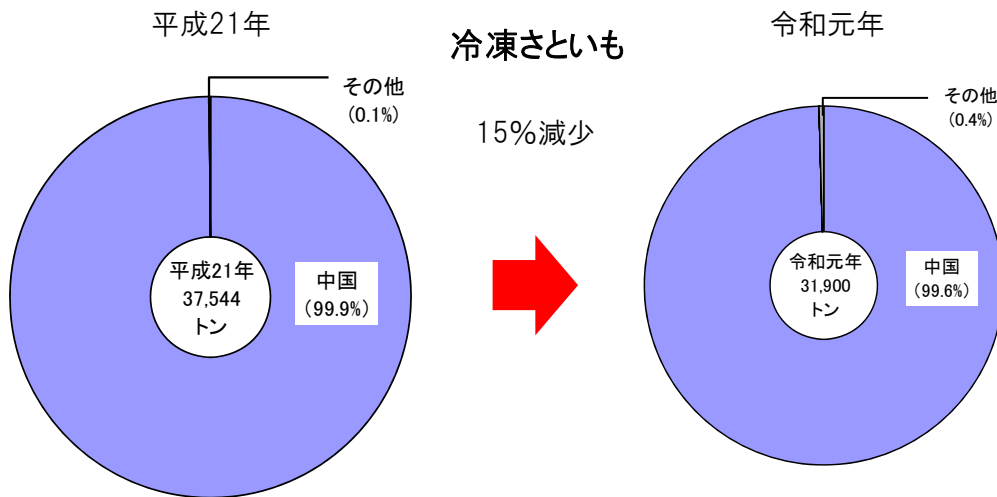


（生鮮さといもの月別輸入量）

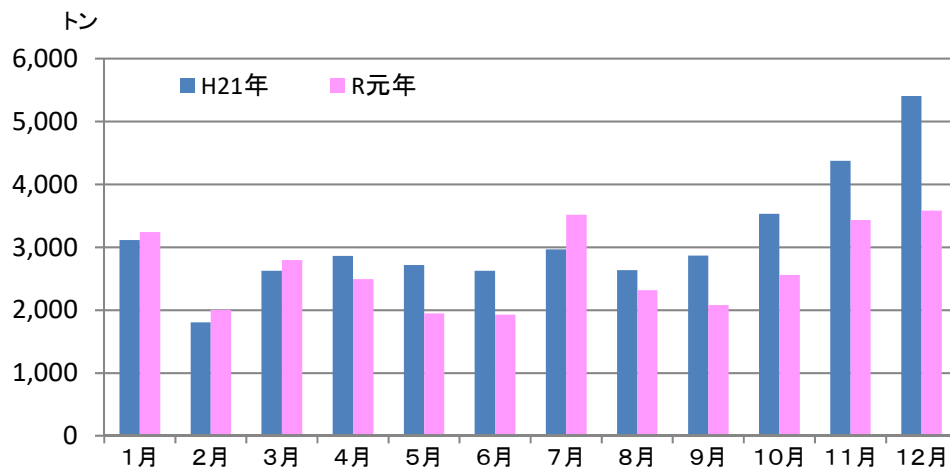


- 令和元年の冷凍さといもの輸入量は3.2万トンで、平成21年に比べて15%減少。中国国内での需要が増加したことも一因と考えられる。
- 令和元年の冷凍さといもの輸入価格（CIF価格）は193円/kgで、近年国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の6割程度。
- 輸入先は、ほぼ中国。中国内の賃金上昇や収穫量の減少による価格上昇等のため、内外価格差が大幅に縮小し、輸入量も減少。平成28年以降は輸入価格も落ち着き、190円/kg前後で推移。

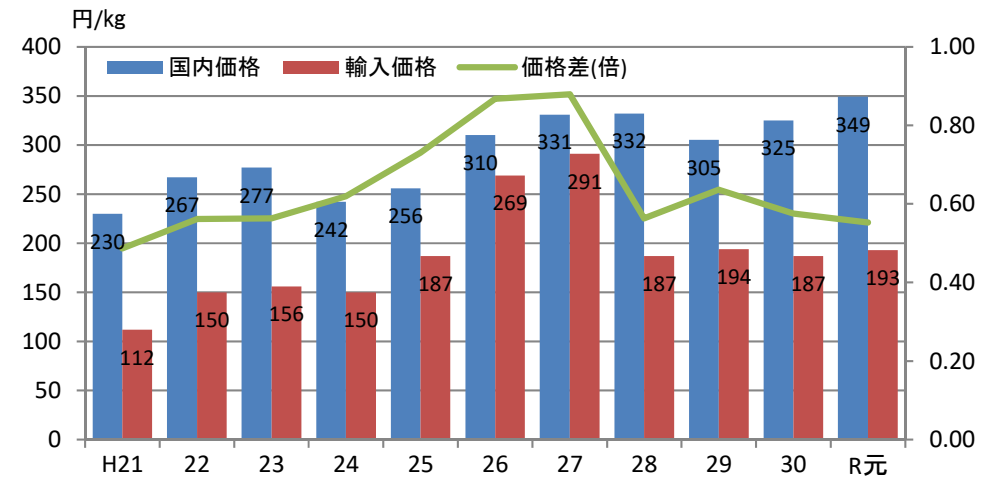
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



（冷凍さといもの月別輸入量）



○ 国産さといもと輸入さといも（冷凍）の価格の比較

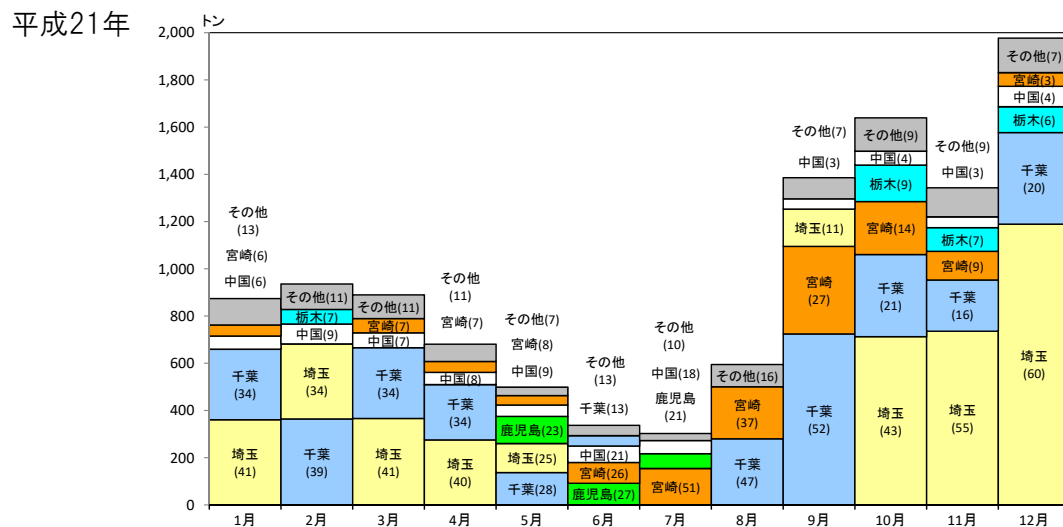


○ 国産さといもと輸入さといも（生鮮・冷凍）の出回り時期

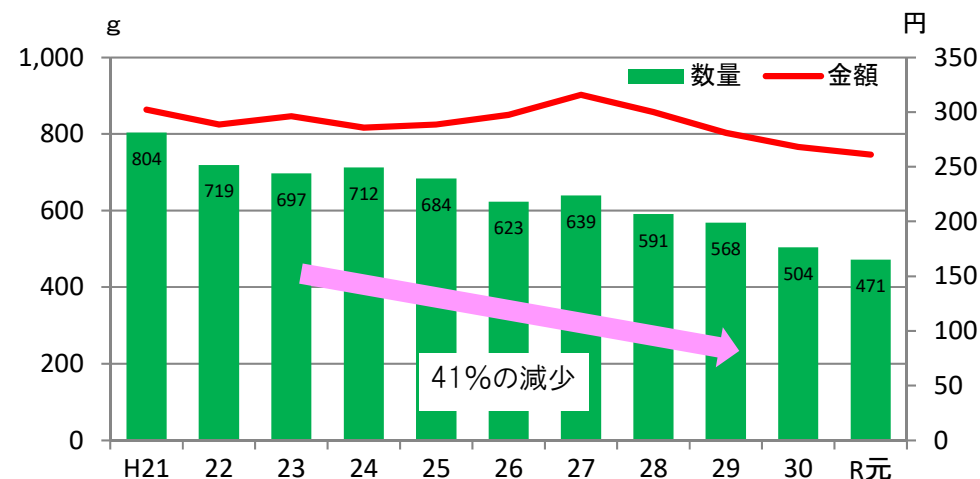
月 産地等	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
埼玉県	←→								←→			
千葉県	←→							←→				
宮崎県	←→						←→					
中国(生鮮)	←→											
中国(冷凍)	←→											

- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、7千トンで平成21年に比べて大きく減少（平成21年比62%）。上位10県では、主産地の千葉県が平成20年に比べて半減、宮崎県が8割減など多くの産地で減少しているが、その中で関西中心の出荷である愛媛県（同302%）及び新潟県（同135%）は大きく増加。
- 1人当たり年間購入数量は、年々減少傾向で平成令和元は471グラム。価格が高めであることに加えて調理に手間がかかること等から、家庭での購入は冷凍さといもや冷凍調理食品などが増加。また、中食で調理食品（惣菜）を購入する傾向がみられる。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は63%（1,210ha）、出荷量は60%（15千トン）と大きく減少。また、令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で11%、出荷量で16%を占める。指定野菜の中で最も低い。

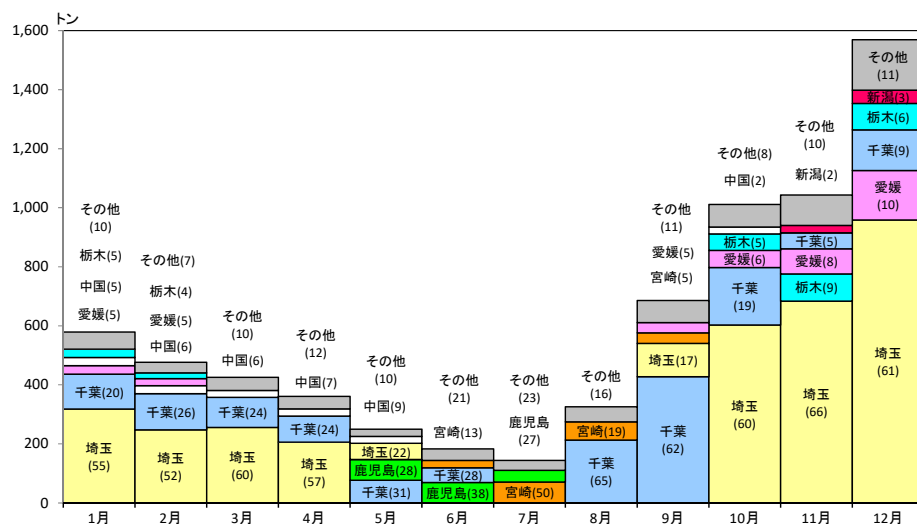
○ 東京都中央卸売市場の入荷量



○ さといもの年間購入数量と購入金額の推移



令和元年

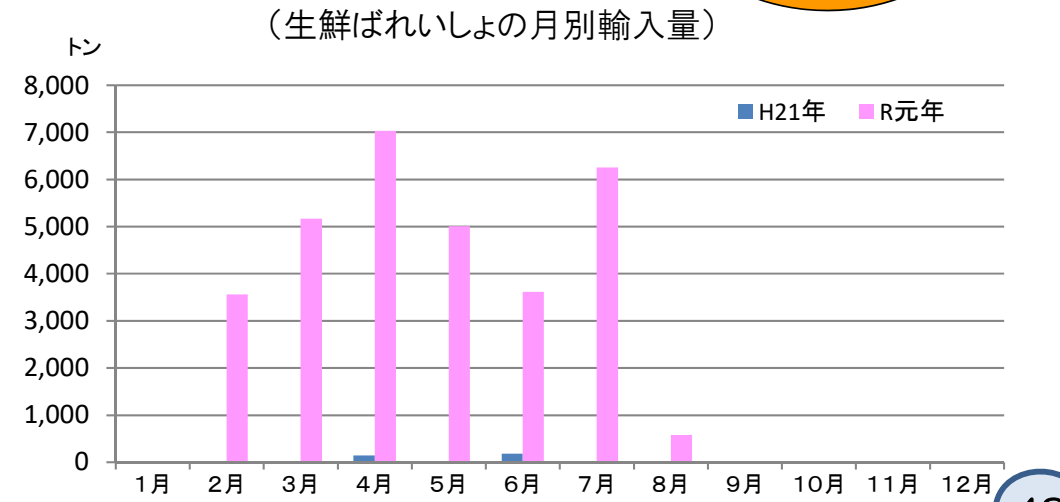
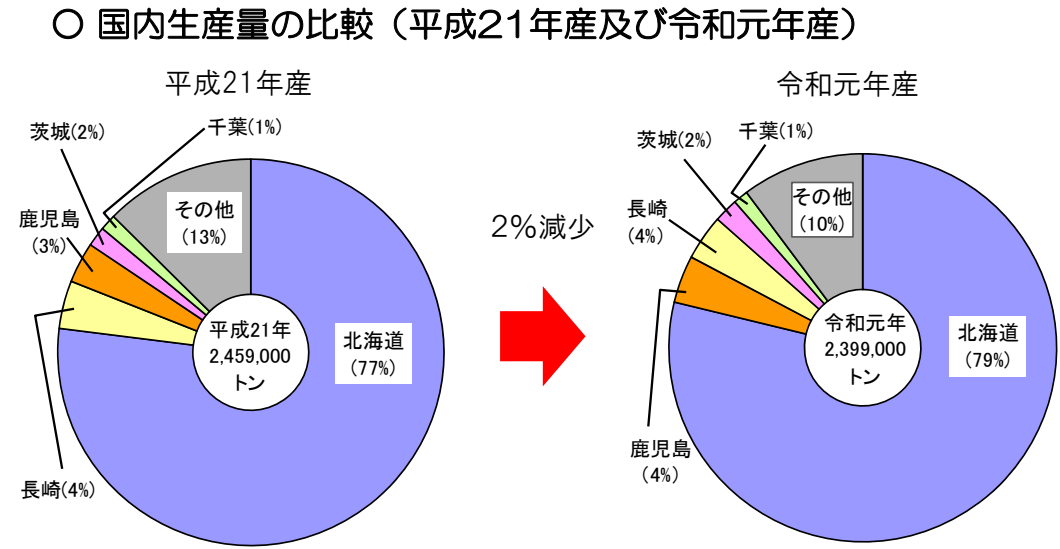
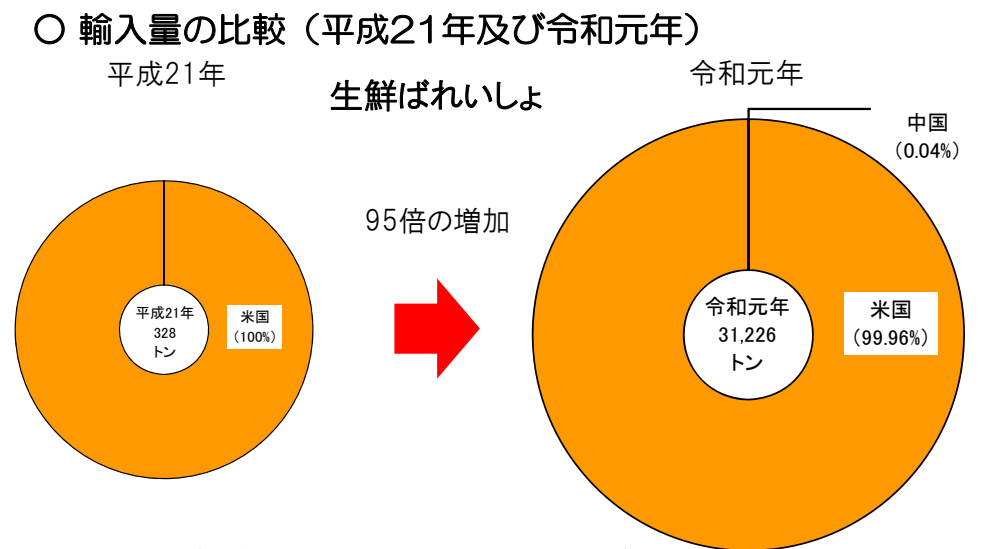
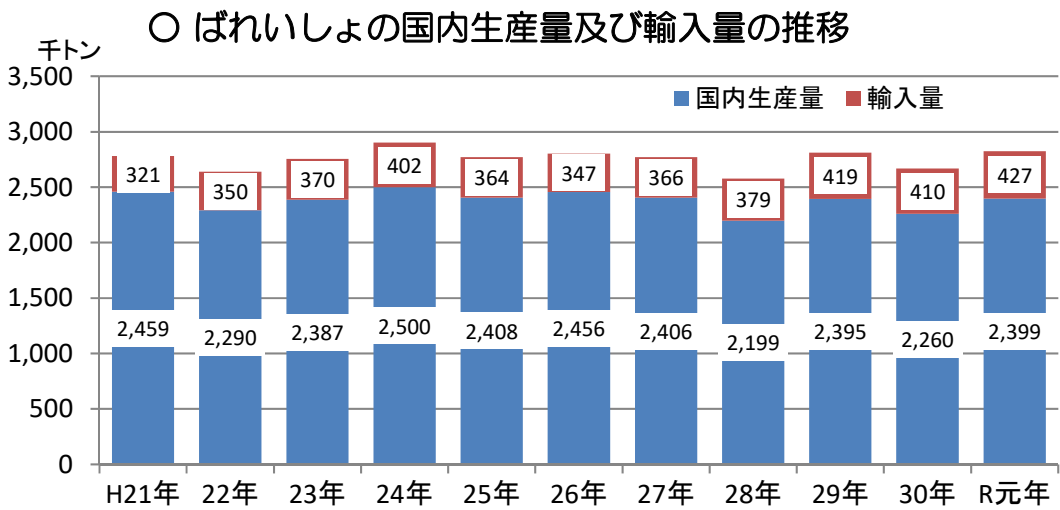


○ さといもにおける指定産地の位置付け

	平成21年		令和元年		(単位:ha、t)			
	作付面積		出荷数量		作付面積		出荷数量	
	全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地
秋冬	14,100	(13.5%)	112,400	(22.3%)	冬春	11,100	1,210	92,100
								15,100

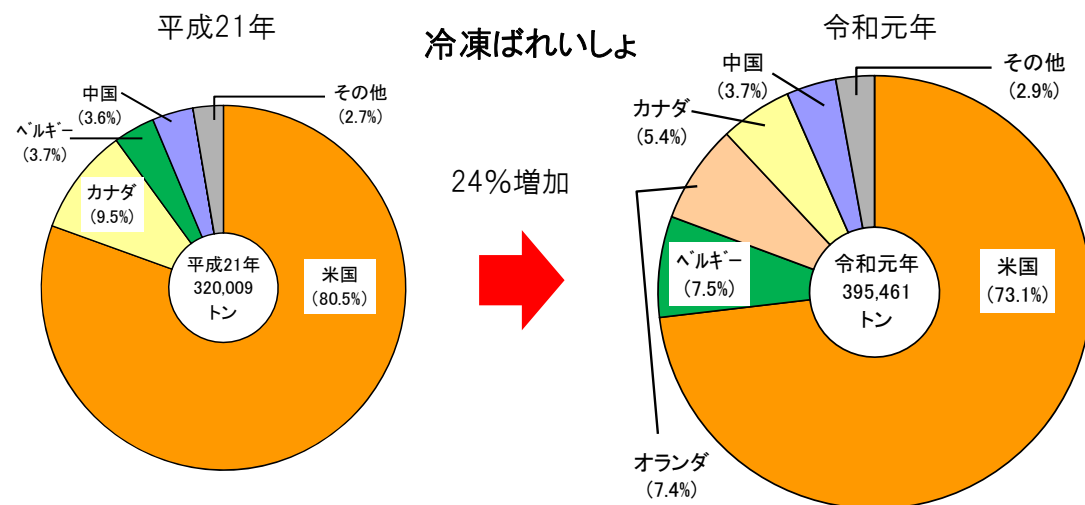
15 ばれいしょ

- 国内供給量（国内生産量＋輸入量）は、年によって増減はあるものの、令和元年は平成21年に比べて2％増加（平成21年278万トン→令和元年283万トン）。
- 国内供給量に占める国内生産量の割合は、令和元年で85％と国産割合が低下（平成21年は89％）。
- 国内生産量は横ばい（令和元年は240万トン、平成21年比で98％）。生産量の8割弱を占める北海道をはじめ多くの県で減少する中、茨城県（同119％）、鹿児島県（同114％）及び熊本県（同105％）の3県のみが増加。
- 令和元年の輸入量は43万トンで、平成21年に比べて33％増加。平成18年の米国産ポテトチップ用ばれいしょの一部輸入解禁に加え、フライドポテトなどの冷凍ばれいしょの輸入が拡大したことが要因。

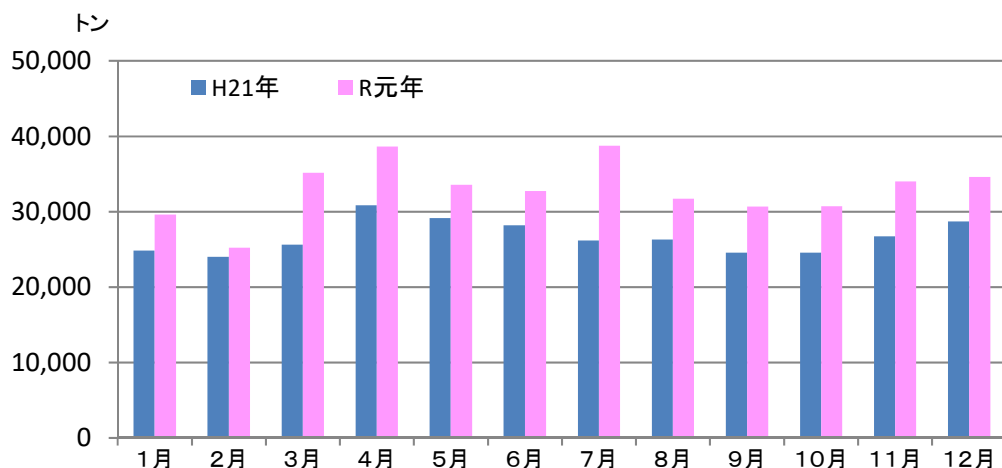


- 令和元年の冷凍ばれいしょの輸入は39.4万トンで、平成21年に比べて24%増加。米国を中心にオランダ及びベルギーから輸入され、ファストフードのフライドポテト等に使用。平成21年に比べてオランダ、ベルギーの輸入量が大きく増加。
- 令和元年の生鮮ばれいしょの輸入価格（CIF価格）は63円/kgで、国内価格（東京都中央卸売市場の卸売価格）の4割～5割程度。主にポテトチップ用として仕向けられており、国産加工用ばれいしょと競合している。

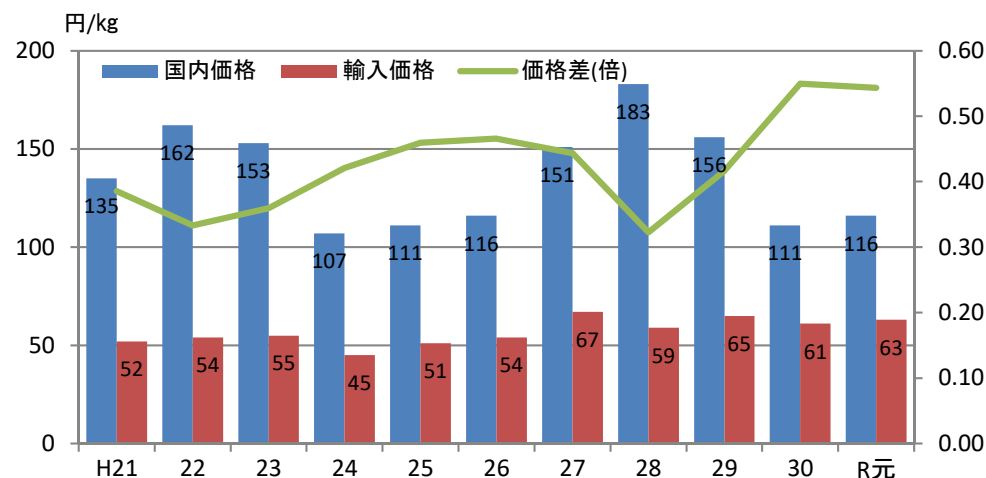
○ 輸入量の比較（平成21年及び令和元年）



（冷凍ばれいしょの月別輸入量）



○ 国産ばれいしょと輸入ばれいしょ（生鮮）の価格の比較

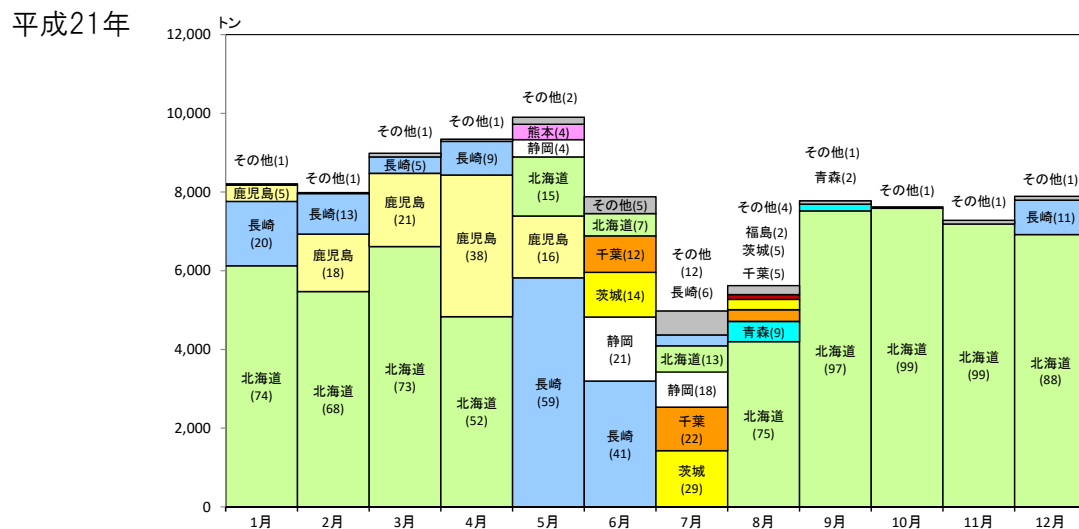


○ 国産ばれいしょと輸入ばれいしょ（生鮮・冷凍）の出回り時期

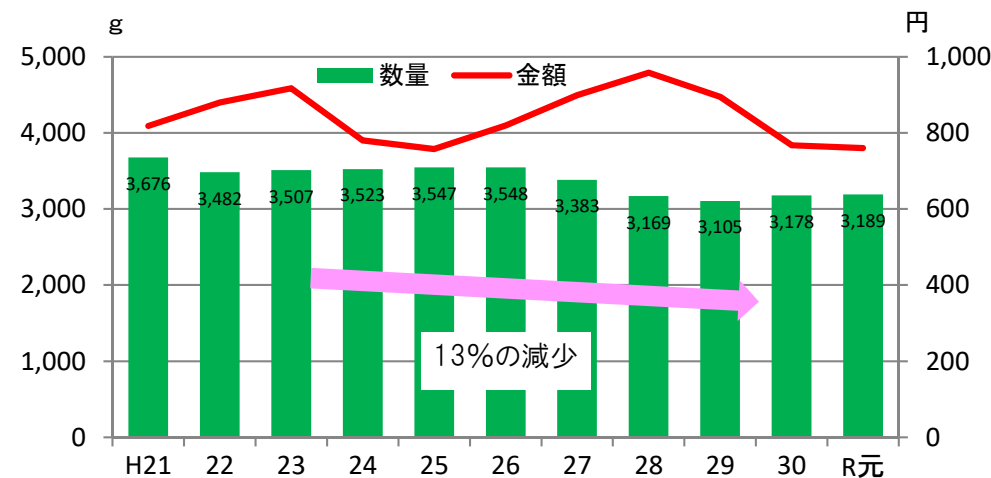
月 産地等	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
北海道	←→						←→					
鹿児島県	←→											
長崎県	←→			←→							←→	
米国(生鮮)		←→										
米国(冷凍)	←→											

- 令和元年の東京都中央卸売市場入荷量は、9.1万トンと平成21年に比べてやや減少（平成21年比97%）。上位10県では、鹿児島県（同175%）、熊本県（同139%）及び長崎県（同115%）と九州の産地が大きく増加。
- 1人当たり年間購入数量は、近年減少傾向で令和元年は3,189グラム。ポテトサラダやフライドポテト（冷凍）の購入量は増加している。
- 指定産地について令和元年を平成21年と比較すると、作付面積は92%（50,400ha）、出荷量は101%（163.6万トン）。令和元年の指定産地の全国シェアは、作付面積で68%、出荷量で81%を占める。出荷数量の割合は、指定野菜の中でも高い。

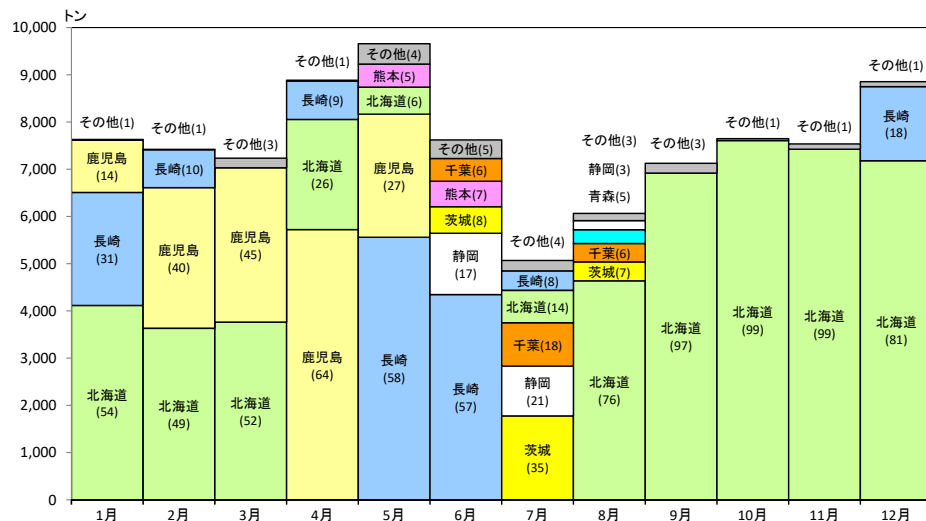
○ 東京都中央卸売市場の入荷量



○ ばれいしょの年間購入数量と購入金額の推移



令和元年



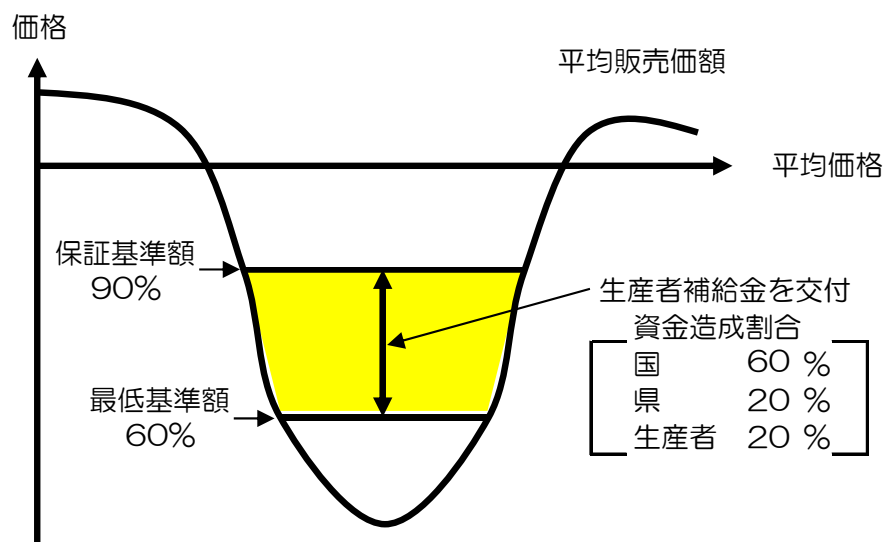
○ ばれいしょにおける指定産地の位置付け

平成21年				令和元年			
作付面積		出荷数量		作付面積		出荷数量	
全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地	全国	指定産地
83,100	(65.8%)	2,001,000	(80.8%)	74,400	(67.7%)	2,027,000	(80.7%)
	54,700		1,617,000		50,400		1,636,000

(参考) 野菜価格安定制度の概要 (昭和41年創設)

- 指定野菜(14品目)を消費地に安定供給する集団産地を「野菜指定産地」(全国で893産地)に指定し、生産者・県・国が積み立てた資金をもとに、指定産地から出荷された指定野菜の販売価格が過去6年平均の90%を下回った場合にその差額の9割を生産者補給金として交付。
- 野菜指定産地は、毎年、野菜の種別・出荷期間ごとに応じた「供給計画」を策定し消費地への安定出荷に取り組むとともに、天候不順等により主要露地野菜(キャベツ、はくさい、レタス、たまねぎ、はくさい、にんじん)の価格が著しく低落した場合は、早取りによる出荷の前倒し、出荷の後送り、加工用販売、フードバンクへの提供、一時保管、土壌還元等の緊急需給調整を実施。

○ 野菜価格安定制度の仕組み



※ 指定野菜(14品目)

キャベツ、きゅうり、さといも、だいこん、トマト、なす、にんじん、ねぎ、はくさい、ピーマン、レタス、たまねぎ、ばれいしょ、ほうれんそう

○ 野菜指定産地による需給・価格安定対策

平時	・ 生産者供給計画の作成(計画と実績の乖離に応じて生産者補給金を減額)
価格高騰時	・ 出荷の前倒し、計画出荷要請・勧告(国・県)
価格低落時	・ 出荷の後送り、加工用販売、フードバンク、一時保管、土壌還元 ・ 生産者補給金の交付(農家経営安定による次期作の確保)

○ 野菜指定産地の位置付け

	全国 (A)	指定産地 (B)	(B)/(A)
指定野菜の出荷数量	929 万t	637 万t	69%
指定野菜の作付面積	31 万ha	17 万ha	54%
指定野菜の収穫農家戸数(延べ)	110 万戸	13.9 万戸	13%
野菜農家の経営規模(1戸当たり)	指定産地外 0.16ha	指定産地 1.2ha	約8倍

出典：「令和元年野菜生産出荷統計」、「2015農林業センサス」